



非正規職シングル女性の 社会的支援に向けた ニーズ調査報告書



2016年3月

公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会

一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会

公立大学法人 福岡女子大学 野依智子

はじめに

本調査は、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会、一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会、公立大学法人福岡女子大学教授野依智子氏の3者により、非正規職で働くシングル女性の仕事と生活の実態を明らかにするために実施したものである。

近年、男性の非正規労働者が増加していることが指摘され、社会問題化している。こうした状況を受け、若年非正規労働者についての調査や、壮年非正規労働者についての調査は実施されているが、今回対象とした非正規職で働く壮年のシングル女性に絞った調査は前例がない。

女性の過半数が非正規労働者として働いている事実は、早くから知られていた。しかし、女性は「家族（父親や夫）に扶養される存在」であって、自ら「家計補助的働き方（非正規雇用）」を選択していると見なされ、社会問題化しなかった。男性も女性も一人の労働者として等しい存在であるにもかかわらず、「家族を養い、家計の主たる稼ぎ手である男性の非正規雇用」は問題であるが、「家族（父親や夫）に包摂される女性の非正規雇用」は問題ではないと、社会から見過ごされてきたのである。しかし、社会情勢は大きく変化し、生涯未婚率の上昇に伴って、家族に包摂される女性は減少し続けている。経済的自立をめざして働いているのに生活できない。男女共同参画センターの支援の現場でも、そんな声が聞かれるようになった。そこで、これまで女性に寄り添ってきた男女共同参画センターとしての立場から、可視化されてこなかった当事者の実像に迫り、その実態を明らかにするとともに、支援ニーズを把握するために調査を行った。

本調査は、調査依頼を広めていく活動そのものが問題を伝え、キャンペーンとなることを意図して実施した。ウェブアンケート調査の告知は、横浜市、大阪市、福岡市を中心に行ったが、インターネットを活用した調査ということもあり、上記3都市在住者以外からも回答が寄せられ、小規模ながら261人の有効回答を得ることができた。グループインタビュー調査については、いずれも大都市である横浜市、大阪市、福岡市において実施した。したがって、今回の調査で把握したのは、主に大都市圏で生活する非正規職シングル女性の声であり、必ずしも地方で生活する当事者の仕事と生活についての実態と支援ニーズまで把握できているとはいえず、別途の調査が待たれる。

一人ひとりの声に耳を傾けるかたちで調査を実施した結果、ウェブアンケート調査やグループインタビューからは、年代や働き方により暮らしぶりや困りごとなどが大きく異なることが鮮明になり、これまで社会に知られることのなかった当事者のさまざまな想いを伝えるさきがけとなった。今回は、3都市における手探りの調査ではあったが、社会で共有すべき課題を確認する足がかりになったと考える。調査協力者の多くが、「当事者として、まず声を出していこう」と語った。調査実施者としては、当事者の勇気を支えることを基本に、課題解決に向けた今後の取り組みを検討していきたい。

しかし、この問題は男女共同参画センターのみで解決できるものではない。また、非正規職シングル女性の苦しみや悩みは、当事者だけのものではなく、すべての働く人を含む社会全体の問題でもある。本調査は、回答者の数および居住地の範囲が限られており、非正規職シングル女性の全体像を表すまでには至っていない。本報告を機に、社会全体でこのテーマについて考える機

会が広がっていったほしい。そのためにも、国や自治体、研究機関など、しかるべき主体による非正規職シングル女性の課題に迫る大規模な調査が進んでいくこと、また多様な働き方、生き方を反映する統計資料が充実していくことを切に願うものである。

調査にご協力いただいた回答者と関係者のみなさまに、心から御礼申し上げたい。

2016 年 3 月

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会
一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
公立大学法人福岡女子大学 教授 野依智子

目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 背景と目的	1
1 背景	1
2 目的	6
第2節 調査の概要	7
1 調査の全体像	7
2 実施体制	9
第2章 ウェブアンケート調査の結果	10
第1節 ウェブアンケート調査の実施概要	10
1 目的	10
2 実施概要	10
第2節 集計の結果	12
■集計結果の見方	12
1 回答者のプロフィール	13
2 現在の暮らしについて	19
3 仕事について	43
4 今後に向けて	60
第3章 グループインタビューの結果	69
第1節 グループインタビューの実施概要	69
1 目的	69
2 実施概要	69
第2節 グループインタビューの結果	71
1 横浜（首都圏）	71
2 大阪（近畿圏）	76
3 福岡（九州圏）	79
コラム ■声なき声を拾っていくこと	81
第4章 調査結果の考察	82
第1節 ウェブアンケート調査結果の考察の視点	82
第2節 着目した4つの視点	84
1 世代への着目	84
2 就業形態（働き方）への着目	86
3 暮らし方・生き方への着目	88
4 所得への着目	91
第3節 グループインタビュー結果の考察	92
1 “グループ”の効果とフェミニスト・アクション・リサーチ	93
2 からみあう課題と、性別役割分業による弊害	93
3 課題解決のために「つながる」「声をあげる」必要	94
コラム ■あらゆる手立てを考え、取り組んでいきたい	95
第4節 調査結果考察のまとめ	96

第5章 課題解決に向けて	99
第1節 検討委員等による提言	99
1 「男性稼ぎ主」モデル崩壊後の、新たな女性の問題（野依智子）	99
2 非正規職シングル女性をめぐる、3つの不公平と3つの提言（鈴木晶子）	100
3 安心で安全な場づくり、そして社会通念の変革を！（錦戸かおり）	101
第2節 検討結果のまとめ	103
1 当事者が望む3つのこと	103
2 社会的支援の土台は社会構造の把握と提言・発信	104
おわりに	105
資料編	106
1 調査の検討・告知の経過	106
2 ウェブアンケート調査票	108
3 グループインタビュー同意書	112

第1章 調査の概要

第1節 背景と目的

1 背景

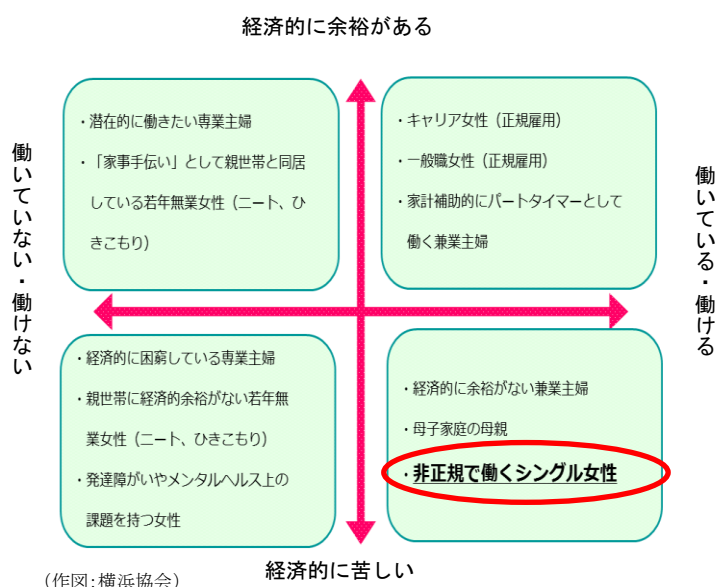
(1) 女性の就業支援事業対象層の見直し

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会（以下、横浜協会）は、1988年の事業開始以来、女性の経済的自立が重要との観点から、女性の就業支援事業を中核的事業と位置づけ、実施してきた。日本の女性の年齢階級別労働力率はいわゆるM字カーブを描いているが、横浜市は全国と比較してもM字の底が深く、労働力率が低い状況にあったことがその理由である。そのため、横浜協会では、結婚や出産を機に退職した女性の再就職支援事業からスタートし、働いている女性を対象としたスキルアップやリーダーシップの講座、女子学生のキャリア形成支援、育児休業取得者のための職場復帰準備講座など、女性のキャリア形成や継続就業に資する事業を展開してきた。さらに2003年からはシングルマザーの就労支援、2009年からは働きづらさや生きづらさを抱える若年無業のシングル¹女性向け就労支援（以下、“ガールズ”支援事業）など、より困難な層を対象とした事業を開始している。

このように、横浜協会では社会経済状況の変化を受けて、就業支援事業の対象層を広げてきた。しかし近年、事業の参加者層に変化がみられるようになってきた。たとえば、再就職支援事業の参加者は、子育てが一段落した既婚女性ばかりではない。受講直前まで就労を続けてきた女性や、子のいないシングル女性の参加が増えている。また、“ガールズ”支援事業では、対象年齢を超えた40歳以上のシングル女性からの問合せが少なくない。

こうした参加者層の変化を受け、横浜協会では、就業支援事業の対象層について見直しを行った。右図は、縦軸に「経済状況」、横軸に「就労（可能）状況」をとったマトリックスである。このマトリックスの中で、支援ができていない層として浮かび上がってきたのが、「非正規で働くシングル女性」（以下、非正規職シングル女性）である。なかでも、若年層にあてはまらず、無業でもなく、シングルマザーでもない（子の

◆女性の就業支援事業の対象層



¹ 結婚していない状態を指す名称は「独身」、「未婚」、「無配偶」等があるが、本報告書においては、基本的に「シングル」とする。

第1章 調査の概要

いない)、壮年期(35～44歳)以降の非正規職シングル女性については、他に支援策がなく、支援ニーズが高いと思われた。

一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会(以下、大阪協会)は、1993年の事業開始以降、女性のエンパワメントの視点で、女性の就業支援事業に取り組んできた。近年は横浜協会と同様に、生活困難を抱えた女性への支援を積極的に進めてきた。

女性の就業を応援する事業は、横浜協会や大阪協会に限らず、全国の男女共同参画センター・女性関連施設や、自治体等の労働行政担当部署において、さまざまに行われている。また、2013年には、政府の成長戦略として「女性の活躍」が掲げられるようになった。しかし、これらの施策は「待機児童解消」や「子育て女性の再就職支援」、「女性管理職の登用」等が主である。こうした支援事業の対象として重きがおかれるのは既婚で子どものいる女性か、正社員で働いている女性であり、非正規職シングル女性の状況は見えづらく、支援の対象として光が当たっていない。

(2) シングルの女性非正規労働者の増加

総務省「労働力調査(基本集計)」(2014年)によると、1990年に881万人だった非正規労働者は、2014年に1,962万人と2倍以上になっている。また、同調査によれば「役員を除く雇用者」のうち、非正規労働者の割合は、37.4%となっており、働く人の3人に1人は非正規労働者である。これを男女別にみると、男性の雇用者のうち非正規労働者の割合は21.7%であるのに対して、女性の雇用者のうち非正規労働者の割合は56.6%と半数を超えている。また、非正規労働者1,962万人の内訳をみると、男性が630万人(32.1%)、女性が1,332万人(67.9%)となり、非正規労働者の約7割を女性が占めている。さらに、これを20～59歳に限ってみると、総数1,404万人に対して女性は1,063万人で75.7%にのぼり、非正規労働者の実に4人に3人が女性である²。

一般に、女性の非正規労働者というと、既婚女性のパートタイマーか若年層のフリーターがイメージされることが多い。とくに35～44歳層の女性非正規労働者は、既婚女性が大多数を占めるとみられてきた。しかし、実際はどうだろうか。

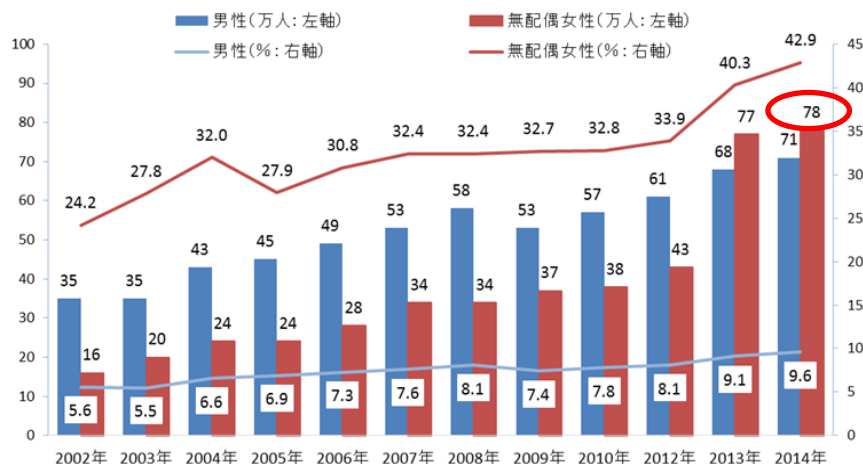
独立行政法人労働政策研究・研修機構(以下、JILPT)は、「壮年期の非正規労働—個人ヒアリング調査から—」(2013年)、「壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究—現状分析を中心として—」(2014年)等において、バブル経済崩壊後に「就職氷河期」が到来し、若年非正規労働者の増加が問題視されてから20年以上が経ち、40歳前後の非正規労働者が増加していることを指摘している。また、35～44歳層の非正規労働者の中でも、男性とシングル女性の壮年非正規労働者の数・割合がともに増加していることを明らかにした(次頁図)。

2014年の35～44歳層の女性非正規労働者数は325万人³であるが、次頁図では、そのうちシングル女性(配偶者との離死別を含む)の非正規労働者数は78万人で全体の約24%にあたる。未婚女性に限った場合でも52万人にのぼり、2002年の16万人(未婚のみ)と比べても3倍以上に増加している。このように、非正規労働者に占めるシングル女性の数・割合がともに増加傾向にあることは無視できない事実である。

² 総務省統計局「統計 Today No.97」

³ 「労働力調査(基本集計)」(2014年)

◆男女・婚姻状態別にみた壮年非正規雇用労働者数・割合の推移



出所: JILPT「壮年非正規雇用労働者の仕事と生活に関する研究報告—就職氷河期から『20 年後』の政策課題—」(2015 年 10 月)
<http://www.jil.go.jp/institute/reports/2015/0180.html>

注1: 女性については、2012 年までは「未婚女性」、2013 年以降は離別・死別を含む「無配偶女性」である。

注2: 在学中の者は除いている。

【参考】未婚女性(ただし、在学中の者を含む): 総務省「労働力調査」2013 年 10～12 月平均 51 万人、2014 年 10～12 月平均 52 万人

女性の非正規労働者は、積極的に非正規労働を選択しており、正規雇用をめざしている者は少ない、と説明されることが多い。たとえば、総務省「労働力調査(詳細集計)」(2014 年)では、非正規労働者が非正規の仕事についての主な理由で最も多いものとして、男性は「正規の職員・従業員の仕事がないから」(27.9%)、女性は「自分の都合のよい時間に働きたいから」(26.3%)をあげている。また、「平成 26 年度版 男女共同参画白書」では、非正規労働者が現職についている理由として、「女性が、柔軟な働き方といった非正規の職員・従業員の利点に注目している割合が高いのに対して、男性には、正規の職員・従業員を標準的な雇用形態としてとらえる傾向があることがうかがわれる」、「女性を年齢階級別にみた場合も、『都合のよい時間に働ける』や『家計の補助・学資等を得たい』が第 1 位となっており、『正社員として働ける会社があった』は全般として理由の上位にあげられていない」などと説明されている。

しかし、厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」(2014 年)によると、正社員以外の労働者が現在の就業形態を選んだ理由として、男女ともに最も高い割合を占めたのは「自分の都合のよい時間に働けるから」(男性 32.8%、女性 40.6%)であった。また、「正社員として働ける会社があったから」と回答している者(いわゆる“不本意非正規”)の割合は全体で 18.1%、男性では 22.8%、女性では 15.6%である。男性よりは少ないものの、すべての女性が自らの希望で非正規職を選んでいるのではない。

「労働力調査」(2014 年)では、非正規労働者が非正規の仕事についての主な理由として、男性の 27.9%が「正規の職員・従業員の仕事がないから」を選択したと述べたが、女性ではこれを選択した者が 13.6%と少ない。しかし、これを実数でみると男性の 160 万人に対し、女性は 171 万人にものぼっている。つまり、不本意非正規労働者の半分以上は女性だということがわかる。非正規労働者の 7 割は女性という現状からすれば、この数字は当然のことといえる。しかしながら、男性を上回る数の女性非正規労働者が“不本意非正規”であるという事実は知られていない。

(3) 女性の貧困

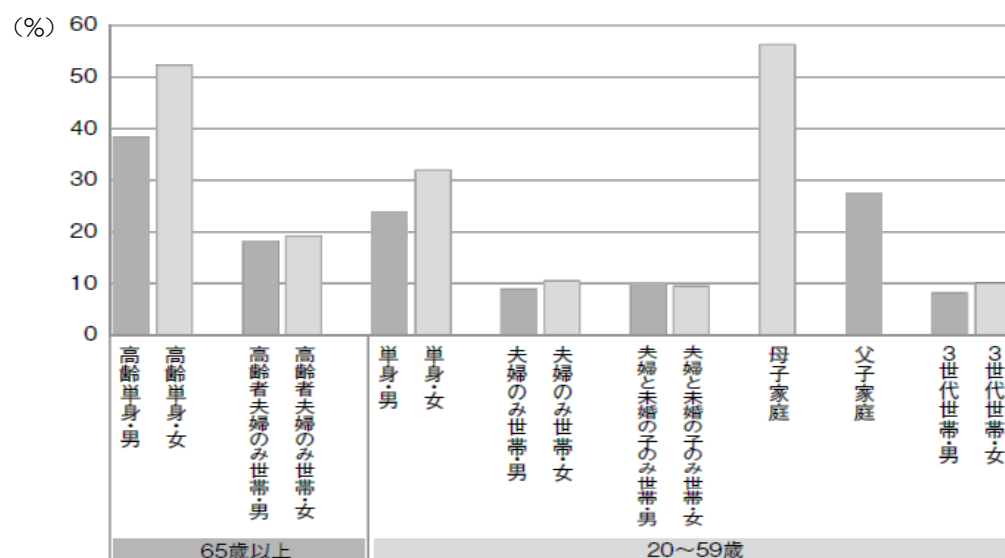
次に、女性の貧困についてみていく。

国立社会保障・人口問題研究所が、2007 年の「国民生活基礎調査」を基に、相対的貧困率⁴を分析したところ、勤労世代⁵の単身⁶女性の 3 人に 1 人が年収 110 万円以下の貧困状態にあることが明らかになり、2011 年から 2012 年にかけて大きく報道された。これによると、単身女性世帯の貧困率は、勤労世代では約 32%、65 歳以上では約 52%、母子世帯では約 57%と過半数となっている（次図）。

◆年代別・世帯類型別相対的貧困率

（等価世帯所得が全人口の中央値の 50%以下）

2010 年調査では、20～64 歳単身女性の「相対的貧困率」は 32%、同男性 25%



出所：阿部彩「日本の貧困の動向と社会経済階層による健康格差の状況」（2010 年）、内閣府男女共同参画会議監修・影響評価専門委員会「生活困難を抱える男女に関する検討会報告書—就業構造基本調査・国民生活基礎調査特別集計—」（2010 年）
注：2007 年の国民生活基礎調査に基づく。

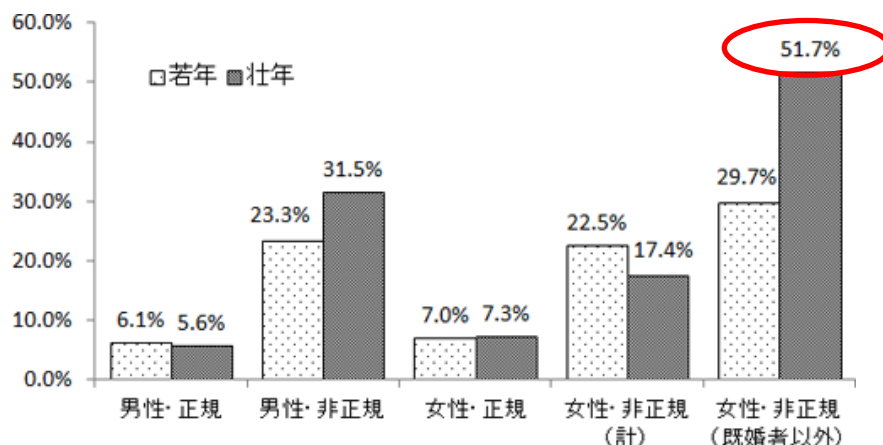
では、非正規労働者の場合はどうだろうか。JILPT の調査研究（2014 年）によると、非正規労働者のうち貧困状態（等価世帯所得の中央値 300 万円の 50%にあたる 150 万円以下の場合を「貧困」と定義）にある者の割合は、若年よりも壮年のほうが高く、壮年非正規の男性は 31.5%、シングルの壮年非正規女性は 51.7%と半数を超えていた（次頁図）。

⁴ 全人口に対する相対的貧困者の割合。OECD（経済協力開発機構）は、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人数の平方根で割って算出）が全人口の中央値の半分未満の世帯員を「相対的貧困者」とした。

⁵ 「勤労世代」の定義は明確ではないが、この調査では 20～64 歳を勤労世代として算出している。

⁶ 「単身」は一人暮らしを指す。

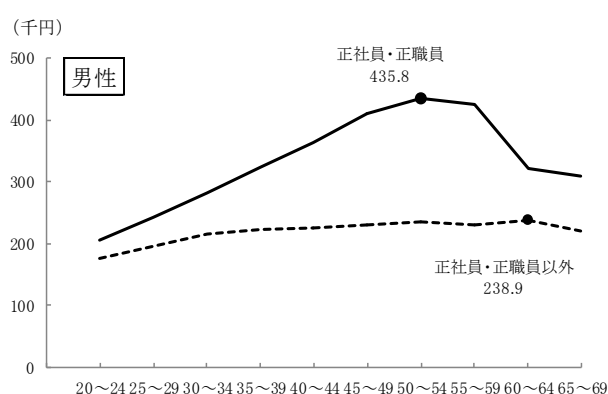
◆正規・非正規労働者の貧困率



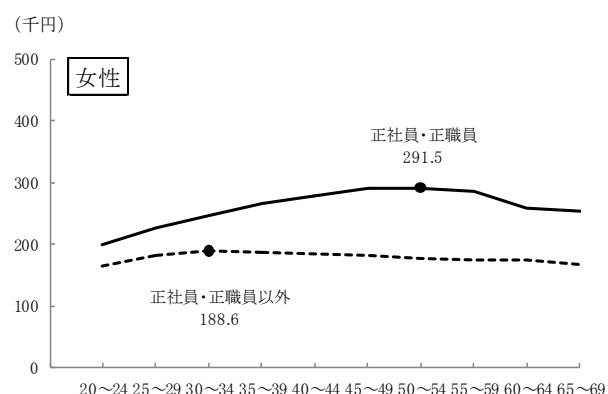
出所：JILPT「労働政策研究報告書 No. 164 壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究－現状分析を中心として－」
p. 152-153、グラフ出所：http://www.jil.go.jp/institute/reports/2014/0164.html

厚生労働省の「賃金構造基本統計調査」(2014 年)によれば、非正規労働者(正社員・正職員以外)の月平均賃金は、20.0 万円である。男女別にみると、男性が 22.2 万円であるのに対して、女性は 17.9 万円と 4.3 万円の差がある。年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が高くなっても賃金がほとんど上昇しない。しかも、男性非正規労働者では賃金ピークが 60～64 歳の 23.9 万円(60 歳以下では 50～54 歳の 23.4 万円)であるのに対して、女性非正規労働者ではどの年齢階級も 20 万円を下回っている。女性非正規労働者の賃金ピークは 30～34 歳で 18.9 万円となっており、35 歳以上では、年齢とともに少しずつ下がっていく(下図)。

◆雇用形態、性、年齢階級別賃金別賃金カーブ※



(歳)



(歳)

出所：厚生労働省「平成 26 年賃金構造基本統計調査」

※賃金カーブとは、年齢(階級)とともに変化する賃金額の状況をグラフで表したものをいう。

線上の●印は賃金ピークを示す。

第1章 調査の概要

一方で、未婚率が上昇の一途をたどっている。2010年の国勢調査によると、35～39歳の未婚率は女性23.1%、男性35.6%である。生涯未婚率⁷は男性20.1%、女性10.6%で、国立社会保障・人口問題研究所の予測では、2030年には女性の生涯未婚率は23%まで上昇すると見込まれている。

以上の調査研究や統計等から、非正規職シングル女性は今後も増え続けることが予想される。なかでも壮年以上の女性の貧困リスクの高さは無視できない。未然に貧困を予防するための支援策を早急に検討していく必要があるのではないか。

2 目的

以上の背景を踏まえ、壮年以降の非正規職シングル女性の仕事や生活の状況、直面している課題や困難、ニーズを明らかにするとともに、有効な支援は何かを分析し、男女共同参画センターにおける新たな事業プログラムの開発に役立てることを目的に、本調査を実施した。



⁷ 45～49歳と50～54歳の未婚率の平均値から、50歳時の未婚率を算出したもの。

第2節 調査の概要

1 調査の全体像

(1) 個別ヒアリング調査（2014年度）

第1節にあげた背景と目的から、非正規職として働く壮年のシングル女性から実際に声を聴き、示唆を得たいと考え、横浜協会では、2014年度に本調査のプレ調査として個別ヒアリング調査を実施した。

調査対象は、就職氷河期が始まったとされる1993年以降に就職活動をした世代に着目し、「神奈川県内（横浜市およびその周辺）に在住し、非正規で働いている35～44歳のシングル女性（シングルマザーを除く）」と設定した。ヒアリングを受ける協力者の募集は、2015年1～2月、横浜協会のホームページ、ツイッター、就業支援関連講座修了者のメーリングリスト等を通じて行い、7人から話を聴くことができた。調査結果は、「非正規で働くシングル女性（35～44歳）のニーズ・課題に関するヒアリング調査報告書」（2015年3月）にまとめた。

結果の概要は次の通りである。

●調査協力者のプロフィール

【居住地域】	横浜市内：4人 横浜市外：3人
【年齢】	35～39歳：2人 40～44歳：3人 45歳～49歳：2人
【学歴】	高校中退・専門学校卒：1人 短大中退：2人、短大卒：1人、大卒：3人
【婚姻歴】	あり：0人 なし：7人
【同居状況】	一人暮らし：2人 同居者あり：5人
【就業形態】	契約・嘱託：2人 パート・アルバイト：2人 非常勤：1人 その他：1人 失業中：1人
【労働時間】	週35時間：3人 週30時間：3人 その他：1人
【手取り月収】	10万円程度：3人 18～20万円程度：2人 その他：2人

●ヒアリング調査結果より

- ・さまざまな雇用形態があり、（肩書きの）名称だけでは待遇が推測できない
- ・一人暮らしできるほどの収入が得られない、厳しい経済状況
- ・不本意な選択としての非正規労働
- ・正規雇用の「経験あり」の者が7人中5人
- ・しかし、正規雇用も解決にならない（体調を崩し休職・退職に追いやられる経験等）
- ・多様な社会資源（相談機関等）の利用経験あり
- ・全員に精神科・心療内科の受診経験あり。年齢とともに健康課題を感じ始めている
- ・より安定した仕事への希望が強いが、実際には課題も多い
- ・今後心配なことは、親の介護（と仕事の両立）
- ・社会の中での孤立、所属がない不安
- ・ほしい支援は、同じような人と出会える場、課題に対応した講座等

ここでは、調査協力者が、雇用と経済不安や自分の健康問題、親の介護、住まい方、孤立などの課題を抱えていることを把握した。同時に、非正規職シングル女性の生活や仕事の実態の悩みは一人ひとり異なることも確認された。一方、ヒアリングの対象者が7人と少なく、就業形態に派遣の者がいなかったこと、一人暮らしの者が7人中2人のみであったこと、全員に精神科・心療内科の受診経験があったことなどから、本調査の結果は必ずしも非正規職シングル女性の全体像を示しているものではないということも推察された。

(2) ウェブアンケート 調査とグループインタビュー (2015 年度)

2014 年度調査の結果を踏まえ、対象者のより具体的な課題および支援策の検討には、より多くのケースから傾向を把握する必要があると考えた。そこで横浜協会は、横浜市と並ぶ大規模な政令指定都市である大阪市と福岡市の調査者の協力を得たいと考え、一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会および公立大学法人福岡女子大学教授の野依智子氏に呼びかけ、3 者共同で調査を行うこととした。

2015 年度調査では、先の調査対象者がさらに年齢を重ねたときの課題を把握するため、年齢幅を 10 歳拡大し、調査対象を「横浜市、大阪市、福岡市を中心とする地域に在住し、非正規職で働いている 35～54 歳で子どものいないシングル女性」とした。また、非正規職には、個人事業主や業務請負など、雇用契約以外の人も含めることとした。

まず、フェイスブックページおよびツイッターアカウント「非正規職シングル女子のしごとと暮らしの研究」を開設して告知を進め、ウェブアンケート調査を実施した。さらに、回答者中の希望者を対象に、データのみでなく生の声を収集し、今後に向けた支援事業等のアイデアを直接聴取するため、対面でのグループインタビューを企画・実施した。アンケート告知や結果報告の発信では、ウェブメディア、各紙媒体の協力を得た。

ウェブアンケート調査の有効回答者数は 261 人、グループインタビューは、横浜、大阪、福岡の 3 都市で延べ 5 回実施し、計 22 人の参加を得た。

●調査の全体フロー

2014 年度

- 個別ヒアリング調査の実施（2～3 月）実施件数：7 人 調査監修者：飯島裕子氏
- 「非正規で働くシングル女性(35～44 歳)のニーズ・課題に関するヒアリング調査」報告書発行（2015 年 3 月）
http://www.women.city.yokohama.jp/admin/pub/content-attached/id/6933/hiseiki_chousa

2015 年度

- 「非正規職シングル女性(35～54 歳)の社会的支援に向けたニーズ調査」開始
- 調査の設計（7～9 月） ●検討会の開催(7 月～翌 1 月、4 回)

- ウェブアンケート調査の実施
プレスリリース（9 月 29 日）
実施（10 月 3 日～30 日）
→有効回答者数 261 人
※グループインタビュー協力者募集

- グループインタビューの実施
（11 月～翌 1 月）
横浜会場：12 人
大阪会場： 4 人
福岡会場： 6 人 計 22 人

- 中間報告のウェブ・リリース（2016 年 1 月 27 日）
- 報告会の開催（横浜：2 月 6 日、大阪：2 月 27 日）
- 調査結果の分析・支援策等の検討 ●報告書発行（3 月）

2 実施体制

(1) 実施主体

実施主体は以下の3者である。

- ・公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会
(担当:植野ルナ、小田美子、小園弥生、白藤香織)
- ・一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会
(担当:岸上真巳、邊見倫子)
- ・公立大学法人 福岡女子大学 教授 野依智子

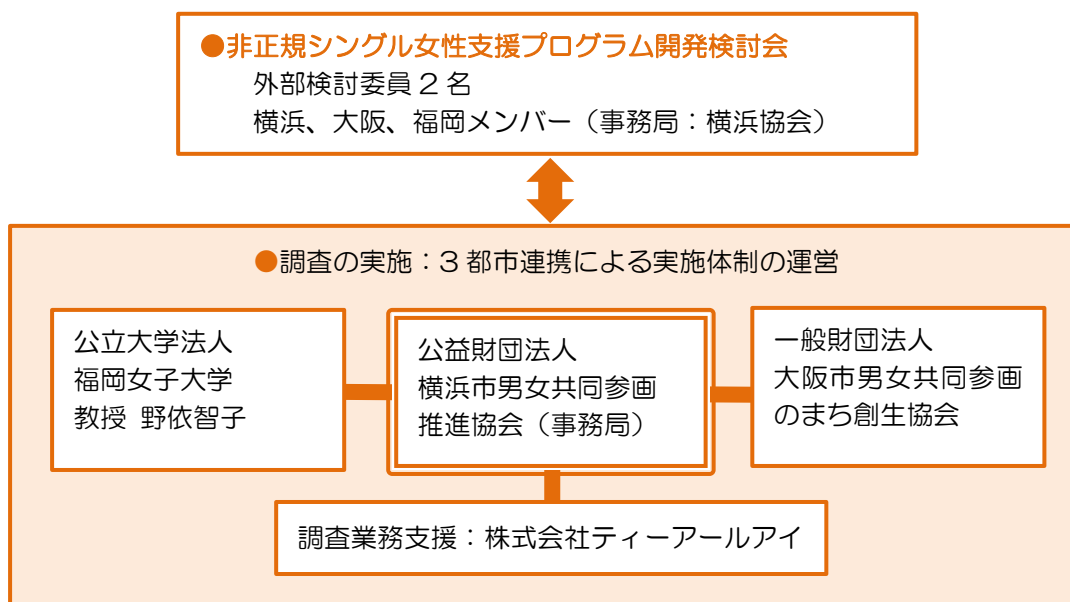
(2) 検討会の開催

調査の設計、結果の分析等を目的として、困難を抱える女性の就業支援に携わってきた有識者を外部委員として迎え、「非正規シングル女性支援プログラム開発検討会」を立ち上げ、4回を開催、運営した（開催状況は、資料編参照）。外部委員は次の2名である。

- ・鈴木晶子氏（一般社団法人インクルージョンネットかながわ代表理事、臨床心理士）
- ・錦戸かおり氏（キャリアカウンセラー）

運営は横浜協会が行った。

●実施体制



(3) 告知活動および調査結果についての報道

ウェブアンケート等の実施、中間報告、調査結果の公表等にあたっては、新聞、テレビ、ウェブマガジン等のメディアおよび実施主体3者のホームページやSNS等を活用し、告知キャンペーン活動やメディア掲載依頼、メディア対応等を行った（詳細は、資料編参照）。

第2章 ウェブアンケート調査の結果

第1節 ウェブアンケート調査の実施概要

1 目的

横浜協会が2014年度に実施した「非正規で働くシングル女性(35～44歳)のニーズ・課題に関するヒアリング調査」(2015年3月報告書発行)では、非正規職シングル女性が、雇用と経済不安や自分の健康問題、親の介護、住まい方、孤立などの課題を抱えているのではないかと推察された。

本調査では、これらについてより多くの対象者からデータを収集することで実証し、より具体的な悩みや課題を浮き彫りにし、さらに社会的な支援策のあり方を具体的に探ることを目的に、多くの当事者の声を把握するために実施した。

2 実施概要

(1) 調査対象

横浜市、大阪市、福岡市を中心とする地域に在住し、非正規職で働いている35～54歳で子どものないシングル女性を対象とした※。

※35～44歳の層がさらに年齢を重ねた時の課題を想定するため、対象年齢を54歳までとした。

※非正規職には、個人事業主や業務請負など、雇用契約以外の人も含めた。

※シングルマザーについては、各種調査報告がすでに出ていることから対象外とした。

※横浜、大阪、福岡の3都市における状況把握を念頭に実施した。

(2) 調査方法

横浜協会が利用していたウェブ上のアンケートシステムを活用し、アンケート回答ページのURLを設定し、実施した。準備段階で調査専門会社に問い合わせたところ、予め対象者を層別に抽出して協力を依頼する方法では今回の対象者について回答数300件程度を収集するのは困難であろうとのことだった。そのため、業務委託ではなく調査主体が直接執行することとした。同時に、調査依頼を広めていく活動そのものが問題を伝え、キャンペーンとなることを意図して行うことにした。

具体的には、独自に専用のフェイスブックページおよびツイッターアカウントを立ち上げ、ウェブアンケート調査期間中に日々中間報告や寄せられた声などを載せて更新、SNSで拡散・協力を呼びかけていった。それと同時に、新聞等の紙媒体、インターネット上のウェブ媒体にも依頼し、取材と記事掲載を経て、キャンペーンを展開した。

(3) ウェブアンケート実施期間

2015年10月3日(土)～10月30日(金)

(4) 調査項目 (33 項目)

ウェブアンケート調査の項目には仕事の状況や収入はもとより、学歴、住まいと同居の状況、住居費負担、家計収入の構成、支援機関の利用、今後のサポートへの意向などを設定し、仕事と暮らしについて総合的に考察することを試みた。生活満足度・ゆとり感等についても、他の調査との比較を意図して盛り込んだ。

自由記述回答は「暮らしの悩みや不安」、「仕事に関する悩みや不安」(各 400 字まで)、「サポートへの意見・要望」(600 字まで)の 3 項目とし、その他は選択式の回答とした。

質問項目の内容は多岐に亘り、33 問にのぼった。これらは検討会での議論を経て設計し、決定された。

主な項目は以下の通りである。

※調査票は資料編参照

①回答者のプロフィール

年齢／居住地／最終学歴／婚姻歴／中学卒業時点の同居状況

②現在の暮らしについて

住居費負担の状況／現在の同居状況／要援護者の有無／

自身の税込年収／主な家計収入／

情報入手手段／インターネットの用途／

生活満足度／経済的なゆとり感／時間的なゆとり感／充実感を感じるとき／

悩みや不安【自由記述】／主な相談先

③仕事について

初職の就業形態／初職の職種／

現在の就業形態／現職の契約期間／現在の職種／

仕事のかけもち／週当たり労働時間／利用した支援機関／

非正規職についている理由／仕事に関する悩みや不安【自由記述】

④今後に向けて

今後の希望／取得したい資格／

利用したいサポート／参加できる曜日・時間帯

サポートへの意見・要望【自由記述】

グループインタビューへの協力意向について

(5) 回答状況

回答件数、有効回答件数は、次の通りである。

区分	件 (%)	備考
回答件数	279 (100.0%)	
有効回答件数	261 (93.5%)	非該当(子どもがいる、正規職である等)を除いた数

ウェブアンケート調査は、33 問の質問項目すべてに入力しなければ送信できず、回答者にはなんら特典がなかったにもかかわらず、多くの団体や個人の情報拡散への協力を得て、最終的に上記の回答件数を得ることができた。

なお、グループインタビューへの協力意向「あり」との回答者(メールアドレス記入者)は、261 人中 86 人(32.9%)であった。

第2節 集計の結果

■集計結果の見方

(1) 表記や数値について

- 「n」は、質問に対する回答者数で、比率算出の基数である。
- 「SA」は、質問に対する回答（選択）数を1つだけに設定した設問（Single Answer の略）、
「MA」は、質問に対して複数回答（選択）することができる設問（Multiple Answers の略）
のこと。MA の場合、回答数の合計を回答者数（n）で割った比率の値が 100%を超える。
- 集計表の数値（パーセンテージ）は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、内訳の個々の数値と合算した場合の数値とは必ずしも一致しない。
- 本調査はウェブ調査であり、選択肢のある質問への回答をすべて必須としているため、「無回答」の表記はない（ただし、自由記述欄への記入は任意）。

(2) 図表と回答者区分について

- 本報告書の図表は、基本的に単純集計結果のグラフと、属性別に回答分布をみる基本クロス集計表からなる。
- グラフは、カテゴリーの統合や数値の高い順に並べて掲載している場合がある。
- 基本クロス集計表は、「年齢」「最終学歴」「同居状況」「自身の税込年収」、現在の「就業形態」の各属性別に回答分布をみている。着色は、属性ごとに回答分布の特徴を見やすくするために施したものであり、濃色は1位、淡色は2位項目を示す（1位が3つ以上ある場合は2位に着色せず、1位のみ淡色とした）。
- 図表は、必要に応じてカテゴリーを統合して示している。基本クロス表のカテゴリーは、次の通りとした。
 - ①年齢（Q.1）：「35～39 歳」「40～44 歳」「45～54 歳」に3区分（回答は1歳階級ごと）
 - ②最終学歴（Q.3）：中学卒業・高校卒業・高校中退・専門学校中退・短大中退・大学中退を「中卒・高卒・高卒相当」、短大卒業・専門学校卒業を「短大・専門学校卒」、大学卒業・大学院修了・大学院中退を「大学・大学院卒」に統合して3区分（「その他」についても、記述内容からいずれかのカテゴリーに分類）
 - ③同居状況（Q.7）：「同居者あり（一人暮らし以外）」と「一人暮らし」に2区分
 - ④自身の税込年収（Q.9）：「150 万円未満」「150 万円以上 250 万円未満」「250 万円以上」に3区分（回答は 50 万円ごと）
 - ⑤現在の就業形態（Q.21）：自営業手伝い・業務請負・個人事業主を「業務請負等」に統合して5区分（「その他」との回答については、記載内容から該当するカテゴリーに分類した。ただし、現在無職の8人は除外）

(3) その他

- 本調査は、予め対象者を層別に抽出して協力を願う調査とは異なり、告知によって調査を知った人に自主的な回答を期待するものであり、回答者はインターネット利用者、告知媒体のアプローチが及ぶ人に限られていることを前提に、調査結果を捉える必要がある。

1 回答者のプロフィール

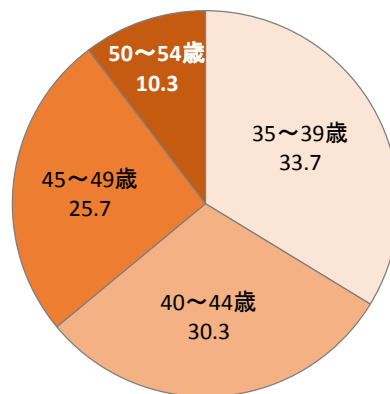
① 年齢

Q.1 あなたの年齢をお答えください。

回答者の年齢分布は、年齢が低いほど多く、高いほど少ない傾向がみられる。とくに 42 歳（1972～1973 年生まれ）が多くなっている。回答者の平均年齢は、42.6 歳である。

◆Q.1 年齢（SA）

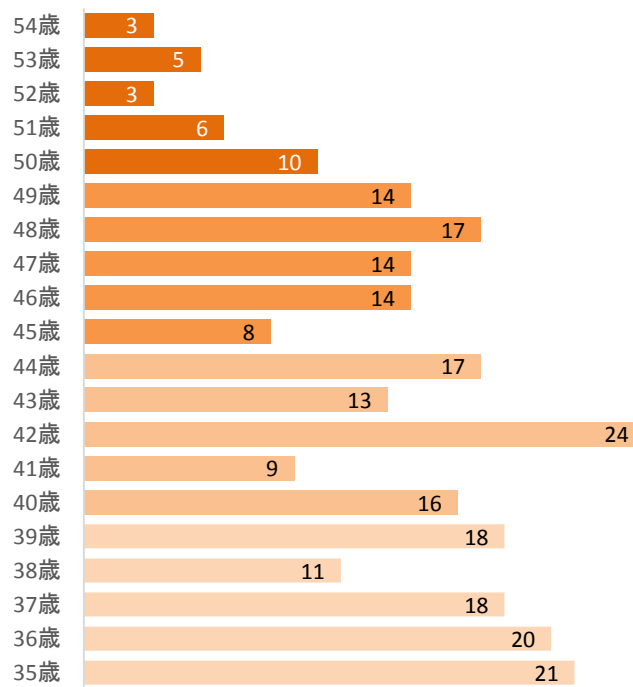
n=261
(単位：%)



※50～54 歳は少数であったため、クロス集計表では統合して 45～54 歳とした。

【年齢別分布】

n=261
(単位：人)



計 261 人

② 居住地

Q.2 あなたの居住地をお答えください。

本調査は、横浜市、大阪市、福岡市在住者を主な対象としたが、実際の回答者は、「横浜市」39人（14.9%）、「大阪市」22人（8.4%）、「福岡市」16人（6.1%）で、それ以外の地域に在住する人が70.5%と7割を占めた。

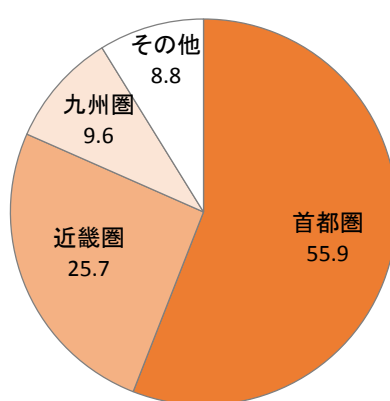
これを受け、集計にあたっては、居住地を「首都圏」、「近畿圏」、「九州圏」、「その他の地域」に区分し、それぞれの特徴をみることにした。ここでの地域区分は、次の通りである。

首都圏（横浜市を含む）：	東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県
近畿圏（大阪市を含む）：	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、三重県
九州圏（福岡市を含む）：	福岡県、長崎県、熊本県
その他の地域	：甲信越、中部圏、東北、北海道

都市圏ごとの回答者分布は、「首都圏」55.9%、「近畿圏」25.7%、「九州圏」9.6%、「その他の地域」が8.8%となっている。

就業形態別には「派遣社員」の77.0%が「首都圏」に集中し、自身の税込年収（以下、年収）「250万円以上」の人も「首都圏」への分布が多くなっており、就業の機会等に地域差がある状況がうかがわれる。

◆Q.2 居住地（SA）



n=261
(単位：%)

上段：人 下段：%		合計	Q.2 居住地（SA）			
			首都圏	近畿圏	九州圏	その他
全体		261 100.0	146 55.9	67 25.7	25 9.6	23 8.8
年齢	35～39歳	88 100.0	51 58.0	21 23.9	8 9.1	8 9.1
	40～44歳	79 100.0	41 51.9	22 27.8	8 10.1	8 10.1
	45～54歳	94 100.0	54 57.4	24 25.5	9 9.6	7 7.4
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	22 56.4	11 28.2	1 2.6	5 12.8
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	50 60.2	15 18.1	9 10.8	9 10.8
	大学・ 大学院卒	139 100.0	74 53.2	41 29.5	15 10.8	9 6.5
同居状況	同居者あり	136 100.0	77 56.6	34 25.0	12 8.8	13 9.6
	一人暮らし	125 100.0	69 55.2	33 26.4	13 10.4	10 8.0
自身の税込年収	150万円未満	74 100.0	33 44.6	22 29.7	10 13.5	9 12.2
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	61 58.7	20 19.2	13 12.5	10 9.6
	250万円以上	83 100.0	52 62.7	25 30.1	2 2.4	4 4.8
就業形態	契約・嘱託	75 100.0	36 48.0	21 28.0	11 14.7	7 9.3
	派遣社員	61 100.0	47 77.0	9 14.8	1 1.6	4 6.6
	パート・ アルバイト	53 100.0	25 47.2	18 34.0	5 9.4	5 9.4
	非常勤	27 100.0	17 63.0	5 18.5	2 7.4	3 11.1
	業務請負等	37 100.0	15 40.5	14 37.8	5 13.5	3 8.1

※「現在の就業形態」からは、現在無職の8人を除いている（以下同様）。

③ 最終学歴

Q.3 あなたの最終学歴をお答えください。

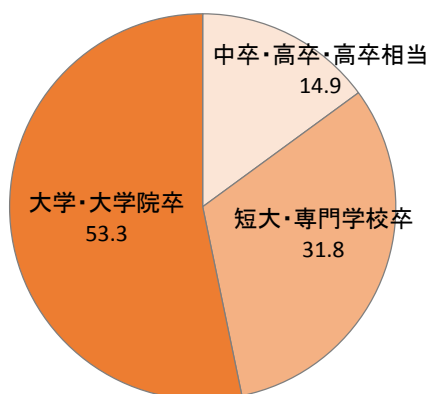
最終学歴は、下表のとおり「大学卒業」が40.6%で、「短大卒業」18.4%、「専門学校卒業」13.0%、「大学院修了」10.7%、「高校卒業」10.0%の順でみられる。

大きく3つのグループに区分すると「大学・大学院卒」（大学卒業以上）53.3%、「短大・専門学校卒」31.8%、「中卒・高卒・高卒相当」（高校・短大・専門学校・大学中退を含む）14.9%となっている。各校種とも中退が若干名ずつみられるが、中学卒業後進学しなかった人はいない。

属性別にみると、年齢では「35～39歳」、同居状況では「同居者あり」、就業形態では「非常勤」で、「大学・大学院卒」の比率の高さが目立ち、とくに「非常勤」では「大学院修了」が4割を超えている。

◆Q.3 最終学歴（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.3 最終学歴 (SA)											
			中学卒業	高校卒業	高校中退	専門学校 卒業	専門学校 中退	短大卒業	短大中退	大学卒業	大学中退	大学院 修了	大学院 中退	その他
全体		261 100.0	0 0.0	26 10.0	1 0.4	34 13.0	2 0.8	48 18.4	2 0.8	106 40.6	7 2.7	28 10.7	4 1.5	3 1.1
年齢	35～39歳	88 100.0	0 0.0	6 6.8	1 1.1	13 14.8	0 0.0	9 10.2	1 1.1	41 46.6	2 2.3	11 12.5	2 2.3	2 2.3
	40～44歳	79 100.0	0 0.0	13 16.5	0 0.0	9 11.4	2 2.5	14 17.7	0 0.0	31 39.2	3 3.8	6 7.6	0 0.0	1 1.3
	45～54歳	94 100.0	0 0.0	7 7.4	0 0.0	12 12.8	0 0.0	25 26.6	1 1.1	34 36.2	2 2.1	11 11.7	2 2.1	0 0.0
同居 状況	同居者あり	136 100.0	0 0.0	13 9.6	0 0.0	16 11.8	1 0.7	21 15.4	1 0.7	70 51.5	4 2.9	6 4.4	2 1.5	2 1.5
	一人暮らし	125 100.0	0 0.0	13 10.4	1 0.8	18 14.4	1 0.8	27 21.6	1 0.8	36 28.8	3 2.4	22 17.6	2 1.6	1 0.8
自身 の税 込年 収	150万円未満	74 100.0	0 0.0	8 10.8	0 0.0	10 13.5	0 0.0	19 25.7	1 1.4	25 33.8	3 4.1	6 8.1	0 0.0	2 2.7
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	0 0.0	13 12.5	1 1.0	12 11.5	2 1.9	16 15.4	0 0.0	46 44.2	2 1.9	11 10.6	1 1.0	0 0.0
	250万円以上	83 100.0	0 0.0	5 6.0	0 0.0	12 14.5	0 0.0	13 15.7	1 1.2	35 42.2	2 2.4	11 13.3	3 3.6	1 1.2
就 業 形 態	契約・嘱託	75 100.0	0 0.0	4 5.3	0 0.0	9 12.0	0 0.0	15 20.0	1 1.3	36 48.0	1 1.3	7 9.3	2 2.7	0 0.0
	派遣社員	61 100.0	0 0.0	8 13.1	0 0.0	11 18.0	0 0.0	10 16.4	1 1.6	26 42.6	0 0.0	3 4.9	2 3.3	0 0.0
	パート・ アルバイト	53 100.0	0 0.0	7 13.2	0 0.0	4 7.5	1 1.9	17 32.1	0 0.0	19 35.8	2 3.8	3 5.7	0 0.0	0 0.0
	非常勤	27 100.0	0 0.0	2 7.4	0 0.0	3 11.1	0 0.0	2 7.4	0 0.0	7 25.9	0 0.0	12 44.4	0 0.0	1 3.7
	業務請負等	37 100.0	0 0.0	3 8.1	1 2.7	5 13.5	1 2.7	4 10.8	0 0.0	15 40.5	3 8.1	3 8.1	0 0.0	2 5.4

④ 婚姻歴

Q.4 あなたは、これまでに結婚（事実婚を含む）をしたことがありますか。

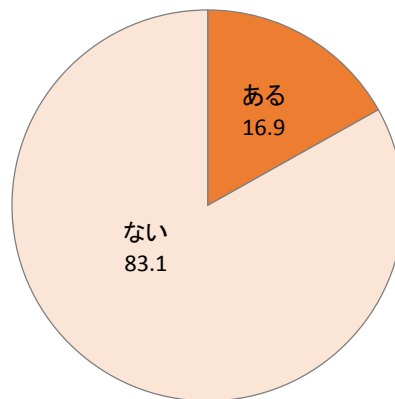
過去の婚姻歴は、「ない」が83.1%で、「ある」と答えた人は16.9%となっている。

属性別にみると、年齢では「45～54歳」、最終学歴では「大学・大学院卒」以外、同居状況では「一人暮らし」、年収では「150万円未満」で、婚姻歴がある人が2割を超えている。

なお、記述内容から、婚姻歴はないが、同性パートナーがいるケースも数人含まれていることが把握された。

◆Q.4 婚姻歴（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.4 婚姻歴（SA）	
			ある	ない
全体		261 100.0	44 16.9	217 83.1
年 齢	35～39歳	88 100.0	10 11.4	78 88.6
	40～44歳	79 100.0	14 17.7	65 82.3
	45～54歳	94 100.0	20 21.3	74 78.7
最 終 学 歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	10 25.6	29 74.4
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	20 24.1	63 75.9
	大学・ 大学院卒	139 100.0	14 10.1	125 89.9
同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	17 12.5	119 87.5
	一人暮らし	125 100.0	27 21.6	98 78.4
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	18 24.3	56 75.7
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	17 16.3	87 83.7
	250万円以上	83 100.0	9 10.8	74 89.2
就 業 形 態	契約・嘱託	75 100.0	14 18.7	61 81.3
	派遣社員	61 100.0	7 11.5	54 88.5
	パート・ アルバイト	53 100.0	6 11.3	47 88.7
	非常勤	27 100.0	5 18.5	22 81.5
	業務請負等	37 100.0	7 18.9	30 81.1

⑤ 中学卒業時点の同居状況

Q.5 15歳(中学卒業)時点で、同居していた方はどなたですか。あてはまる人をすべてお答えください。

中学卒業時点では、「母」と同居が95.8%、「父」と同居が93.5%で、両親との同居は89.7%であった。8割以上が「兄弟姉妹」と同居しており、3世代同居は約2割、ひとり親だったケースは約1割である。

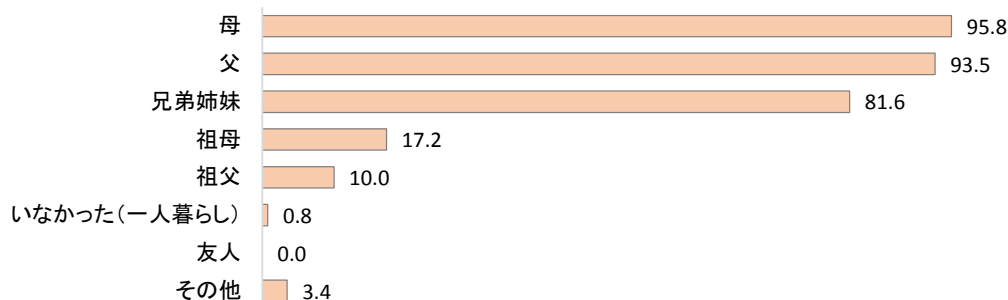
厚生労働省「ひとり親家庭等の現状について」（平成27年4月20日資料）によると、1988（昭和63）年の「児童（18歳未満の未婚の者）のいる世帯のうち、ひとり親家庭の割合」で、「ひとり親世帯」は4.0%である。同様に1994（平成6）年では「ひとり親世帯」は4.2%、さらに2000（平成12）年では「ひとり親世帯」は5.1%である。

1988（昭和63）年調査時、今回の非正規職シングル女性の調査に回答している40歳の女性は12歳であり、2000（平成12）年には、本調査に回答している30歳の女性は14歳であった。これら調査の30代・40代の女性が、18歳未満の児童であった時の「ひとり親世帯」の割合が4.0%台だったのに比し、本調査では約1割とやや高くなっている。

◆Q.5 中学卒業時点の同居状況（MA）【値の高い順】

n=261

(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.5 中学卒業時点の同居状況（MA）							
			父	母	祖父	祖母	兄弟姉妹	友人	いなかった (一人暮らし)	その他
全体		261 100.0	244 93.5	250 95.8	26 10.0	45 17.2	213 81.6	0 0.0	2 0.8	9 3.4
年齢	35～39歳	88 100.0	86 97.7	85 96.6	15 17.0	19 21.6	65 73.9	0 0.0	0 0.0	5 5.7
	40～44歳	79 100.0	73 92.4	77 97.5	3 3.8	13 16.5	64 81.0	0 0.0	0 0.0	2 2.5
	45～54歳	94 100.0	85 90.4	88 93.6	8 8.5	13 13.8	84 89.4	0 0.0	2 2.1	2 2.1
最終学歴	中卒・高卒・高卒相当	39 100.0	36 92.3	34 87.2	2 5.1	6 15.4	30 76.9	0 0.0	1 2.6	1 2.6
	短大・専門学校卒	83 100.0	78 94.0	83 100.0	8 9.6	14 16.9	74 89.2	0 0.0	0 0.0	3 3.6
	大学・大学院卒	139 100.0	130 93.5	133 95.7	16 11.5	25 18.0	109 78.4	0 0.0	1 0.7	5 3.6
	同居者あり	136 100.0	128 94.1	133 97.8	8 5.9	17 12.5	108 79.4	0 0.0	1 0.7	2 1.5
	一人暮らし	125 100.0	116 92.8	117 93.6	18 14.4	28 22.4	105 84.0	0 0.0	1 0.8	7 5.6
自身の税込年収	150万円未満	74 100.0	71 95.9	69 93.2	4 5.4	13 17.6	62 83.8	0 0.0	1 1.4	1 1.4
	150万円以上250万円未満	104 100.0	96 92.3	102 98.1	9 8.7	17 16.3	81 77.9	0 0.0	1 1.0	6 5.8
	250万円以上	83 100.0	77 92.8	79 95.2	13 15.7	15 18.1	70 84.3	0 0.0	0 0.0	2 2.4
	契約・嘱託	75 100.0	67 89.3	71 94.7	10 13.3	14 18.7	62 82.7	0 0.0	1 1.3	2 2.7
就業形態	派遣社員	61 100.0	56 91.8	60 98.4	5 8.2	10 16.4	46 75.4	0 0.0	0 0.0	4 6.6
	パート・アルバイト	53 100.0	51 96.2	51 96.2	4 7.5	11 20.8	43 81.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	非常勤	27 100.0	27 100.0	27 100.0	1 3.7	1 3.7	23 85.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	36 97.3	34 91.9	6 16.2	8 21.6	34 91.9	0 0.0	0 0.0	2 5.4

2 現在の暮らしについて

(1) 暮らし方

① 住居費負担の状況

Q.6 あなたの住居費は以下のうち、どれですか。

住居費の負担は、「賃貸住宅（自分が全額負担）」が 40.2%と最も多く、「持ち家（家族が全額負担）」が 31.8%でこれに次いでいる。

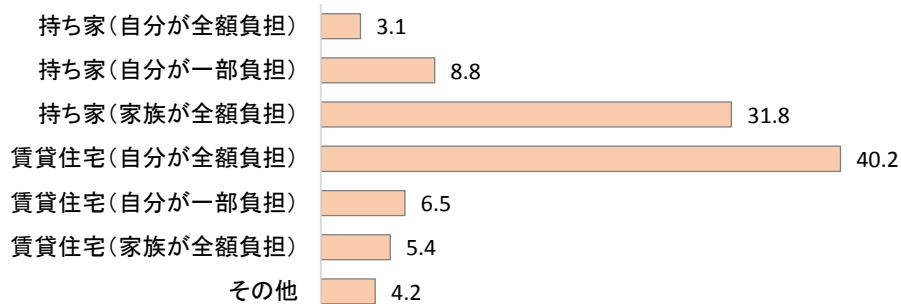
所有形態別にみると、「賃貸住宅」が 5 割を超え、住居費の負担別にみると、「自分が全額負担」が 4 割強、「家族が全額負担」が 4 割弱となっている。

属性別にみると、「一人暮らし」で「自分が全額負担」が 8 割を超えている。一方、年収「150 万円未満」および「パート・アルバイト」では「家族が全額負担」が過半数を占めている。

「その他」には、シェアハウス、ルームシェア、会社負担、元夫が負担、生活保護費より抛出などがあげられた。

◆Q.6 住居費負担の状況（SA）

n=261
(単位：%)



第2章 ウェブアンケート調査の結果

上段：人 下段：%		合計	Q.6 住居費負担の状況 (SA)						
			持ち家(自分 が全額負担)	持ち家(自分 が一部負担)	持ち家(家族 が全額負担)	賃貸住宅 (自分が全額 負担)	賃貸住宅 (自分が一部 負担)	賃貸住宅 (家族が全額 負担)	その他
全体		261 100.0	8 3.1	23 8.8	83 31.8	105 40.2	17 6.5	14 5.4	11 4.2
年 齢	35～39歳	88 100.0	0 0.0	3 3.4	32 36.4	35 39.8	10 11.4	6 6.8	2 2.3
	40～44歳	79 100.0	1 1.3	4 5.1	29 36.7	33 41.8	4 5.1	4 5.1	4 5.1
	45～54歳	94 100.0	7 7.4	16 17.0	22 23.4	37 39.4	3 3.2	4 4.3	5 5.3
	最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	0 0.0	1 2.6	9 23.1	16 41.0	5 12.8	3 7.7
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	2 2.4	10 12.0	29 34.9	37 44.6	0 0.0	3 3.6	2 2.4
	大学・ 大学院卒	139 100.0	6 4.3	12 8.6	45 32.4	52 37.4	12 8.6	8 5.8	4 2.9
同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	4 2.9	19 14.0	75 55.1	3 2.2	17 12.5	11 8.1	7 5.1
	一人暮らし	125 100.0	4 3.2	4 3.2	8 6.4	102 81.6	0 0.0	3 2.4	4 3.2
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	2 2.7	4 5.4	35 47.3	17 23.0	2 2.7	10 13.5	4 5.4
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	1 1.0	10 9.6	33 31.7	43 41.3	9 8.7	3 2.9	5 4.8
	250万円以上	83 100.0	5 6.0	9 10.8	15 18.1	45 54.2	6 7.2	1 1.2	2 2.4
	就業形態	契約・嘱託	75 100.0	4 5.3	8 10.7	24 32.0	27 36.0	7 9.3	2 2.7
	派遣社員	61 100.0	1 1.6	5 8.2	17 27.9	30 49.2	3 4.9	1 1.6	4 6.6
	パート・ アルバイト	53 100.0	1 1.9	6 11.3	22 41.5	15 28.3	3 5.7	6 11.3	0 0.0
	非常勤	27 100.0	1 3.7	0 0.0	8 29.6	14 51.9	2 7.4	2 7.4	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	1 2.7	2 5.4	11 29.7	17 45.9	2 5.4	2 5.4	2 5.4

② 現在の同居状況

Q.7 現在、あなたが同居している方はどなたですか。あてはまる人をすべてお答えください。

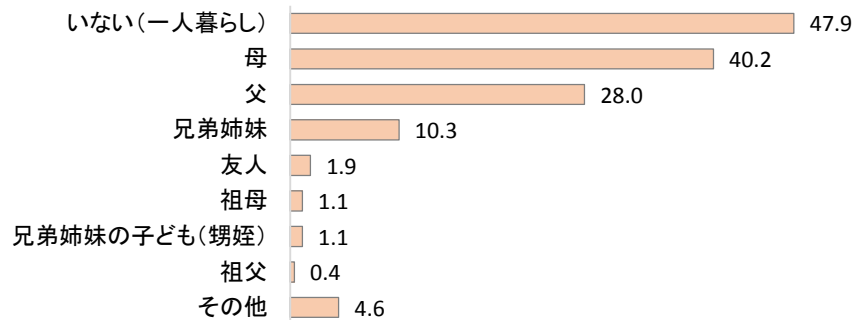
現在は、「同居者がいない（一人暮らし）」が47.9%と最も多い。次いで「母」が40.2%、「父」は28.0%で、同居者の中では「母」が最も多い。

「一人暮らし」の割合を属性別にみると、自身の税込年収が高いほど、また、年齢が高いほど高く、最終学歴別には「短大・専門学校卒」で「一人暮らし」が5割を超えている。就業形態別には「派遣社員」で「一人暮らし」の割合が最も高く、「パート・アルバイト」では最も低くなっている。

「その他」には、同性のパートナーや恋人などが4件のほか、義父、元夫などがあげられた。

◆Q.7 現在の同居状況（MA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.7 現在の同居状況（MA）								
			父	母	祖父	祖母	兄弟姉妹	兄弟姉妹の子ども(甥姪)	友人	いない（一人暮らし）	その他
全体		261 100.0	73 28.0	105 40.2	1 0.4	3 1.1	27 10.3	3 1.1	5 1.9	125 47.9	12 4.6
年齢	35～39歳	88 100.0	29 33.0	39 44.3	1 1.1	2 2.3	13 14.8	3 3.4	4 4.5	40 45.5	2 2.3
	40～44歳	79 100.0	27 34.2	29 36.7	0 0.0	1 1.3	9 11.4	0 0.0	0 0.0	38 48.1	5 6.3
	45～54歳	94 100.0	17 18.1	37 39.4	0 0.0	0 0.0	5 5.3	0 0.0	1 1.1	47 50.0	5 5.3
		最終学歴	39 100.0	11 28.2	13 33.3	0 0.0	0 0.0	5 12.8	0 0.0	0 0.0	19 48.7
自身の税込年収	短大・専門学校卒	83 100.0	20 24.1	32 38.6	0 0.0	1 1.2	10 12.0	1 1.2	0 0.0	46 55.4	2 2.4
	大学・大学院卒	139 100.0	42 30.2	60 43.2	1 0.7	2 1.4	12 8.6	2 1.4	5 3.6	60 43.2	7 5.0
	150万円未満	74 100.0	30 40.5	39 52.7	1 1.4	1 1.4	9 12.2	0 0.0	0 0.0	27 36.5	2 2.7
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	27 26.0	40 38.5	0 0.0	2 1.9	13 12.5	1 1.0	2 1.9	49 47.1	6 5.8
就業形態	250万円以上	83 100.0	16 19.3	26 31.3	0 0.0	0 0.0	5 6.0	2 2.4	3 3.6	49 59.0	4 4.8
	契約・嘱託	75 100.0	19 25.3	28 37.3	0 0.0	1 1.3	8 10.7	3 4.0	2 2.7	38 50.7	3 4.0
	派遣社員	61 100.0	13 21.3	22 36.1	0 0.0	1 1.6	6 9.8	0 0.0	1 1.6	33 54.1	3 4.9
	パート・アルバイト	53 100.0	21 39.6	29 54.7	1 1.9	1 1.9	6 11.3	0 0.0	0 0.0	19 35.8	1 1.9
	非常勤	27 100.0	9 33.3	11 40.7	0 0.0	0 0.0	1 3.7	0 0.0	1 3.7	13 48.1	2 7.4
	業務請負等	37 100.0	9 24.3	11 29.7	0 0.0	0 0.0	4 10.8	0 0.0	1 2.7	19 51.4	2 5.4

③ 要援護者の有無

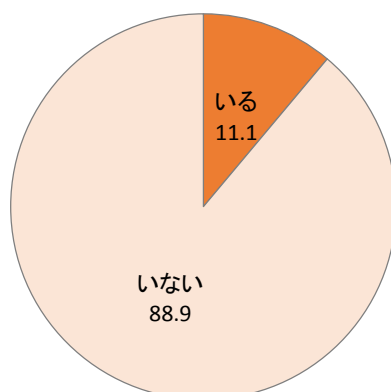
Q.8 現在、あなたが介助・介護しなければならない人はいますか。

要援護者が「いる」と答えた人は11.1%と、約1割みられる。

属性別にみると、年齢では「45～54歳」、年収では「150万円未満」で、要援護者のいる人の割合が高くなっている。

◆Q.8 要援護者の有無（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.8 要援護者の有無（SA）	
			いる	いない
全体		261 100.0	29 11.1	232 88.9
年齢	35～39歳	88 100.0	6 6.8	82 93.2
	40～44歳	79 100.0	6 7.6	73 92.4
	45～54歳	94 100.0	17 18.1	77 81.9
	55～64歳	100 100.0	10 10.0	90 90.0
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	4 10.3	35 89.7
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	11 13.3	72 86.7
	大学・ 大学院卒	139 100.0	14 10.1	125 89.9
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0
同居状況	同居者あり	136 100.0	17 12.5	119 87.5
	一人暮らし	125 100.0	12 9.6	113 90.4
自身の 税込 年収	150万円未満	74 100.0	12 16.2	62 83.8
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	9 8.7	95 91.3
	250万円以上	83 100.0	8 9.6	75 90.4
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0
就業形態	契約・嘱託	75 100.0	8 10.7	67 89.3
	派遣社員	61 100.0	8 13.1	53 86.9
	パート・ アルバイト	53 100.0	6 11.3	47 88.7
	非常勤	27 100.0	2 7.4	25 92.6
	業務請負等	37 100.0	3 8.1	34 91.9

④ 自身の税込年収

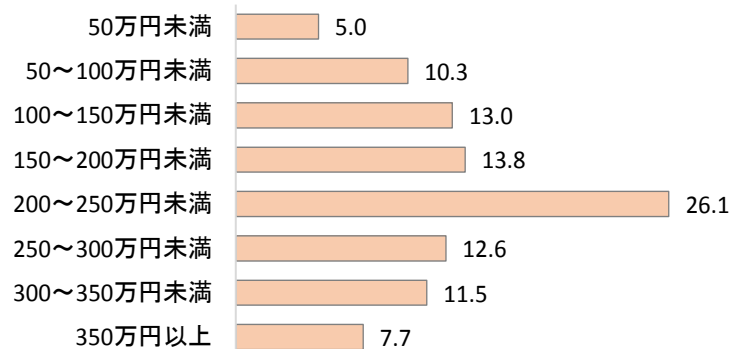
Q.9 あなたの年収（税込）は、おおよそどれくらいですか。
仕事から得られる収入のみでお答えください。

自身の税込年収は、「200～250 万円未満」が 26.1%と最も多い。全体を 3 区分すると「150 万円以上 250 万円未満」が約 4 割、「250 万円以上」が 3 割強、「150 万円未満」が 3 割弱の分布状況である。

属性別にみると、学歴が高いほど年収が高い傾向がみられる一方、年齢が高いほど「150 万円未満」の比率も高くなっている。就業形態別には「契約・嘱託」で約 5 割、「派遣社員」で 4 割強が「250 万円以上」となっている。一方、「パート・アルバイト」では「150 万円未満」が 6 割を超え、年収の低い人が多い。

◆Q.9 自身の税込年収（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.9 自身の税込年収（SA）							
			50万円 未満	50～100万 円未満	100～150万 円未満	150～200万 円未満	200～250万 円未満	250～300万 円未満	300～350万 円未満	350万円 以上
全体		261 100.0	13 5.0	27 10.3	34 13.0	36 13.8	68 26.1	33 12.6	30 11.5	20 7.7
年 齢	35～39歳	88 100.0	5 5.7	9 10.2	8 9.1	15 17.0	22 25.0	15 17.0	10 11.4	4 4.5
	40～44歳	79 100.0	3 3.8	7 8.9	10 12.7	14 17.7	20 25.3	7 8.9	11 13.9	7 8.9
	45～54歳	94 100.0	5 5.3	11 11.7	16 17.0	7 7.4	26 27.7	11 11.7	9 9.6	9 9.6
最 終 学 歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	3 7.7	5 12.8	5 12.8	10 25.6	8 20.5	4 10.3	3 7.7	1 2.6
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	3 3.6	12 14.5	14 16.9	11 13.3	17 20.5	10 12.0	9 10.8	7 8.4
	大学・ 大学院卒	139 100.0	7 5.0	10 7.2	15 10.8	15 10.8	43 30.9	19 13.7	18 12.9	12 8.6
	同居者あり	136 100.0	11 8.1	18 13.2	18 13.2	17 12.5	38 27.9	15 11.0	13 9.6	6 4.4
同 居 状 況	一人暮らし	125 100.0	2 1.6	9 7.2	16 12.8	19 15.2	30 24.0	18 14.4	17 13.6	14 11.2
	契約・嘱託	75 100.0	2 2.7	3 4.0	6 8.0	8 10.7	19 25.3	13 17.3	13 17.3	11 14.7
就 業 形 態	派遣社員	61 100.0	1 1.6	1 1.6	1 1.6	8 13.1	24 39.3	12 19.7	10 16.4	4 6.6
	パート・ アルバイト	53 100.0	2 3.8	15 28.3	17 32.1	9 17.0	8 15.1	0 0.0	2 3.8	0 0.0
	非常勤	27 100.0	0 0.0	3 11.1	5 18.5	5 18.5	9 33.3	2 7.4	2 7.4	1 3.7
	業務請負等	37 100.0	3 8.1	5 13.5	4 10.8	6 16.2	8 21.6	6 16.2	1 2.7	4 10.8

⑤ 主な家計収入

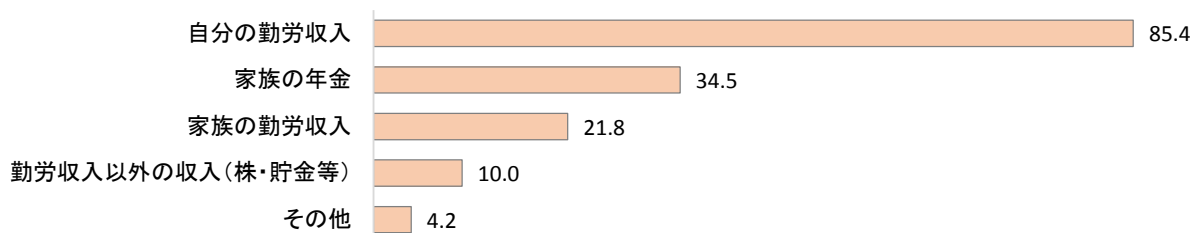
Q.10 あなたの世帯の主な家計収入は何ですか。主なものを3つまでお答えください。

世帯の主な家計収入は、「自分の勤労収入」を85.4%があげ、次いで「家族の年金」を34.5%があげている。

「その他」には、失業保険、傷病手当、障害年金、生活保護、家賃収入などのほか「家にあるものを売っている」との記述もみられた。

◆Q.10 主な家計収入（MA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)

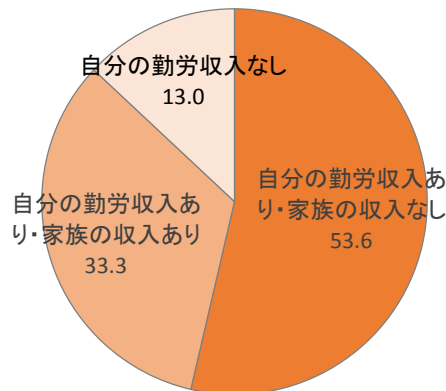


上段：人 下段：%		合計	Q.10 主な家計収入（MA）				
			自分の 勤労収入	勤労収入以外 の収入 (株・貯金等)	家族の 勤労収入	家族の年金	その他
全体		261 100.0	223 85.4	26 10.0	57 21.8	90 34.5	11 4.2
年齢	35～39歳	88 100.0	73 83.0	6 6.8	30 34.1	30 34.1	3 3.4
	40～44歳	79 100.0	70 88.6	8 10.1	15 19.0	26 32.9	2 2.5
	45～54歳	94 100.0	80 85.1	12 12.8	12 12.8	34 36.2	6 6.4
	55～59歳	39 100.0	29 74.4	2 5.1	12 30.8	11 28.2	4 10.3
最終 学歴	短大・ 専門学校卒	83 100.0	67 80.7	7 8.4	16 19.3	21 25.3	5 6.0
	大学・ 大学院卒	139 100.0	127 91.4	17 12.2	29 20.9	58 41.7	2 1.4
	同居者あり	136 100.0	101 74.3	13 9.6	52 38.2	87 64.0	6 4.4
	一人暮らし	125 100.0	122 97.6	13 10.4	5 4.0	3 2.4	5 4.0
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	47 63.5	10 13.5	24 32.4	35 47.3	7 9.5
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	96 92.3	8 7.7	21 20.2	35 33.7	3 2.9
	250万円以上	83 100.0	80 96.4	8 9.6	12 14.5	20 24.1	1 1.2
	契約・嘱託	75 100.0	68 90.7	9 12.0	15 20.0	21 28.0	1 1.3
就業 形態	派遣社員	61 100.0	58 95.1	3 4.9	11 18.0	18 29.5	0 0.0
	パート・ アルバイト	53 100.0	41 77.4	6 11.3	14 26.4	27 50.9	5 9.4
	非常勤	27 100.0	23 85.2	2 7.4	8 29.6	9 33.3	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	30 81.1	4 10.8	8 21.6	12 32.4	2 5.4

世帯の家計収入を、自分の勤労収入の有無に着目して類型化してみると、「自分の勤労収入あり・家族の収入（勤労収入または年金）なし」53.6%、「自分の勤労収入あり・家族の収入あり」が33.3%、「自分の勤労収入なし」が13.0%となっている。

属性別にみると、年齢が高いほど、家族の収入がない人の比率が高くなっている。同居状況をみると「父」と同居しているケース、就業形態別には「パート・アルバイト」、職種別には「接客・販売」で、家族の収入への依存度が他より高くなっている。

【家計収入の類型（再集計）】



n=261
(単位：%)

上段：人 下段：%		合計	自分の勤労収入あり ・家族の収入なし	自分の勤労収入あり ・家族の収入あり	自分の勤労収入なし
全体		261 100.0	140 53.6	87 33.3	34 13.0
年齢 (4区分)	35～39歳	88 100.0	43 48.9	30 34.1	15 17.0
	40～44歳	79 100.0	46 58.2	25 31.6	8 10.1
	45～49歳	67 100.0	35 52.2	21 31.3	11 16.4
	50～54歳	27 100.0	16 59.3	11 40.7	0 0.0
	55～59歳	73 100.0	3 4.1	46 63.0	24 32.9
同居状況 (再区分)	同居（父との同居あり）	62 100.0	21 33.9	34 54.8	7 11.3
	同居（父との同居なし）	126 100.0	116 92.1	7 5.6	3 2.4
	一人暮らし	75 100.0	44 58.7	24 32.0	7 9.3
就業形態	派遣社員	61 100.0	38 62.3	20 32.8	3 4.9
	パート・アルバイト	53 100.0	19 35.8	24 45.3	10 18.9
	非常勤	27 100.0	15 55.6	8 29.6	4 14.8
	業務請負等	37 100.0	22 59.5	9 24.3	6 16.2
	その他（調査時無職）	8 100.0	2 25.0	2 25.0	4 50.0
	事務職	116 100.0	60 51.7	39 33.6	17 14.7
	専門・技術職	63 100.0	41 65.1	18 28.6	4 6.3
職種	医療・福祉職	22 100.0	13 59.1	6 27.3	3 13.6
	教育職	20 100.0	13 65.0	7 35.0	0 0.0
	接客・販売	21 100.0	7 33.3	10 47.6	4 19.0
	その他（営業・現業等）	19 100.0	6 31.6	7 36.8	6 31.6
	その他（調査時無職）	8 100.0	2 25.0	2 25.0	4 50.0
	その他（調査時無職）	8 100.0	2 25.0	2 25.0	4 50.0

※「就業形態」の「その他（調査時無職）」には、傷病手当受給中、現在契約切れ等を含む。

⑥ 情報入手手段

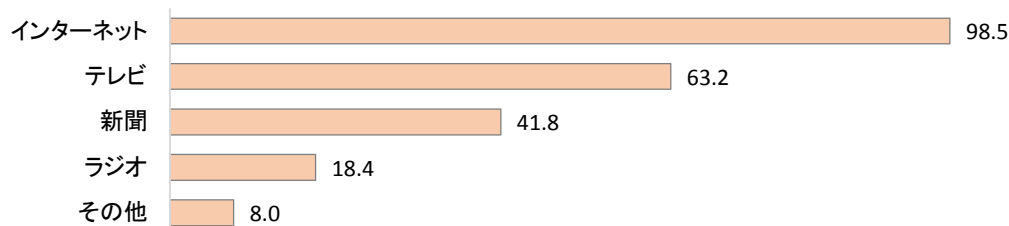
Q.11 あなたは日ごろ、どのような手段で情報を知ったり、集めたりしていますか。
あてはまるものをいくつでもお答えください。

情報入手手段としては、「インターネット」を98.5%があげ、次いで「テレビ」63.2%、「新聞」41.8%の順でみられる（本調査はウェブ上で実施しており、回答者＝インターネット利用者であるともいえる）。

◆Q.11 情報入手手段（MA）【値の高い順】

n=261

(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.11 情報入手手段（MA）				
			インターネット	テレビ	ラジオ	新聞	その他
全体		261 100.0	257 98.5	165 63.2	48 18.4	109 41.8	21 8.0
年齢	35～39歳	88 100.0	88 100.0	50 56.8	13 14.8	24 27.3	8 9.1
	40～44歳	79 100.0	79 100.0	49 62.0	14 17.7	32 40.5	6 7.6
	45～54歳	94 100.0	90 95.7	66 70.2	21 22.3	53 56.4	7 7.4
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	38 97.4	22 56.4	4 10.3	6 15.4	3 7.7
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	83 100.0	51 61.4	15 18.1	34 41.0	5 6.0
	大学・ 大学院卒	139 100.0	136 97.8	92 66.2	29 20.9	69 49.6	13 9.4
同居状況	同居者あり	136 100.0	134 98.5	86 63.2	22 16.2	73 53.7	11 8.1
	一人暮らし	125 100.0	123 98.4	79 63.2	26 20.8	36 28.8	10 8.0
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	70 94.6	45 60.8	14 18.9	35 47.3	4 5.4
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	104 100.0	68 65.4	22 21.2	41 39.4	8 7.7
	250万円以上	83 100.0	83 100.0	52 62.7	12 14.5	33 39.8	9 10.8
就業形態	契約・嘱託	75 100.0	73 97.3	50 66.7	17 22.7	34 45.3	7 9.3
	派遣社員	61 100.0	61 100.0	42 68.9	8 13.1	25 41.0	1 1.6
	パート・ アルバイト	53 100.0	52 98.1	27 50.9	10 18.9	23 43.4	5 9.4
	非常勤	27 100.0	26 96.3	17 63.0	5 18.5	15 55.6	3 11.1
	業務請負等	37 100.0	37 100.0	23 62.2	6 16.2	10 27.0	5 13.5

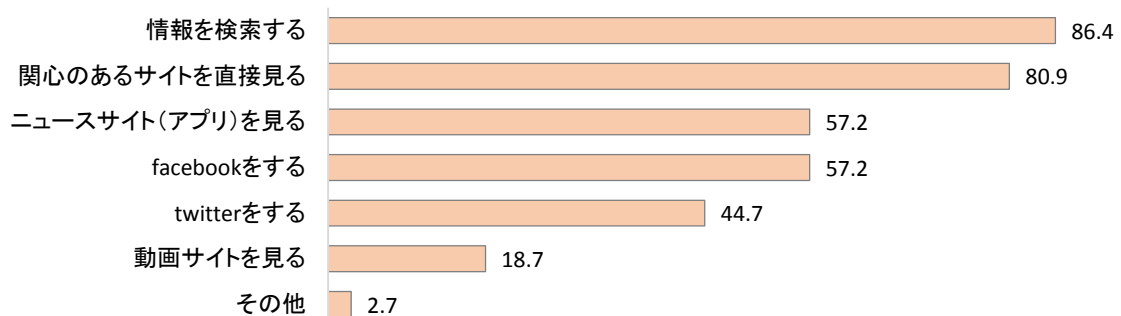
⑦ インターネットの用途

【Q11で「インターネット」を選んだ場合】インターネットでどのように情報を知ったり、集めたりしていますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

情報入手手段として「インターネット」をあげた人に具体的な用途をたずねたところ、情報検索やニュースアプリの利用といった“情報の摂取”が多く、facebook（フェイスブック）、twitter（ツイッター）といった“参加型のコミュニケーション”も7割以上が利用していることがわかった（「facebookをする」か「twitterをする」の一方または両方を選択した人79.3%）。

◆Q.11-2 インターネットの用途（MA）【値の高い順】

n=257
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	【Q.11の情報入手手段で「インターネット」と答えた人】 Q.11-2 インターネットの用途（MA）						
			情報を検索 する	関心のある サイトを直 接見る	facebookを する	twitterを する	ニュースサ イト(アプ リ)を見る	動画サイト を見る	その他
全体		257 100.0	222 86.4	208 80.9	147 57.2	115 44.7	147 57.2	48 18.7	7 2.7
年齢	35～39歳	88 100.0	76 86.4	70 79.5	49 55.7	48 54.5	43 48.9	14 15.9	3 3.4
	40～44歳	79 100.0	68 86.1	66 83.5	48 60.8	37 46.8	48 60.8	15 19.0	1 1.3
	45～54歳	90 100.0	78 86.7	72 80.0	50 55.6	30 33.3	56 62.2	19 21.1	3 3.3
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	38 100.0	31 81.6	28 73.7	21 55.3	23 60.5	23 60.5	6 15.8	1 2.6
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	66 79.5	66 79.5	44 53.0	37 44.6	47 56.6	16 19.3	1 1.2
	大学・ 大学院卒	136 100.0	125 91.9	114 83.8	82 60.3	55 40.4	77 56.6	26 19.1	5 3.7
同居状況	同居者あり	134 100.0	115 85.8	101 75.4	66 49.3	52 38.8	70 52.2	23 17.2	3 2.2
	一人暮らし	123 100.0	107 87.0	107 87.0	81 65.9	63 51.2	77 62.6	25 20.3	4 3.3
自身の税込年収	150万円未満	70 100.0	61 87.1	54 77.1	37 52.9	28 40.0	36 51.4	15 21.4	2 2.9
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	85 81.7	84 80.8	61 58.7	45 43.3	61 58.7	16 15.4	2 1.9
	250万円以上	83 100.0	76 91.6	70 84.3	49 59.0	42 50.6	50 60.2	17 20.5	3 3.6
就業形態	契約・嘱託	73 100.0	64 87.7	65 89.0	44 60.3	31 42.5	42 57.5	17 23.3	3 4.1
	派遣社員	61 100.0	53 86.9	43 70.5	34 55.7	29 47.5	39 63.9	8 13.1	2 3.3
	パート・ アルバイト	52 100.0	45 86.5	41 78.8	27 51.9	24 46.2	25 48.1	13 25.0	0 0.0
	非常勤	26 100.0	19 73.1	19 73.1	10 38.5	12 46.2	14 53.8	1 3.8	1 3.8
	業務請負等	37 100.0	33 89.2	32 86.5	27 73.0	15 40.5	25 67.6	8 21.6	0 0.0

(2) 生活実感

① 生活満足度

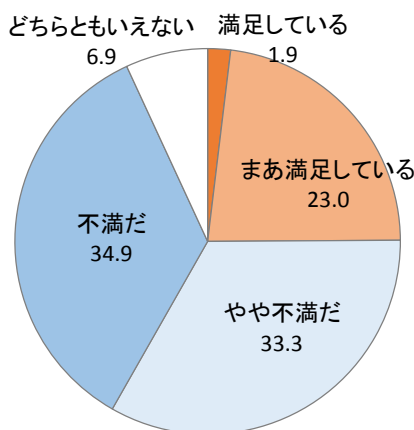
Q.12 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。

現在の生活への満足度については、「不満だ」と「やや不満だ」が計 68.2%で、「満足している」と「まあ満足している」は計 24.9%、「どちらともいえない」が 6.9%となっている。

属性別にみると、年齢が高いほど、学歴が低いほど、また、自身の年収が低いほど“不満”との回答の比率が高くなっている。

◆Q.12 生活満足度 (SA)

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.12 生活満足度 (SA)				
			満足している	まあ満足している	やや不満だ	不満だ	どちらともいえない
全体		261 100.0	5 1.9	60 23.0	87 33.3	91 34.9	18 6.9
年齢	35～39歳	88 100.0	2 2.3	19 21.6	37 42.0	25 28.4	5 5.7
	40～44歳	79 100.0	1 1.3	19 24.1	24 30.4	30 38.0	5 6.3
	45～54歳	94 100.0	2 2.1	22 23.4	26 27.7	36 38.3	8 8.5
	55～59歳	104 100.0	0 0.0	5 12.8	14 35.9	19 48.7	1 2.6
最終学歴	中卒・高卒・高卒相当	39 100.0	0 0.0	5 12.8	14 35.9	19 48.7	1 2.6
	短大・専門学校卒	83 100.0	2 2.4	21 25.3	22 26.5	34 41.0	4 4.8
	大学・大学院卒	139 100.0	3 2.2	34 24.5	51 36.7	38 27.3	13 9.4
	大学院卒	139 100.0	3 2.2	34 24.5	51 36.7	38 27.3	13 9.4
同居状況	同居者あり	136 100.0	3 2.2	32 23.5	45 33.1	50 36.8	6 4.4
	一人暮らし	125 100.0	2 1.6	28 22.4	42 33.6	41 32.8	12 9.6
自身の税込年収	150万円未満	74 100.0	2 2.7	15 20.3	18 24.3	30 40.5	9 12.2
	150万円以上	104 100.0	0 0.0	18 17.3	44 42.3	37 35.6	5 4.8
	250万円未満	104 100.0	0 0.0	18 17.3	44 42.3	37 35.6	5 4.8
	250万円以上	83 100.0	3 3.6	27 32.5	25 30.1	24 28.9	4 4.8
就業形態	契約・嘱託	75 100.0	3 4.0	24 32.0	20 26.7	25 33.3	3 4.0
	派遣社員	61 100.0	1 1.6	10 16.4	25 41.0	22 36.1	3 4.9
	パート・アルバイト	53 100.0	0 0.0	7 13.2	20 37.7	18 34.0	8 15.1
	非常勤	27 100.0	1 3.7	8 29.6	8 29.6	7 25.9	3 11.1
	業務請負等	37 100.0	0 0.0	11 29.7	13 35.1	13 35.1	0 0.0

内閣府が実施した「国民生活に関する世論調査」（2015年6月調査）の結果をみると、30～49歳の女性の約7割が現在の生活を“満足”としており、同年代の男性にも増して満足度が高い状況にある。“不満”は3割弱である。

一方、本調査では“満足”が24.9%、“不満”が68.2%という逆転した結果となっており、両調査の結果に大きな違いがあることが注目される。

【参考】内閣府「国民生活に関する世論調査」（2015年6月調査）より（その1）

◆現在の生活に対する満足度(SA)

整数：人 小数：%	該当者数	満足 している	まあ満足 している	やや 不満だ	不満だ	どちらとも いえない	わからない
総数	5,839	10.1	60.0	23.0	6.0	0.7	0.2
(女性)	3,125	11.1	60.7	21.7	5.7	0.7	0.1
20～29歳	232	19.8	63.8	12.1	3.4	—	0.9
30～39歳	412	12.1	62.6	20.9	4.1	0.2	—
40～49歳	569	7.6	61.9	25.1	4.7	0.7	—
50～59歳	543	10.5	56.2	27.1	6.1	0.2	—
60～69歳	659	8.8	61.5	22.8	5.9	0.9	0.2
70歳以上	710	13.1	60.4	17.3	7.7	1.3	0.1
(男性)	2,714	9.0	59.1	24.5	6.3	0.8	0.2
20～29歳	221	13.1	61.5	19.9	5.0	—	0.5
30～39歳	334	11.4	59.0	24.6	5.1	—	—
40～49歳	488	8.6	55.7	29.1	5.3	1.0	0.2
50～59歳	473	9.5	57.1	26.8	6.1	0.4	—
60～69歳	622	6.9	61.3	21.9	8.4	1.1	0.5
70歳以上	576	8.2	60.6	23.4	6.4	1.4	—
〔従業上の地位〕							
雇用者	2,906	9.2	62.0	23.6	4.6	0.5	0.1
自営業主	612	12.4	53.3	27.1	6.9	0.3	—
家族従事者	151	12.6	66.2	18.5	2.0	0.7	—
無職	2,170	10.5	58.7	21.4	8.0	1.2	0.2
主婦	1,251	11.4	60.4	20.3	7.1	0.9	—
主夫	71	7.0	50.7	31.0	9.9	—	1.4
その他の無職	848	9.6	57.0	22.2	9.1	1.8	0.5
〔職業〕							
管理・専門技術・事務職	1,571	11.1	64.9	20.5	2.9	0.5	0.1
管理職	181	15.5	71.8	12.7	—	—	—
専門・技術職	636	10.5	63.5	22.2	3.0	0.6	0.2
事務職	754	10.6	64.3	21.0	3.6	0.5	—
販売・サービス・保安職	1,066	9.6	57.9	25.4	6.7	0.2	0.3
農林漁業職	132	8.3	66.7	23.5	1.5	—	—
生産・輸送・建設・労務職	900	8.3	56.0	28.3	6.6	0.8	—

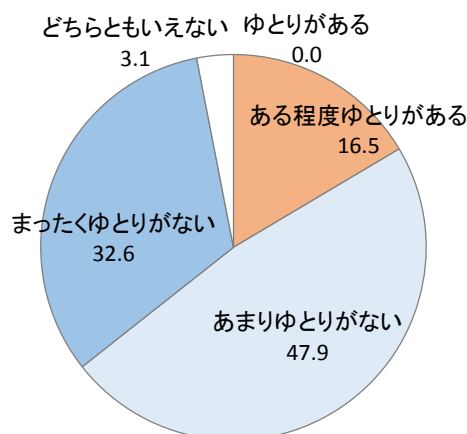
② 経済的なゆとり感

Q.13 あなたは現在、経済的にゆとりがありますか。

経済的なゆとり感については、「あまりゆとりがない」と「まったくゆとりがない」が計80.5%、「ある程度ゆとりがある」は16.5%、「どちらともいえない」が3.1%、「ゆとりがある」は皆無であった。

属性別にみると、年収が低いほど、最終学歴が低いほど“ゆとりがない”との回答の比率が高い。就業形態別では「パート・アルバイト」、「非常勤」、「業務請負等」で、「まったくゆとりがない」が4割を超えている。

◆Q.13 経済的なゆとり感 (SA)

n=261
(単位：%)

上段：人 下段：%		合計	Q.13 経済的なゆとり感（SA）				
			ゆとりがある	ある程度 ゆとりがある	あまり ゆとりがない	まったく ゆとりがない	どちらとも いえない
全体		261 100.0	0 0.0	43 16.5	125 47.9	85 32.6	8 3.1
年 齢	35～39歳	88 100.0	0 0.0	20 22.7	45 51.1	21 23.9	2 2.3
	40～44歳	79 100.0	0 0.0	11 13.9	32 40.5	34 43.0	2 2.5
	45～54歳	94 100.0	0 0.0	12 12.8	48 51.1	30 31.9	4 4.3
最 終 学 歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	0 0.0	4 10.3	11 28.2	23 59.0	1 2.6
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	0 0.0	15 18.1	37 44.6	29 34.9	2 2.4
	大学・ 大学院卒	139 100.0	0 0.0	24 17.3	77 55.4	33 23.7	5 3.6
同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	0 0.0	23 16.9	75 55.1	34 25.0	4 2.9
	一人暮らし	125 100.0	0 0.0	20 16.0	50 40.0	51 40.8	4 3.2
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	0 0.0	7 9.5	28 37.8	39 52.7	0 0.0
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	0 0.0	9 8.7	65 62.5	27 26.0	3 2.9
	250万円以上	83 100.0	0 0.0	27 32.5	32 38.6	19 22.9	5 6.0
就 業 形 態	契約・嘱託	75 100.0	0 0.0	18 24.0	39 52.0	16 21.3	2 2.7
	派遣社員	61 100.0	0 0.0	9 14.8	35 57.4	16 26.2	1 1.6
	パート・ アルバイト	53 100.0	0 0.0	5 9.4	23 43.4	23 43.4	2 3.8
	非常勤	27 100.0	0 0.0	5 18.5	9 33.3	11 40.7	2 7.4
	業務請負等	37 100.0	0 0.0	5 13.5	16 43.2	15 40.5	1 2.7

「国民生活に関する世論調査」（2015年6月調査）のうち、現在の「所得・収入」に対する満足度をみると、30～49歳の女性の約5割が現在の所得・収入に“満足”と答えており、同年代の男性にも増して満足度が高い状況にある。また、“不満”も約5割であった。

本調査では「経済的にゆとりがありますか」という設問であり、聞き方はやや異なるが、「ゆとりがある程度ある」と答えた人が16.5%と少なく、「ゆとりがある」は一人もいない。逆に“ゆとりがない”が合わせて8割にのぼっており、両調査の結果に大きな違いがあることが注目される。

【参考】内閣府「国民生活に関する世論調査」（2015年6月調査）より（その2）

◆現在の「所得・収入」に対する満足度(SA)

整数:人 小数:%	該当者数	満足 している	まあ満足 している	やや 不満だ	不満だ	どちらとも いえない	わからない
総数	5,839	6.3	39.4	36.2	16.6	1.0	0.6
(女性)	3,125	6.9	41.4	34.5	15.6	0.9	0.8
20～29歳	232	7.3	43.1	34.9	10.3	2.2	2.2
30～39歳	412	6.1	44.9	35.0	14.1	-	-
40～49歳	569	6.0	41.5	39.0	13.4	0.2	-
50～59歳	543	5.3	42.9	33.9	17.9	-	-
60～69歳	659	5.9	37.6	37.0	17.3	1.4	0.8
70歳以上	710	10.1	41.0	28.5	16.6	1.8	2.0
(男性)	2,714	5.5	37.2	38.1	17.7	1.0	0.4
20～29歳	221	7.7	38.0	38.9	12.7	0.5	2.3
30～39歳	334	6.3	38.6	41.6	13.2	-	0.3
40～49歳	488	4.1	36.5	43.0	15.8	0.4	0.2
50～59歳	473	5.1	37.0	39.1	18.2	0.2	0.4
60～69歳	622	4.2	36.7	35.4	22.0	1.6	0.2
70歳以上	576	7.1	37.5	33.9	18.9	2.4	0.2
〔従業上の地位〕							
雇用者	2,906	5.3	41.1	38.6	14.7	0.2	0.2
自営業主	612	6.4	37.7	37.9	16.7	1.0	0.3
家族従事者	151	4.0	52.3	29.8	12.6	1.3	-
無職	2,170	7.7	36.8	32.8	19.4	2.0	1.3
主婦	1,251	8.9	40.3	32.1	16.6	1.3	0.8
主夫	71	7.0	29.6	39.4	22.5	1.4	-
その他の無職	848	6.0	32.3	33.3	23.2	3.1	2.1
〔職業〕							
管理・専門技術・事務職	1,571	6.7	47.4	34.8	10.6	0.2	0.3
管理職	181	9.9	59.7	23.2	6.1	-	1.1
専門・技術職	636	7.4	44.0	37.7	10.4	0.3	0.2
事務職	754	5.3	47.3	35.1	11.9	0.1	0.1
販売・サービス・保安職	1,066	4.1	36.2	39.8	19.3	0.6	-
農林漁業職	132	6.1	44.7	37.1	9.8	1.5	0.8
生産・輸送・建設・労務職	900	4.6	34.9	42.2	17.9	0.2	0.2

③ 時間的なゆとり感

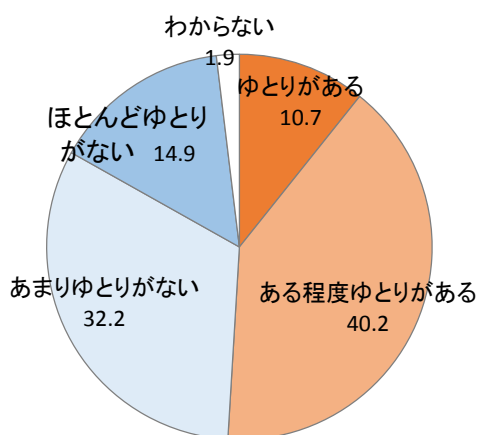
Q.14 あなたは、日ごろの生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、学業などに精一杯で、時間のゆとりがありませんか。

時間的なゆとり感については、「ゆとりがある」と「ある程度ゆとりがある」が計50.9%、「あまりゆとりがない」と「ほとんどゆとりがない」が計47.1%と、“ゆとりがある”が“ゆとりがない”を若干上回っている。

属性別にみると、年齢が高いほど、年収が高いほど、同居状況では「一人暮らし」のほうが、時間的に“ゆとりがない”との回答の比率が高い。就業形態別には、「契約・嘱託」の約6割が、“ゆとりがない”と感じている。

◆Q.14 時間的なゆとり感 (SA)

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.14 時間的なゆとり感 (SA)				
			ゆとりがある	ある程度 ゆとりがある	あまり ゆとりがない	まったく ゆとりがない	どちらとも いえない
全体		261 100.0	28 10.7	105 40.2	84 32.2	39 14.9	5 1.9
年齢	35～39歳	88 100.0	8 9.1	40 45.5	26 29.5	10 11.4	4 4.5
	40～44歳	79 100.0	12 15.2	31 39.2	26 32.9	10 12.7	0 0.0
	45～54歳	94 100.0	8 8.5	34 36.2	32 34.0	19 20.2	1 1.1
	55～59歳	39 100.0	8 20.5	12 30.8	11 28.2	7 17.9	1 2.6
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	83 100.0	8 9.6	33 39.8	24 28.9	16 19.3	2 2.4
	短大・ 専門学校卒	139 100.0	12 8.6	60 43.2	49 35.3	16 11.5	2 1.4
	大学・ 大学院卒	125 100.0	13 10.4	43 34.4	42 33.6	24 19.2	3 2.4
	一人暮らし	125 100.0	13 10.4	43 34.4	42 33.6	24 19.2	3 2.4
同居状況	同居者あり	136 100.0	15 11.0	62 45.6	42 30.9	15 11.0	2 1.5
	一人暮らし	125 100.0	13 10.4	43 34.4	42 33.6	24 19.2	3 2.4
	150万円未満	74 100.0	13 17.6	25 33.8	20 27.0	14 18.9	2 2.7
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	5 4.8	51 49.0	35 33.7	10 9.6	3 2.9
自身の 税込年 取	250万円以上	83 100.0	10 12.0	29 34.9	29 34.9	15 18.1	0 0.0
	契約・嘱託	75 100.0	3 4.0	27 36.0	31 41.3	13 17.3	1 1.3
	派遣社員	61 100.0	8 13.1	26 42.6	18 29.5	7 11.5	2 3.3
	パート・ アルバイト	53 100.0	7 13.2	24 45.3	16 30.2	4 7.5	2 3.8
就業 形態	非常勤	27 100.0	5 18.5	8 29.6	7 25.9	7 25.9	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	15 40.5	11 29.7	6 16.2	0 0.0

「国民生活に関する世論調査」（2015年6月調査）の結果をみると、30～49歳の男女は、他の年代に比べて時間的に“ゆとりがない”と感じている人の比率が高くなっており、本調査の結果と大きな差はみられない。

【参考】内閣府「国民生活に関する世論調査」（2015年6月調査）より（その3）

◆時間的なゆとり感(SA)

整数：人 小数：%	該当者数	かなり ゆとりがある	ある程度 ゆとりがある	あまり ゆとりがない	ほとんどゆとり がない	わからない
総数	5,839	18.9	47.7	24.5	8.8	0.1
(女性)	3,125	19.5	47.7	23.8	9.0	0.1
20～29歳	232	13.4	51.3	30.6	4.7	—
30～39歳	412	7.8	42.5	33.3	16.3	0.2
40～49歳	569	7.7	46.0	33.2	13.0	—
50～59歳	543	13.3	48.1	26.9	11.6	0.2
60～69歳	659	22.9	52.4	18.7	6.1	—
70歳以上	710	39.3	46.3	10.8	3.5	—
(男性)	2,714	18.2	47.6	25.4	8.6	0.2
20～29歳	221	16.3	56.6	20.8	5.9	0.5
30～39歳	334	7.8	42.8	35.9	13.5	—
40～49歳	488	5.9	43.9	36.7	13.1	0.4
50～59歳	473	7.4	47.8	35.1	9.7	—
60～69歳	622	22.7	53.2	16.7	7.4	—
70歳以上	576	39.6	43.9	12.8	3.3	0.3
〔従業上の地位〕						
雇用者	2,906	7.6	48.1	33.4	10.7	0.1
自営業主	612	13.2	47.7	26.3	12.7	—
家族従事者	151	13.2	47.7	28.5	10.6	—
無職	2,170	36.0	47.1	11.8	5.0	0.1
主婦	1,251	31.8	49.2	13.5	5.5	—
主夫	71	39.4	46.5	7.0	7.0	—
その他の無職	848	42.0	44.0	9.7	4.0	0.4
〔職業〕						
管理・専門技術・事務職	1,571	7.3	47.4	34.7	10.5	0.1
管理職	181	8.3	49.2	30.9	11.0	0.6
専門・技術職	636	6.1	47.3	35.1	11.3	0.2
事務職	754	8.1	46.9	35.3	9.7	—
販売・サービス・保安職	1,066	9.6	48.6	29.3	12.4	0.2
農林漁業職	132	13.6	47.7	30.3	8.3	—
生産・輸送・建設・労務職	900	9.7	48.6	31.0	10.8	—

④ 充実感を感じるとき

Q.15 日ごろの生活の中で、充実感を感じるのは、主にどのようなときですか。
以下からあてはまるものを、いくつでもお答えください。

生活の中で充実感を感じる時としては、「ゆったりと休養しているとき」、「趣味やスポーツに熱中しているとき」、「友人や知人と会合、雑談しているとき」が各5割を超え、次いで「仕事にうちこんでいるとき」、「勉強や教養などに身を入れているとき」が各4割を超えている（全回答者の平均選択数2.99項目）。

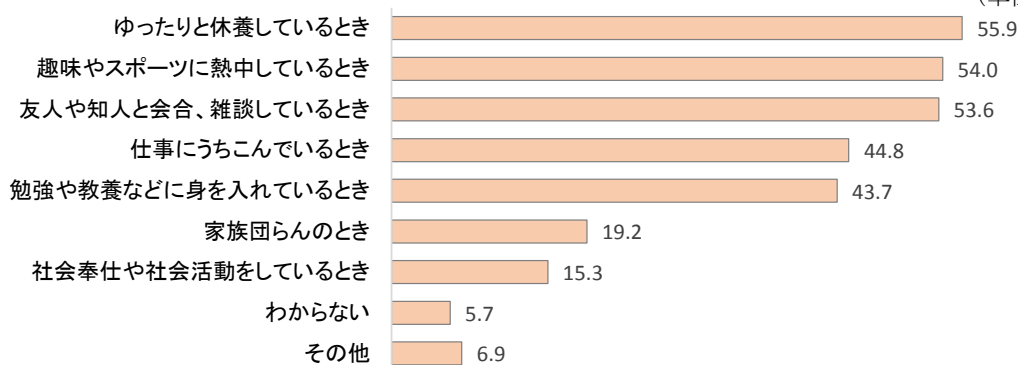
属性別にみると、就業形態では「業務請負等」の7割弱、年齢では「45～54歳」の5割半が、「仕事にうちこんでいるとき」をあげている。

「その他」には、ペットと過ごすときが3件、教会にいるとき、家族から離れているとき、などがあげられた。

◆Q.15 充実感を感じる時（MA）【値の高い順】

n=261

(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.15 充実感を感じる時（MA）								
			仕事にうち こんでいる とき	勉強や教養 などに身を入 れている とき	趣味やス ポーツに熱 中している とき	ゆったりと 休養してい る とき	家族団らん のとき	友人や知人 と会合、雑 談している とき	社会奉仕や 社会活動をし ているとき	わからない	その他
全体		261 100.0	117 44.8	114 43.7	141 54.0	146 55.9	50 19.2	140 53.6	40 15.3	15 5.7	18 6.9
年齢	35～39歳	88 100.0	35 39.8	35 39.8	52 59.1	50 56.8	15 17.0	47 53.4	10 11.4	7 8.0	5 5.7
	40～44歳	79 100.0	30 38.0	39 49.4	51 64.6	50 63.3	15 19.0	45 57.0	11 13.9	3 3.8	5 6.3
	45～54歳	94 100.0	52 55.3	40 42.6	38 40.4	46 48.9	20 21.3	48 51.1	19 20.2	5 5.3	8 8.5
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	16 41.0	20 51.3	25 64.1	25 64.1	7 17.9	19 48.7	6 15.4	2 5.1	2 5.1
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	35 42.2	33 39.8	46 55.4	40 48.2	11 13.3	46 55.4	10 12.0	2 2.4	8 9.6
	大学・ 大学院卒	139 100.0	66 47.5	61 43.9	70 50.4	81 58.3	32 23.0	75 54.0	24 17.3	11 7.9	8 5.8
	同居状況	136 100.0	56 41.2	52 38.2	74 54.4	73 53.7	38 27.9	67 49.3	19 14.0	10 7.4	11 8.1
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	26 35.1	29 39.2	32 43.2	36 48.6	14 18.9	36 48.6	17 23.0	6 8.1	9 12.2
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	49 47.1	51 49.0	62 59.6	61 58.7	24 23.1	57 54.8	13 12.5	6 5.8	3 2.9
	250万円以上	83 100.0	42 50.6	34 41.0	47 56.6	49 59.0	12 14.5	47 56.6	10 12.0	3 3.6	6 7.2
	就業形態	75 100.0	33 44.0	33 44.0	42 56.0	45 60.0	20 26.7	41 54.7	16 21.3	2 2.7	5 6.7
就業形態	契約・嘱託	61 100.0	23 37.7	23 37.7	39 63.9	37 60.7	10 16.4	29 47.5	3 4.9	5 8.2	4 6.6
	派遣社員	53 100.0	22 41.5	25 47.2	29 54.7	31 58.5	8 15.1	29 54.7	11 20.8	6 11.3	4 7.5
	パート・ アルバイト	27 100.0	12 44.4	14 51.9	14 51.9	14 51.9	6 22.2	14 51.9	6 22.2	0 0.0	0 0.0
	非常勤	37 100.0	25 67.6	14 37.8	12 32.4	16 43.2	2 5.4	23 62.2	4 10.8	2 5.4	3 8.1
	業務請負等										

「国民生活に関する世論調査」(2015年6月調査)の結果をみると、30～39歳女性の約8割、40～49歳女性の約7割が「家族団らんの時」をあげている。しかし、本調査でこれをあげた人は2割弱にとどまっており、これに代わって「ゆったり休養している時」が、世論調査にみる同世代平均より若干高くなっている。

「仕事にうちこんでいる時」の選択率が高い層をみると、世論調査においては、自営業者・農林漁業職でそれぞれ6割、年齢・性別には50～59歳男性の4割強がこれをあげている。本調査では、回答者全体の4割半(就業形態別には「業務請負等」の7割弱、年齢別には「45～54歳」の5割半)がこれをあげており、非正規職シングル女性が、同世代の男女と比べて仕事に重きを置く傾向にあることがみてとれる。

【参考】内閣府「国民生活に関する世論調査」(2015年6月調査)より(その4)

◆充実感を感じる時(MA)

生活の充実感で「十分充実感を感じている」、「まあ充実感を感じている」、「あまり充実感を感じていない」、「どちらともいえない」と答えた人について

整数: 人 小数: %	該当者数	仕事にうち こんでいる 時	勉強や教養 などに身を 入れている 時	趣味やス ポーツに熱 中している 時	ゆったりと休 養している 時	家族団らん の時	友人や知人 と会合、雑 談している 時	社会奉仕や 社会活動 をしている時	わからない	その他
総数	5,518	32.2	13.6	42.0	45.0	52.0	45.9	9.6	1.3	0.4
(女性)	2,959	29.3	13.1	37.0	48.0	56.3	55.1	8.7	1.4	0.4
20～29歳	225	24.4	15.6	44.9	57.3	57.8	66.7	2.2	0.4	0.4
30～39歳	406	30.3	10.8	36.2	52.5	76.4	58.9	3.9	0.2	—
40～49歳	547	40.2	11.2	33.3	52.8	69.5	52.1	8.2	1.1	—
50～59歳	518	37.3	13.9	33.6	53.1	59.5	56.4	10.4	0.8	0.2
60～69歳	629	26.2	16.7	39.6	43.1	48.0	52.8	11.1	1.1	0.2
70歳以上	634	17.5	11.4	38.3	38.5	37.2	52.4	10.6	3.6	1.6
(男性)	2,559	35.6	14.1	47.8	41.6	47.0	35.2	10.6	1.2	0.3
20～29歳	214	31.8	18.2	65.4	44.9	35.5	58.9	5.6	0.5	—
30～39歳	325	41.5	15.7	50.2	40.3	63.1	36.0	5.5	—	0.3
40～49歳	470	41.9	11.3	45.3	48.7	57.4	30.0	7.7	1.1	—
50～59歳	456	42.8	13.4	49.8	45.2	52.2	26.5	9.9	0.4	—
60～69歳	585	33.5	14.2	47.4	37.3	41.9	34.9	13.3	1.9	0.5
70歳以上	509	23.4	14.3	39.9	36.1	33.4	37.7	16.1	2.2	0.6
〔従業上の地位〕										
雇用者	2,817	44.0	12.6	42.4	49.1	55.9	45.3	7.4	0.6	0.1
自営業主	584	57.0	16.6	41.8	33.2	44.2	39.0	14.0	1.5	0.3
家族従事者	144	36.8	12.5	37.5	39.6	61.8	44.4	13.9	0.7	—
無職	1,973	7.7	14.1	42.0	43.2	48.1	48.8	11.0	2.3	0.8
主婦	1,166	7.7	12.7	38.8	45.8	55.8	55.3	10.3	1.9	0.8
主夫	61	3.3	13.1	47.5	34.4	26.2	32.8	13.1	6.6	—
その他の無職	746	7.9	16.5	46.5	39.8	37.8	39.9	11.9	2.7	0.8
〔職業〕										
管理・専門技術・事務職	1,540	48.5	17.2	46.2	47.5	57.3	44.7	9.7	0.5	0.1
管理職	181	54.1	17.1	48.1	42.0	64.6	34.3	13.8	—	—
専門・技術職	627	55.5	20.4	44.5	48.3	55.7	42.6	10.5	0.8	0.2
事務職	732	41.1	14.5	47.3	48.2	57.0	49.2	7.9	0.3	0.1
販売・サービス・保安職	1,031	45.1	13.6	37.4	45.8	55.2	47.3	9.1	1.3	0.2
農林漁業職	122	61.5	9.0	27.9	27.9	46.7	41.8	13.9	1.6	0.8
生産・輸送・建設・労務職	852	39.8	6.3	42.1	46.4	48.4	39.9	6.0	0.5	—

(3) 悩みや不安

① 悩みや不安

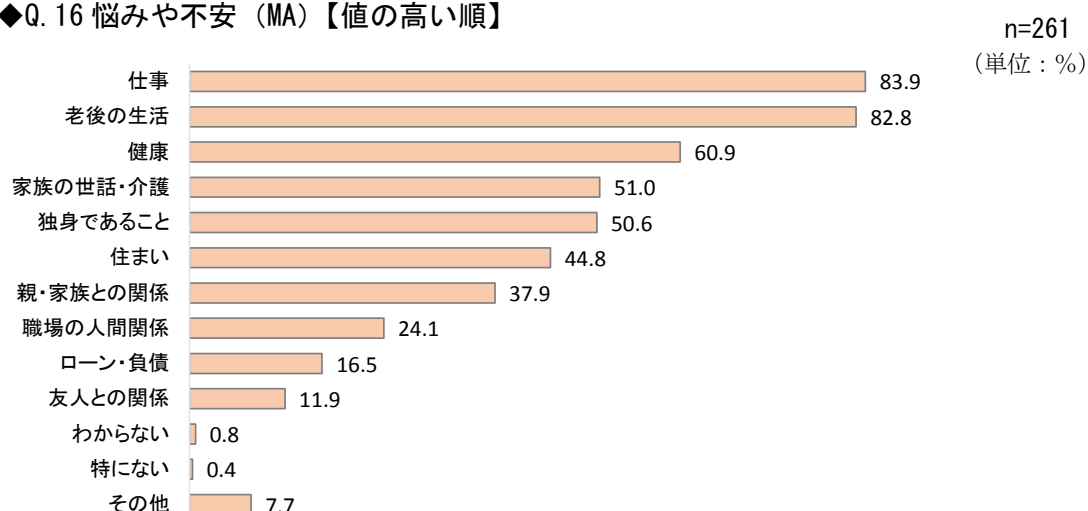
Q.16 現在、あなたが感じている悩みや不安はどのようなことについてですか。
いくつでもあげてください。

現在の悩みや不安については、多数の項目があげられた（全回答者の平均選択数 4.73 項目）。うち、「仕事」、「老後の生活」を 8 割以上が、「健康」を約 6 割があげ、「家族の世話・介護」、「独身であること」を約 5 割があげた。

属性別にみると、「仕事」をあげた人の比率は「派遣社員」、「大学・大学院卒」、「一人暮らし」でとくに高く、「老後の生活」は、40 歳以上でとくに高くなっている。また、年収「150 万円未満」、「パート・アルバイト」では、「健康」をあげた人が各 7 割前後みられる。「家族の世話・介護」は 40 歳以上で過半数を超え、一方「35～39 歳」では 6 割が「独身であること」をあげている。

「その他」には、同性パートナーとの生活の法的保障、同性愛者である生きづらさ、出産ラストチャンス、奨学金の返済、今の政権、などがあげられた。

◆Q.16 悩みや不安（MA）【値の高い順】



第2章 ウェブアンケート調査の結果

上段：人 下段：%		合計	Q.16 悩みや不安 (MA)												
			健康	住まい	仕事	独身で あること	老後の 生活	親・家族 との関係	職場の 人間関係	友人 との関係	家族の 世話・介 護	ローン・ 負債	特にな い	わから ない	その他
全体		261 100.0	159 60.9	117 44.8	219 83.9	132 50.6	216 82.8	99 37.9	63 24.1	31 11.9	133 51.0	43 16.5	1 0.4	2 0.8	20 7.7
年 齢	35～39歳	88 100.0	55 62.5	39 44.3	74 84.1	54 61.4	61 69.3	39 44.3	24 27.3	12 13.6	40 45.5	11 12.5	1 1.1	1 1.1	9 10.2
	40～44歳	79 100.0	43 54.4	36 45.6	65 82.3	38 48.1	71 89.9	27 34.2	19 24.1	8 10.1	42 53.2	17 21.5	0 0.0	0 0.0	8 10.1
	45～54歳	94 100.0	61 64.9	42 44.7	80 85.1	40 42.6	84 89.4	33 35.1	20 21.3	11 11.7	51 54.3	15 16.0	0 0.0	1 1.1	3 3.2
	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	26 66.7	27 69.2	33 84.6	23 59.0	31 79.5	15 38.5	7 17.9	5 12.8	19 48.7	10 25.6	0 0.0	1 2.6	5 12.8
最 終 学 歴	短大・ 専門学校卒	83 100.0	49 59.0	34 41.0	64 77.1	35 42.2	70 84.3	30 36.1	15 18.1	9 10.8	35 42.2	10 12.0	1 1.2	1 1.2	3 3.6
	大学・ 大学院卒	139 100.0	84 60.4	56 40.3	122 87.8	74 53.2	115 82.7	54 38.8	41 29.5	17 12.2	79 56.8	23 16.5	0 0.0	0 0.0	12 8.6
	同居者あり	136 100.0	78 57.4	52 38.2	110 80.9	72 52.9	113 83.1	56 41.2	38 27.9	17 12.5	77 56.6	21 15.4	0 0.0	2 1.5	12 8.8
	一人暮らし	125 100.0	81 64.8	65 52.0	109 87.2	60 48.0	103 82.4	43 34.4	25 20.0	14 11.2	56 44.8	22 17.6	1 0.8	0 0.0	8 6.4
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	50 67.6	34 45.9	60 81.1	39 52.7	60 81.1	30 40.5	18 24.3	16 21.6	38 51.4	11 14.9	0 0.0	2 2.7	6 8.1
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	69 66.3	48 46.2	90 86.5	56 53.8	88 84.6	45 43.3	32 30.8	12 11.5	55 52.9	16 15.4	0 0.0	0 0.0	13 12.5
	250万円以上	83 100.0	40 48.2	35 42.2	69 83.1	37 44.6	68 81.9	24 28.9	13 15.7	3 3.6	40 48.2	16 19.3	1 1.2	0 0.0	1 1.2
就 業 形 態	契約・嘱託	75 100.0	43 57.3	30 40.0	62 82.7	39 52.0	63 84.0	28 37.3	23 30.7	7 9.3	36 48.0	9 12.0	0 0.0	0 0.0	3 4.0
	派遣社員	61 100.0	33 54.1	31 50.8	55 90.2	30 49.2	49 80.3	21 34.4	12 19.7	7 11.5	32 52.5	8 13.1	0 0.0	0 0.0	6 9.8
	パート・ アルバイト	53 100.0	39 73.6	21 39.6	45 84.9	28 52.8	45 84.9	25 47.2	22 41.5	13 24.5	27 50.9	13 24.5	0 0.0	1 1.9	4 7.5
	非常勤	27 100.0	14 51.9	13 48.1	20 74.1	8 29.6	21 77.8	11 40.7	3 11.1	1 3.7	16 59.3	3 11.1	1 3.7	0 0.0	2 7.4
	業務請負等	37 100.0	25 67.6	18 48.6	30 81.1	20 54.1	31 83.8	11 29.7	2 5.4	1 2.7	17 45.9	10 27.0	0 0.0	1 2.7	4 10.8

② 悩みや不安の内容

Q.17 Q.16 でチェックを入れた中で、もっとも悩んだり、不安に感じていることはどのようなことですか。よろしければ具体的にお書きください。(400 字以内)

この設問に対しては、209 人（261 人中の 80.1%）が何らかの内容を記述した。

以下は、複数みられた記述を中心に抜粋し、大まかに区分して年齢順に並べたものである。

《現在の仕事や生計の悩み・不安について》-----

「雇用継続」「低賃金」「借金」「医療費出せず」「仕事量多い」など

- 職業柄非正規職の募集ばかりで、雇用の継続性はいつも不安。自分だけでなく同僚も同じ状況なので、せっかく仲良くなってもいつまで一緒に働けるかと不安。(38 歳)
- 派遣を転々としたり、スポットのバイトをし、借金をして何とか生きている。学歴もないのでまっとうな仕事にもつけない、派遣先で社員よりも働いても給料は安い。意見も聞いてもらえない。仕事が社員よりできても学歴がない人間は正規雇用されない。そして増えゆく借金。もうどうしたらいいかわからない。(39 歳)
- 現在、社会で働くことは身の危険をはらんでいることだと感じてしまう会社の雰囲気。孤独感。社内でのやりとりに疲弊。(40 歳)
- 昼間は派遣、夜と週末は在宅の仕事とダブルワーク。派遣法改正で今の仕事は今後 3 年しか続けることができなくなった。3 年後の主収入確保が今から心配。副業があるので原則副業禁止の正社員になるのは難しい。両親に介護が必要になったり、自分が病気になったらとたんに生活が破綻する。(40 歳)
- 派遣から契約社員になっていたが、2013 年の労働契約法改正により 5 年後に正社員雇用したくない会社側から契約満了で切られた。年齢的にまた非正規職か。(40 歳)
- 女性ばかりの職場で、かつ給料が安い。休日は疲れ切ってひきこもり、出会いもまったくくない。せめて給料が上がってほしい。(41 歳)
- 派遣雇用で収入が安定せず、貯金をしても税金や家賃、部屋を借りるための前借り金返済等で全くゆとりがない。体調を崩したら医療費も出せず、生活が立ち行かなくなる不安。郊外の安い賃貸に引っ越しても、派遣社員は給与に交通費が含まれるのでプラスマイナスゼロになってしまう。仕方なく都内に暮らしている。(42 歳)
- 長い間借金をしている。債務整理をされていて払い続けているが、病気で実家に帰り、復職したものの体力的につらく、パートに転職、かけもちしている。自立したいが、貯金どころか健康保険も払っていない。(44 歳)
- 将来への不安を軽減するために資格を取得したいが、正社員と同じ仕事内容で仕事量が多く、日々の生活で手一杯。金銭面の不安があり、一人暮らしもできない。(44 歳)
- 今後の職探しに役立ちそうな資格の勉強をしたいと思っても、学ぶためのお金がない。結婚歴なしのパートタイマー。同じ会社で 15 年働き、時給が上がるのは地域の最低賃金が上がったときだけ。最低賃金ぎりぎりの給料で、本業だけでは生活が成り立たず、週 1 回は(日雇い)派遣の仕事をしているが、現在は派遣法により(生たる業務の収入が)年 500 万円に満たない場合、仕事に限られている。年収が足りないから副業ができないのはおかしいと思う。(48 歳)

- 障害者雇用でパートで働いている。時給は最低賃金で障害年金もいただいているが、生活は苦しい。薬の副作用があり、疲れやすく、短時間しか働けず。契約更新してもらえるか、毎年不安。親が死んだらどうしようと毎日くよくよ考える。(48 歳)
- 現在の職場で3年前にしたケガが完治せず、日常生活に支障をきたしている。転職も考えたが、現在のパートをどうにか継続。仕事内容が変化し、販売から営業的なこともさせられ、苦痛。周りも50~60歳代で転職もできず、みんながんばっているが、ストレスで雰囲気も悪化。父母の年齢もあり、別のパートを併用するか、仕事自体を変えなければと夜も眠れずとても憂鬱。(50 歳)
- 親の介護をしていて貯金を使い果たしたため不安。(54 歳)

《将来の不安について》-----

「親なき後の生計」「親の介護」「体調不良と生活困窮」「孤独」など

- 退職金もなくボーナスもない。将来生きていくのであれば生活保護しかないと思う。安楽死施設を開設してほしい。(35 歳)
- 高齢出産の年齢に入り、パートナー不在の老後を想像すると、自分の健康や仕事に何かあった際、一人で解決していけるか不安。(35 歳)
- 非正規職のまま、家族がいなくなったら一人で生計を立てていけるのか。しかし、正社員になって、徹夜などの長時間労働や複雑な人間関係に耐えられる自信がない。(36 歳)
- 親が離婚しているので、からだが弱くて一人暮らしの母親の将来的な介護。(40 歳)
- 両親に軽いボケが時々見られ、一緒に暮らしていてイライラする。自分のことだけでも悩みが尽きないのに、両親の面倒をこの先見ることになるかと思うと未来が暗い。しかし、実家に暮らし、世話になっている分、親の介護は必須。(41 歳)
- いつまで働けるのかわからないし、元気なうちに死にたいといつも思っている。ペットがいるので、できれば在宅中に大地震がきて、一緒に死ねたら。あと5年も生きられればいい。(42 歳)
- 両親サポートのため東京を離れることになり、派遣を離職。交通費不支給のため、地方からの通勤は無理。自分も婦人科手術のため、しばらく働けず。現在無収入で親の年金と貯金で生活。きょうだいも親戚づきあいもなく、両親が亡くなったら不安のみ。(43 歳)
- 母子家庭で育ち、現在母との二人暮らし。20代は正社員だったがリストラされ、その後派遣、アルバイト、直近は1年更新の契約社員で現在求職中。ずっと非正規職で貯金もなく、求人も非正規職ばかりで求職活動も厳しい。(44 歳)
- カードの返済が80万ほどあり、貯蓄ゼロである。親が地方へ移住すると言い出したが、ついていっても仕事がなくなる。かといって一人暮らしもできない。ホームレスは困ると思いつつ、そうなるのかと思うことがある。(44 歳)
- パート職で体調を崩し、週2-3日しか働けない。生活は困窮。資格取得をめざして勉強中だが、一人で老後まで生活をしていけるのか。(44 歳)
- 老後、介護が必要なからだに(自分が)なったらと考えると不安。年金だけでは施設に入るこ

第2章 ウェブアンケート調査の結果

とも不可能。自分はきっと孤独死するだろう。(44 歳)

- 健康に不安があるため、仕事を失う→仕事につけない→両親の介護がのしかかってくる→老後の生活不安、という負のスパイラルに陥るのではないかと悩んでいる。(47 歳)
- 現在両親の介護中で私自身もがんサバイバー。亡き夫の闘病中の負債や分譲マンションのローン等に困窮し、両親の年金、きょうだいの援助で生活している。両親亡き後は即貧困になると覚悟。その時のために今から夜間に在宅仕事をすると思うが、そこまでの余裕がない。(49 歳)
- 長く派遣社員などで働いてきた。30 代前半で体調を崩し結婚も子どもも望めない。派遣も満了し、半年職業訓練に通ったが仕事がなかなか見つからず。年金は期間免除。社会保険料や税はとても払えない。母が亡くなれば私も死ぬしかない。(49 歳)
- 母親が認知症初期で遠い他県で一人暮らし。長年離れて暮らしてきたし、昔の確執もあるので、しかるべき時には施設に入ってほしいが、スムーズに移行できるか不安。(50 歳)
- 親の死後、孤独になること。公務員だった母の年金収入が途絶えることによる生活の不安。(51 歳)
- 親が介護施設に入居している。親自身の年金全額でも足らずきょうだい費用を分担しているが、非正規職のかけもちで収入も少なく、貯金を切り崩しながらの(介護費)負担。他のきょうだいも家庭の事情がある。いずれ貯金も使い果たすのも見えている中、唯一独り身の自分の老後を考えると、国民年金だけで生活できるのか不安。(53 歳)

《家族・結婚・住まいの悩みや不安について》-----

- 結婚できるのか。できたとしても出産できないのでは。(専門職の)仕事が毎年替わっている、今後仕事ができるか不安。経験をどう積み上げていくか明確でない。(37 歳)
- UR の賃貸住宅に住んでいて環境も気に入っているが、団地の統廃合で住めなくなることが予想され、不安だ。(38 歳)
- 家族がほしいが、付き合える異性に出会えない。親が死んだらきょうだいもないので天涯孤独になるのがつらい。性別年齢問わず、家族という共同体がほしい。パートナーシップ制度を発展させ、心や考え方が近い人間と家族になれたり、パートナーたちと虐待を受けたり安全な場所がない子どもたちへの支援(ともに暮らしたり、食事や多少の学費援助など)ができるシステムがあればと願う。(39 歳)
- 病気、ローンをかかえている自分が結婚できるのか。(40 歳)
- 同性パートナーとの法的保障がないので、老後の生活に不安がある。(41 歳)
- UR 賃貸でも独身者が借りられる物件が少なく、差別を感じる。(42 歳)
- 安アパートなので隣近所に筒抜けでプライバシーが乏しい。引越すにも賃貸だと保証人や収入審査が厳しくてなかなかできない。(43 歳)
- 婚活もしているがなかなかうまくいかず、自分が生きていくことができるのか見通しが立たず、近い将来すら大変不安。未来のことなど恐ろしくて考えられない。(48 歳)

《自分の健康や生きづらさなどについて》-----

- 派遣で働いた工場内で着用義務だった手袋でアレルギーを起こし転職。今は大きな物流倉庫の中を一日中歩き続けるので体力の消耗が激しい。(35 歳)
- 摂食障害をかかえながら働いており、いつまでもつのか考えるときがある。(35 歳)
- 一番不安なのは健康問題。一人でいることそのものに不満はほとんどなく、家賃が安いのでどうにかなってきたが、自分が倒れることを考えると不安。仕事につくとしても、健康さえどうにかなれば不安感はもっと軽減されただろう。そして、健康の問題には仕事の働き過ぎの問題や、人間関係が深く関わっている。(42 歳)
- すべてがつながっている。たとえば、仕事がうまくいっていないと収入も減り、健康状態が思わしくなくなり、将来への不安でいっぱいになる。そういうときはひきこもりがちになり、さらなる悪循環になる。(42 歳)
- もともと丈夫でなく、更年期の症状なども加わってきて健康状態が不安。健康であれば、稼いだり、親の介護などもできると思えるが、自分が健康でないとその気持ち自体が萎えてしまう。(47 歳)
- 持病があり、経済困窮。仕事はきつく、休日は寝ていることが多い。職場では人間関係が希薄で能力主義のため、いつも気を張っている。精一杯努力してこんな生活か。(47 歳)
- 健康を害したが、難病指定もなく、自費なので厳しい。環境に配慮してくれる職場もないので、どうしていいかわからない (49 歳)
- 家族と自分の健康が一番気がかり。家族、自分のどちらが倒れても今の生活が成り立たなくなる。非正規職のため、病気になっても休職することができず不安。(50 歳)
- 事情があってやりがいのある仕事を離れた後、非正規職で働いており、本当の自分の居場所がないと感じ、この歳になって自分探しをしている状態が不安。(51 歳)

《その他 社会の対応・視線などについて》-----

- 年齢も上がっているのに独身、子どもなしだと非国民と思われる。国も生まないのが問題という。人として生きる価値なし。うわべだけは世の中は変わったとか、欧米に倣ってと言っても、結局、独身、子どもなし、職歴なしだと変な目で見られる。(37 歳)
- 体調不良で救急搬送された際、付き添いがないことを理由に受け入れを断る病院が多かった。病気になっても頼れる家族がいない。独身女性は病院にも嫌がられる。財力がなく、お金で解決できないのはつらい。(42 歳)

第2章 ウェブアンケート調査の結果

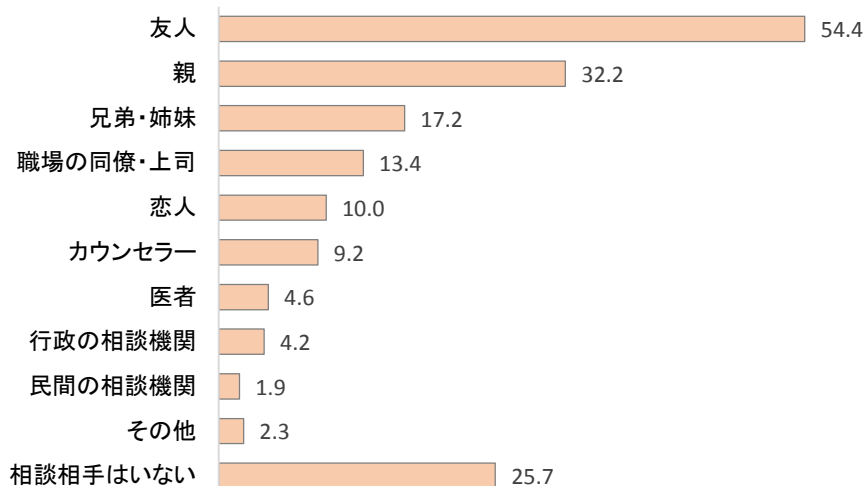
③ 主な相談先

Q. 18 あなたは悩みや不安があるとき、主に誰に相談していますか。3つまでお答えください。

悩みや不安の相談先としては、「友人」が54.4%と多く、「親」が32.2%でこれに次いでいる。「相談相手はいない」も25.7%みられ、とくに「派遣社員」では4割弱がこれをあげている（全回答者の平均選択数1.78項目）。

◆Q. 18 主な相談先（MA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q. 18 主な相談先（MA）											
			親	兄弟・ 姉妹	親族	恋人	友人	職場の同 僚・上司	カウンセ ラー	医者	民間の 相談機関	行政の 相談機関	相談相手 はいない	その他
全体		261 100.0	84 32.2	45 17.2	7 2.7	26 10.0	142 54.4	35 13.4	24 9.2	12 4.6	5 1.9	11 4.2	67 25.7	6 2.3
年齢	35～39歳	88 100.0	34 38.6	12 13.6	0 0.0	5 5.7	47 53.4	15 17.0	7 8.0	5 5.7	3 3.4	3 3.4	22 25.0	2 2.3
	40～44歳	79 100.0	26 32.9	18 22.8	2 2.5	11 13.9	43 54.4	13 16.5	3 3.8	4 5.1	0 0.0	2 2.5	19 24.1	1 1.3
	45～54歳	94 100.0	24 25.5	15 16.0	5 5.3	10 10.6	52 55.3	7 7.4	14 14.9	3 3.2	2 2.1	6 6.4	26 27.7	3 3.2
	55～59歳	39 100.0	9 23.1	8 20.5	0 0.0	4 10.3	19 48.7	6 15.4	2 5.1	2 5.1	1 2.6	1 2.6	10 25.6	0 0.0
最終学歴	短大・ 専門学校卒	83 100.0	26 31.3	13 15.7	2 2.4	7 8.4	49 59.0	10 12.0	9 10.8	2 2.4	1 1.2	4 4.8	22 26.5	4 4.8
	大学・ 大学院卒	139 100.0	49 35.3	24 17.3	5 3.6	15 10.8	74 53.2	19 13.7	13 9.4	8 5.8	3 2.2	6 4.3	35 25.2	2 1.4
	同居者あり	136 100.0	45 33.1	23 16.9	3 2.2	15 11.0	68 50.0	11 8.1	13 9.6	7 5.1	3 2.2	4 2.9	39 28.7	2 1.5
	一人暮らし	125 100.0	39 31.2	22 17.6	4 3.2	11 8.8	74 59.2	24 19.2	11 8.8	5 4.0	2 1.6	7 5.6	28 22.4	4 3.2
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	24 32.4	12 16.2	5 6.8	6 8.1	45 60.8	11 14.9	9 12.2	6 8.1	1 1.4	5 6.8	17 23.0	2 2.7
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	39 37.5	26 25.0	2 1.9	8 7.7	48 46.2	14 13.5	11 10.6	5 4.8	2 1.9	5 4.8	26 25.0	2 1.9
	250万円以上	83 100.0	21 25.3	7 8.4	0 0.0	12 14.5	49 59.0	10 12.0	4 4.8	1 1.2	2 2.4	1 1.2	24 28.9	2 2.4
	250万円未満	74 100.0	24 32.4	12 16.2	5 6.8	6 8.1	45 60.8	11 14.9	9 12.2	6 8.1	1 1.4	5 6.8	17 23.0	2 2.7
就業 形態	契約・嘱託	75 100.0	25 33.3	14 18.7	2 2.7	9 12.0	47 62.7	14 18.7	5 6.7	1 1.3	1 1.3	1 1.3	15 20.0	3 4.0
	派遣社員	61 100.0	18 29.5	10 16.4	1 1.6	6 9.8	28 45.9	9 14.8	2 3.3	3 4.9	2 3.3	2 3.3	23 37.7	2 3.3
	パート・ アルバイト	53 100.0	23 43.4	10 18.9	2 3.8	5 9.4	26 49.1	7 13.2	11 20.8	3 5.7	2 3.8	4 7.5	11 20.8	0 0.0
	非常勤	27 100.0	5 18.5	4 14.8	1 3.7	2 7.4	17 63.0	3 11.1	2 7.4	1 3.7	0 0.0	1 3.7	5 18.5	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	12 32.4	6 16.2	1 2.7	3 8.1	21 56.8	2 5.4	2 5.4	2 5.4	0 0.0	1 2.7	11 29.7	0 0.0
	パート・ アルバイト	53 100.0	23 43.4	10 18.9	2 3.8	5 9.4	26 49.1	7 13.2	11 20.8	3 5.7	2 3.8	4 7.5	11 20.8	0 0.0

3 仕事について

(1) 初職

① 初職の就業形態

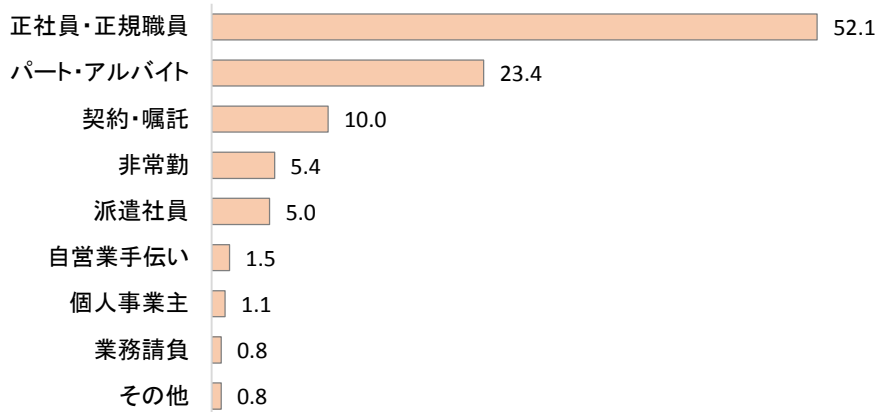
Q.19 学校を卒業(中退)したあと最初についた仕事の就業形態は、以下のどれにあてはまりますか。

学校卒業後についた初職の就業形態は、正規職（正社員・正規職員）が52.1%と半数強みられるものの、非正規職（正社員・正規職員以外の雇用や請負等）も半数近くにのぼっている。

とくに、「35～39歳」（約6割が大学卒業以上）は、約7割が初職から非正規職についている。就業形態としては「パート・アルバイト」が3割と最も多く、正規職を上回っている。

◆Q.19 初職の就業形態（SA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.19 初職の就業形態（SA）								
			正社員・ 正規職員	契約・嘱託	派遣社員	パート・ アルバイト	非常勤	自営業 手伝い	業務請負	個人 事業主	その他
全体		261 100.0	136 52.1	26 10.0	13 5.0	61 23.4	14 5.4	4 1.5	2 0.8	3 1.1	2 0.8
年齢	35～39歳	88 100.0	26 29.5	11 12.5	9 10.2	27 30.7	10 11.4	1 1.1	1 1.1	2 2.3	1 1.1
	40～44歳	79 100.0	45 57.0	4 5.1	3 3.8	23 29.1	1 1.3	2 2.5	1 1.3	0 0.0	0 0.0
	45～54歳	94 100.0	65 69.1	11 11.7	1 1.1	11 11.7	3 3.2	1 1.1	0 0.0	1 1.1	1 1.1
	55～59歳	94 100.0	65 69.1	11 11.7	1 1.1	11 11.7	3 3.2	1 1.1	0 0.0	1 1.1	1 1.1
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	19 48.7	2 5.1	1 2.6	13 33.3	0 0.0	2 5.1	1 2.6	1 2.6	0 0.0
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	46 55.4	10 12.0	3 3.6	21 25.3	1 1.2	2 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	大学・ 大学院卒	139 100.0	71 51.1	14 10.1	9 6.5	27 19.4	13 9.4	0 0.0	1 0.7	2 1.4	2 1.4
	同居状況	136 100.0	71 52.2	13 9.6	6 4.4	34 25.0	5 3.7	4 2.9	1 0.7	2 1.5	0 0.0
自身の 税込年 収	同居者あり	125 100.0	65 52.0	13 10.4	7 5.6	27 21.6	9 7.2	0 0.0	1 0.8	1 0.8	2 1.6
	一人暮らし	136 100.0	71 52.2	13 9.6	6 4.4	34 25.0	5 3.7	4 2.9	1 0.7	2 1.5	0 0.0
	150万円未満	74 100.0	33 44.6	5 6.8	3 4.1	23 31.1	4 5.4	2 2.7	1 1.4	2 2.7	1 1.4
	150万円以上	104 100.0	61 58.7	11 10.6	4 3.8	20 19.2	4 3.8	2 1.9	1 1.0	1 1.0	0 0.0
就業 形態	250万円未満	83 100.0	43 51.8	9 10.8	6 7.2	18 21.7	6 7.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2
	250万円以上	83 100.0	43 51.8	9 10.8	6 7.2	18 21.7	6 7.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.2
	契約・嘱託	75 100.0	40 53.3	15 20.0	2 2.7	14 18.7	3 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.3
	派遣社員	61 100.0	35 57.4	3 4.9	8 13.1	12 19.7	2 3.3	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	パート・ アルバイト	53 100.0	24 45.3	2 3.8	3 5.7	21 39.6	1 1.9	2 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	非常勤	27 100.0	16 59.3	2 7.4	0 0.0	2 7.4	7 25.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
業務請負等	業務請負等	37 100.0	17 45.9	3 8.1	0 0.0	9 24.3	1 2.7	1 2.7	2 5.4	3 8.1	1 2.7

第2章 ウェブアンケート調査の結果

② 初職の職種

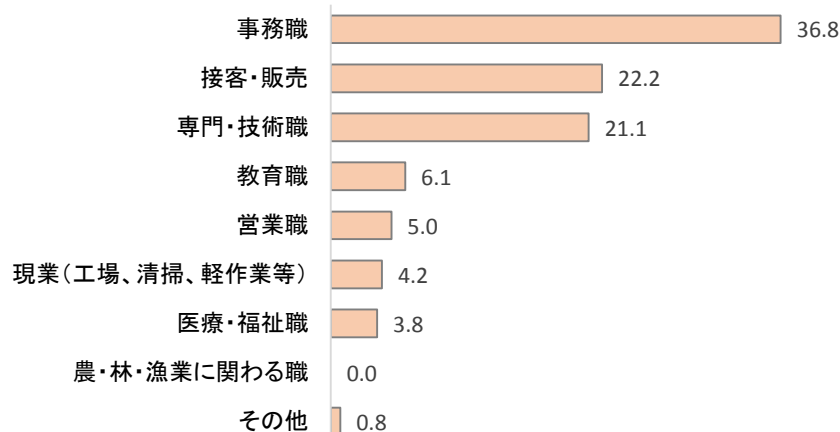
Q. 20 学校を卒業(中退)したあと最初についた仕事の職種は、以下のどれにあてはまりますか。

学校卒業後についた初職の職種は、「事務職」が 36.8%と 3 人に 1 人以上の比率となっており、「接客・販売」、「専門・技術職」が約 2 割でこれに次いでいる。

現在の就業形態別に初職の職種をみると、「派遣社員」の 5 割近くが「事務職」をあげ、「非常勤」は「教育職」、「業務請負等」は「専門・技術職」がそれぞれ 1 位となっている。

◆Q. 20 初職の職種 (SA) 【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q. 20 初職の職種 (SA)								
			事務職	営業職	専門・ 技術職	医療・ 福祉職	教育職	接客・販売	現業(工場、清 掃、軽作業等)	農・林・漁業 に関わる職	その他
全体		261 100.0	96 36.8	13 5.0	55 21.1	10 3.8	16 6.1	58 22.2	11 4.2	0 0.0	2 0.8
年齢	35～39歳	88 100.0	33 37.5	0 0.0	15 17.0	3 3.4	8 9.1	25 28.4	4 4.5	0 0.0	0 0.0
	40～44歳	79 100.0	26 32.9	9 11.4	14 17.7	2 2.5	3 3.8	18 22.8	5 6.3	0 0.0	2 2.5
	45～54歳	94 100.0	37 39.4	4 4.3	26 27.7	5 5.3	5 5.3	15 16.0	2 2.1	0 0.0	0 0.0
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	16 41.0	1 2.6	5 12.8	0 0.0	1 2.6	12 30.8	4 10.3	0 0.0	0 0.0
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	32 38.6	2 2.4	20 24.1	3 3.6	0 0.0	21 25.3	4 4.8	0 0.0	1 1.2
	大学・ 大学院卒	139 100.0	48 34.5	10 7.2	30 21.6	7 5.0	15 10.8	25 18.0	3 2.2	0 0.0	1 0.7
同居状況	同居者あり	136 100.0	61 44.9	5 3.7	21 15.4	3 2.2	7 5.1	30 22.1	8 5.9	0 0.0	1 0.7
	一人暮らし	125 100.0	35 28.0	8 6.4	34 27.2	7 5.6	9 7.2	28 22.4	3 2.4	0 0.0	1 0.8
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	21 28.4	6 8.1	13 17.6	3 4.1	4 5.4	19 25.7	7 9.5	0 0.0	1 1.4
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	45 43.3	2 1.9	19 18.3	5 4.8	6 5.8	23 22.1	3 2.9	0 0.0	1 1.0
	250万円以上	83 100.0	30 36.1	5 6.0	20 24.1	2 2.4	6 7.2	15 18.1	0 0.0	0 0.0	5 6.0
就業 形態	契約・嘱託	75 100.0	26 34.7	7 9.3	15 20.0	2 2.7	1 1.3	23 30.7	1 1.3	0 0.0	0 0.0
	派遣社員	61 100.0	29 47.5	3 4.9	14 23.0	3 4.9	3 4.9	9 14.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	パート・ アルバイト	53 100.0	20 37.7	1 1.9	5 9.4	4 7.5	1 1.9	14 26.4	8 15.1	0 0.0	0 0.0
	非常勤	27 100.0	6 22.2	0 0.0	6 22.2	0 0.0	9 33.3	5 18.5	0 0.0	0 0.0	1 3.7
	業務請負等	37 100.0	12 32.4	1 2.7	14 37.8	1 2.7	2 5.4	5 13.5	2 5.4	0 0.0	0 0.0

(2) 現在の就業状況

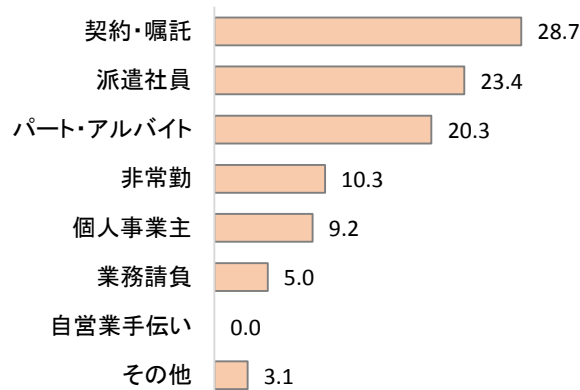
① 現在の就業形態

Q. 21 現在のあなたの仕事の就業形態は、以下のどれにあてはまりますか。

現在の就業形態は、「契約・嘱託」28.7%、「派遣社員」23.4%、「パート・アルバイト」20.3%の順で多く、「業務請負等」（個人事業主・業務請負）、「非常勤」も約1割ずつみられる。

◆Q. 21 現在の就業形態（SA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



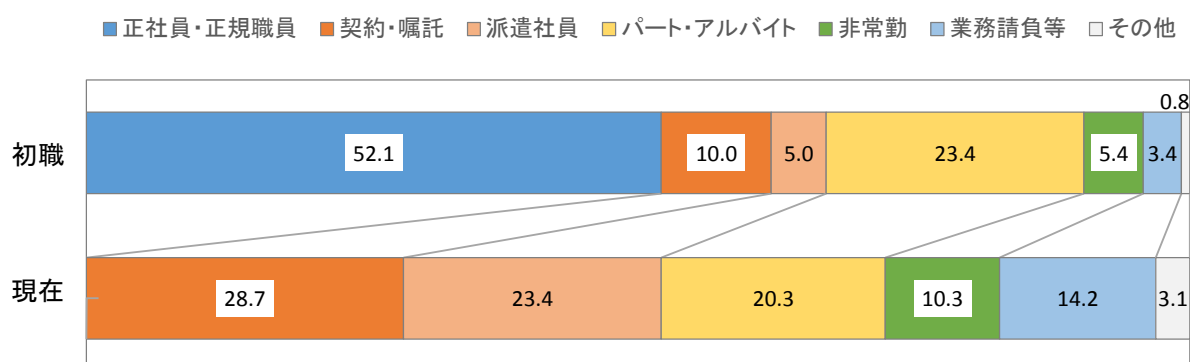
上段：人 下段：%		合計	Q. 21 現在の就業形態（SA）							
			契約・嘱託	派遣社員	パート・ アルバイト	非常勤	自営業 手伝い	業務請負	個人 事業主	その他
全体		261 100.0	75 28.7	61 23.4	53 20.3	27 10.3	0 0.0	13 5.0	24 9.2	8 3.1
年 齢	35～39歳	88 100.0	27 30.7	21 23.9	18 20.5	11 12.5	0 0.0	4 4.5	6 6.8	1 1.1
	40～44歳	79 100.0	23 29.1	20 25.3	16 20.3	4 5.1	0 0.0	2 2.5	10 12.7	4 5.1
	45～54歳	94 100.0	25 26.6	20 21.3	19 20.2	12 12.8	0 0.0	7 7.4	8 8.5	3 3.2
		中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	6 15.4	9 23.1	10 25.6	2 5.1	0 0.0	4 10.3	5 12.8
最 終 学 歴	短大・ 専門学校卒	83 100.0	24 28.9	21 25.3	21 25.3	5 6.0	0 0.0	5 6.0	5 6.0	2 2.4
	大学・ 大学院卒	139 100.0	45 32.4	31 22.3	22 15.8	20 14.4	0 0.0	4 2.9	14 10.1	3 2.2
	同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	37 27.2	28 20.6	34 25.0	14 10.3	0 0.0	3 2.2	15 11.0
一人暮らし		125 100.0	38 30.4	33 26.4	19 15.2	13 10.4	0 0.0	10 8.0	9 7.2	3 2.4
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	11 14.9	3 4.1	34 45.9	8 10.8	0 0.0	3 4.1	9 12.2	6 8.1
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	27 26.0	32 30.8	17 16.3	14 13.5	0 0.0	7 6.7	7 6.7	0 0.0
	250万円以上	83 100.0	37 44.6	26 31.3	2 2.4	5 6.0	0 0.0	3 3.6	8 9.6	2 2.4

第2章 ウェブアンケート調査の結果

初職の就業形態（Q. 19）と現在の就業形態（Q. 21）から働き方の移行パターンをみると、初職に正規職だった人の約3割が、現在「契約・嘱託」として働いており、「派遣社員」、「パート・アルバイト」が各2割ずつとなっている。「パート・アルバイト」だった人は、約3分の2が、「契約・嘱託」、「派遣社員」など他の働き方に移行している。「業務請負等」と「派遣社員」は、比較的他の働き方への移行者が少ない。

【就業形態－初職と現職の比較－（再集計）】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	現在の就業形態					
			契約・嘱託	派遣社員	パート・アルバイト	非常勤	業務請負等	その他
全体		261 100.0	75 28.7	61 23.4	53 20.3	27 10.3	37 14.2	8 3.1
初職の就業形態	正規職	136 100.0	40 29.4	35 25.7	24 17.6	16 11.8	17 12.5	4 2.9
	契約・嘱託	26 100.0	15 57.7	3 11.5	2 7.7	2 7.7	3 11.5	1 3.8
	派遣社員	13 100.0	2 15.4	8 61.5	3 23.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	パート・アルバイト	61 100.0	14 23.0	12 19.7	21 34.4	2 3.3	9 14.8	3 4.9
	非常勤	14 100.0	3 21.4	2 14.3	1 7.1	7 50.0	1 7.1	0 0.0
	業務請負等	9 100.0	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	6 66.7	0 0.0
	その他	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0

※「業務請負等」には、自営業手伝い・業務請負・個人事業主を含む。

「その他」には、その時点で無業の状態の人を含む。

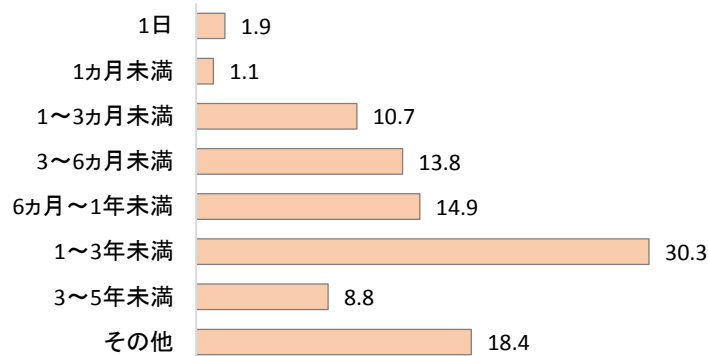
② 現職の契約期間

Q. 22 現在のあなたの仕事の、雇用契約の期間は、以下のどれにあてはまりますか。
複数の仕事をしている人は、メインの仕事についてお答えください。

現在の仕事の契約期間は、1年未満が4割超で、「1～3年未満」が3割、「3～5年未満」が約1割となっている。「その他」（期間が決まっていないなど）も約2割みられる。

◆Q. 22 現職の契約期間（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q. 22 現職の契約期間（SA）							
			1日	1ヵ月未満	1～3ヵ月未満	3～6ヵ月未満	6ヵ月～1年未満	1～3年未満	3～5年未満	その他
全体		261 100.0	5 1.9	3 1.1	28 10.7	36 13.8	39 14.9	79 30.3	23 8.8	48 18.4
年齢	35～39歳	88 100.0	1 1.1	0 0.0	11 12.5	12 13.6	12 13.6	28 31.8	10 11.4	14 15.9
	40～44歳	79 100.0	1 1.3	0 0.0	8 10.1	14 17.7	14 17.7	18 22.8	8 10.1	16 20.3
	45～54歳	94 100.0	3 3.2	3 3.2	9 9.6	10 10.6	13 13.8	33 35.1	5 5.3	18 19.1
	55～59歳	94 100.0	3 3.2	3 3.2	9 9.6	10 10.6	13 13.8	33 35.1	5 5.3	18 19.1
最終学歴	中卒・高卒・高卒相当	39 100.0	2 5.1	1 2.6	1 2.6	11 28.2	6 15.4	6 15.4	2 5.1	10 25.6
	短大・専門学校卒	83 100.0	2 2.4	0 0.0	13 15.7	9 10.8	12 14.5	18 21.7	13 15.7	16 19.3
	大学・大学院卒	139 100.0	1 0.7	2 1.4	14 10.1	16 11.5	21 15.1	55 39.6	8 5.8	22 15.8
	大学院卒	139 100.0	1 0.7	2 1.4	14 10.1	16 11.5	21 15.1	55 39.6	8 5.8	22 15.8
同居状況	同居者あり	136 100.0	2 1.5	2 1.5	15 11.0	15 11.0	18 13.2	43 31.6	15 11.0	26 19.1
	一人暮らし	125 100.0	3 2.4	1 0.8	13 10.4	21 16.8	21 16.8	36 28.8	8 6.4	22 17.6
自身の税込年収	150万円未満	74 100.0	3 4.1	2 2.7	10 13.5	6 8.1	8 10.8	17 23.0	8 10.8	20 27.0
	150万円以上250万円未満	104 100.0	2 1.9	1 1.0	10 9.6	15 14.4	17 16.3	38 36.5	8 7.7	13 12.5
	250万円以上	83 100.0	0 0.0	0 0.0	8 9.6	15 18.1	14 16.9	24 28.9	7 8.4	15 18.1
	250万円以上	83 100.0	0 0.0	0 0.0	8 9.6	15 18.1	14 16.9	24 28.9	7 8.4	15 18.1
就業形態	契約・嘱託	75 100.0	0 0.0	0 0.0	4 5.3	6 8.0	16 21.3	31 41.3	10 13.3	8 10.7
	派遣社員	61 100.0	0 0.0	1 1.6	15 24.6	23 37.7	5 8.2	13 21.3	3 4.9	1 1.6
	パート・アルバイト	53 100.0	0 0.0	1 1.9	6 11.3	4 7.5	9 17.0	18 34.0	3 5.7	12 22.6
	非常勤	27 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.7	1 3.7	5 18.5	14 51.9	4 14.8	2 7.4
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	0 0.0	1 2.7	2 5.4	3 8.1	3 8.1	3 8.1	20 54.1
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	0 0.0	1 2.7	2 5.4	3 8.1	3 8.1	3 8.1	20 54.1

第2章 ウェブアンケート調査の結果

③ 現在の職種

Q. 23 現在のあなたの仕事の職種は、以下のどれにあてはまりますか。
複数の仕事をしている人は、メインの仕事についてお答えください。

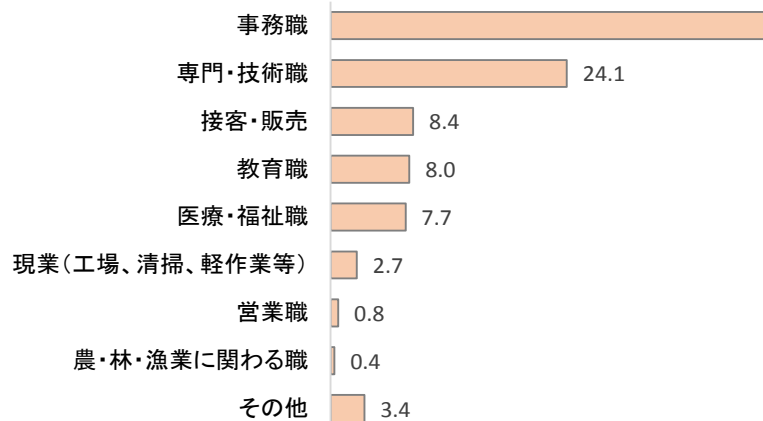
現在の職種は、「事務職」が44.4%と最も多く、「専門・技術職」が24.1%でこれに次いでいる。

属性別にみると、「業務請負等」では約6割が「専門・技術職」、「非常勤」では約5割が「教育職」である。「パート・アルバイト」では「接客・販売」が3割と、他の働き方に比べて多くなっている。

◆Q. 23 現在の職種（SA）【値の高い順】

n=261

(単位：%)

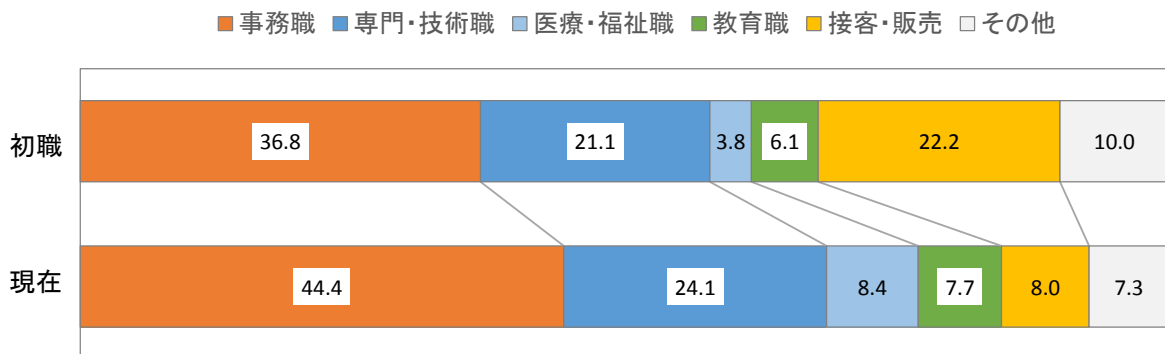


上段：人 下段：%		合計	Q. 23 現在の職種（SA）								
			事務職	営業職	専門・ 技術職	医療・ 福祉職	教育職	接客・販売	現業(工場、清 掃、軽作業等)	農・林・漁業 に関わる職	その他
全体		261 100.0	116 44.4	2 0.8	63 24.1	22 8.4	20 7.7	21 8.0	7 2.7	1 0.4	9 3.4
年 齢	35～39歳	88 100.0	41 46.6	0 0.0	20 22.7	7 8.0	8 9.1	6 6.8	3 3.4	1 1.1	2 2.3
	40～44歳	79 100.0	33 41.8	1 1.3	21 26.6	6 7.6	3 3.8	8 10.1	3 3.8	0 0.0	4 5.1
	45～54歳	94 100.0	42 44.7	1 1.1	22 23.4	9 9.6	9 9.6	7 7.4	1 1.1	0 0.0	3 3.2
	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	17 43.6	1 2.6	9 23.1	4 10.3	0 0.0	4 10.3	3 7.7	0 0.0	1 2.6
最 終 学 歴	短大・ 専門学校卒	83 100.0	42 50.6	0 0.0	17 20.5	7 8.4	2 2.4	9 10.8	2 2.4	1 1.2	3 3.6
	大学・ 大学院卒	139 100.0	57 41.0	1 0.7	37 26.6	11 7.9	18 12.9	8 5.8	2 1.4	0 0.0	5 3.6
	同居者あり	136 100.0	64 47.1	0 0.0	27 19.9	11 8.1	9 6.6	12 8.8	7 5.1	0 0.0	6 4.4
同 居 状 況	一人暮らし	125 100.0	52 41.6	2 1.6	36 28.8	11 8.8	11 8.8	9 7.2	0 0.0	1 0.8	3 2.4
	自身の 税込年 収	74 100.0	23 31.1	0 0.0	10 13.5	7 9.5	6 8.1	15 20.3	4 5.4	1 1.4	8 10.8
150万円以上 250万円未満	104 100.0	51 49.0	2 1.9	23 22.1	8 7.7	10 9.6	6 5.8	3 2.9	0 0.0	1 1.0	
	250万円以上	83 100.0	42 50.6	0 0.0	30 36.1	7 8.4	4 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	契約・嘱託	75 100.0	44 58.7	1 1.3	16 21.3	8 10.7	3 4.0	3 4.0	0 0.0	0 0.0	
就 業 形 態	派遣社員	61 100.0	42 68.9	0 0.0	18 29.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6	0 0.0	
	パート・ アルバイト	53 100.0	15 28.3	0 0.0	5 9.4	8 15.1	1 1.9	16 30.2	5 9.4	1 1.9	
	非常勤	27 100.0	7 25.9	0 0.0	2 7.4	5 18.5	13 48.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	1 2.7	22 59.5	1 2.7	3 8.1	2 5.4	1 2.7	0 0.0	

初職の職種（Q. 20）と現在の職種（Q. 23）から働き方の移行パターンをみると、「事務職」、「医療・福祉職」、「専門・技術職」は、他の職種からの移行が多く、「接客・販売」や「その他」（現業・営業等）は、他の職種への移行が多くなっており、全体的に専門性を身につけて働き方を変えようとする志向が高いことがうかがわれる。

【職種—初職と現職の比較—（再集計）】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	現在の職種					
			事務職	専門・技術職	医療・福祉職	教育職	接客・販売	その他
全体		261 100.0	116 44.4	63 24.1	22 8.4	20 7.7	21 8.0	19 7.3
初職の職種	事務職	96 100.0	62 64.6	11 11.5	6 6.3	4 4.2	5 5.2	8 8.3
	専門・技術職	55 100.0	12 21.8	33 60.0	3 5.5	1 1.8	2 3.6	4 7.3
	医療・福祉職	10 100.0	1 10.0	2 20.0	5 50.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0
	教育職	16 100.0	3 18.8	3 18.8	0 0.0	10 62.5	0 0.0	0 0.0
	接客・販売	58 100.0	31 53.4	7 12.1	6 10.3	3 5.2	10 17.2	1 1.7
	その他	26 100.0	7 26.9	7 26.9	2 7.7	1 3.8	3 11.5	6 23.1

※「その他」には、営業、現業（工場、清掃、軽作業等）、農・林・漁業に関わる職も含む。

④ 仕事のかけもち

Q.24 あなたは現在、複数の仕事をかけもちしていますか。

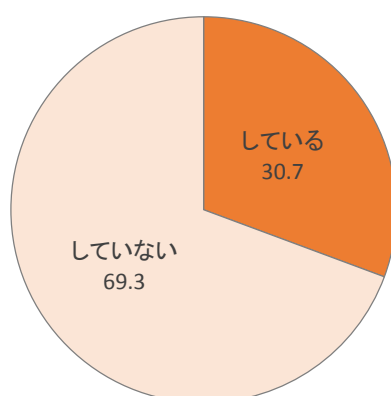
仕事のかけもちを「している」と答えた人は、3割となっている。

属性別にみると、年齢が高いほど、自身の年収が高いほど、同居状況別には「一人暮らし」で、かけもちをしている人の比率が高くなっている。

就業形態別にみると、「非常勤」の6割、「業務請負等」の4割以上が、仕事のかけもちをしていると答えている。

◆Q.24 仕事のかけもち（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.24 仕事のかけもち（SA）	
			している	していない
全体		261 100.0	80 30.7	181 69.3
年 齢	35～39歳	88 100.0	21 23.9	67 76.1
	40～44歳	79 100.0	22 27.8	57 72.2
	45～54歳	94 100.0	37 39.4	57 60.6
最 終 学 歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	12 30.8	27 69.2
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	19 22.9	64 77.1
	大学・ 大学院卒	139 100.0	49 35.3	90 64.7
同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	32 23.5	104 76.5
	一人暮らし	125 100.0	48 38.4	77 61.6
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	21 28.4	53 71.6
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	32 30.8	72 69.2
	250万円以上	83 100.0	27 32.5	56 67.5
就 業 形 態	契約・嘱託	75 100.0	14 18.7	61 81.3
	派遣社員	61 100.0	15 24.6	46 75.4
	パート・ アルバイト	53 100.0	17 32.1	36 67.9
	非常勤	27 100.0	16 59.3	11 40.7
	業務請負等	37 100.0	16 43.2	21 56.8

⑤ 週当たり労働時間

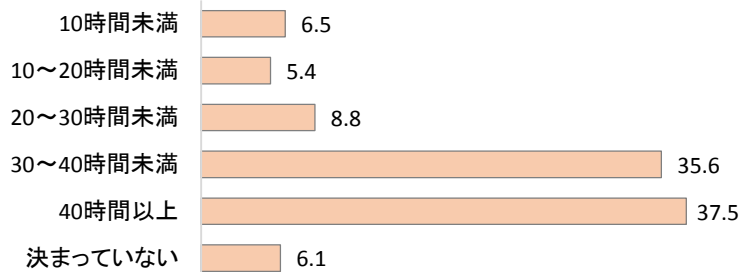
Q. 25 あなたの1週間あたりの実労働時間は、どれくらいですか。
複数の仕事をしている人は、合計した時間をお答えください。

1週間の実労働時間は、「40時間以上」が37.5%、「30～40時間未満」が35.6%と、7割以上の人が週30時間以上仕事をしている（仕事をかけもちしている場合は合計時間を回答）。

属性別にみると、年齢が高いほど、学歴が高いほど、年収が高いほど、また、同居状況別には「一人暮らし」で、「40時間以上」の比率が高くなっている。とくに、年収「250万円以上」および「契約・嘱託」の人の過半数が「40時間以上」仕事をしている。年収「150万円未満」および「パート・アルバイト」では、「30～40時間未満」に次いで「20～30時間未満」の比率が高くなっている。

◆Q. 25 週当たり労働時間（SA）

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q. 25 週当たり労働時間（SA）					
			10時間 未満	10～20時間 未満	20～30時間 未満	30～40時間 未満	40時間 以上	決まっ ていない
全体		261 100.0	17 6.5	14 5.4	23 8.8	93 35.6	98 37.5	16 6.1
年 齢	35～39歳	88 100.0	5 5.7	3 3.4	10 11.4	34 38.6	31 35.2	5 5.7
	40～44歳	79 100.0	6 7.6	3 3.8	5 6.3	31 39.2	28 35.4	6 7.6
	45～54歳	94 100.0	6 6.4	8 8.5	8 8.5	28 29.8	39 41.5	5 5.3
最 終 学 歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	4 10.3	3 7.7	5 12.8	9 23.1	14 35.9	4 10.3
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	6 7.2	5 6.0	8 9.6	30 36.1	31 37.3	3 3.6
	大学・ 大学院卒	139 100.0	7 5.0	6 4.3	10 7.2	54 38.8	53 38.1	9 6.5
同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	11 8.1	10 7.4	12 8.8	53 39.0	42 30.9	8 5.9
	一人暮らし	125 100.0	6 4.8	4 3.2	11 8.8	40 32.0	56 44.8	8 6.4
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	11 14.9	11 14.9	15 20.3	18 24.3	8 10.8	11 14.9
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	4 3.8	2 1.9	7 6.7	50 48.1	37 35.6	4 3.8
	250万円以上	83 100.0	2 2.4	1 1.2	1 1.2	25 30.1	53 63.9	1 1.2
就 業 形 態	契約・嘱託	75 100.0	0 0.0	2 2.7	2 2.7	29 38.7	42 56.0	0 0.0
	派遣社員	61 100.0	1 1.6	1 1.6	2 3.3	28 45.9	29 47.5	0 0.0
	パート・ アルバイト	53 100.0	6 11.3	5 9.4	13 24.5	16 30.2	8 15.1	5 9.4
	非常勤	27 100.0	1 3.7	3 11.1	4 14.8	13 48.1	5 18.5	1 3.7
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	3 8.1	2 5.4	6 16.2	13 35.1	8 21.6

(3) 仕事の悩みや不安

① 利用した支援機関

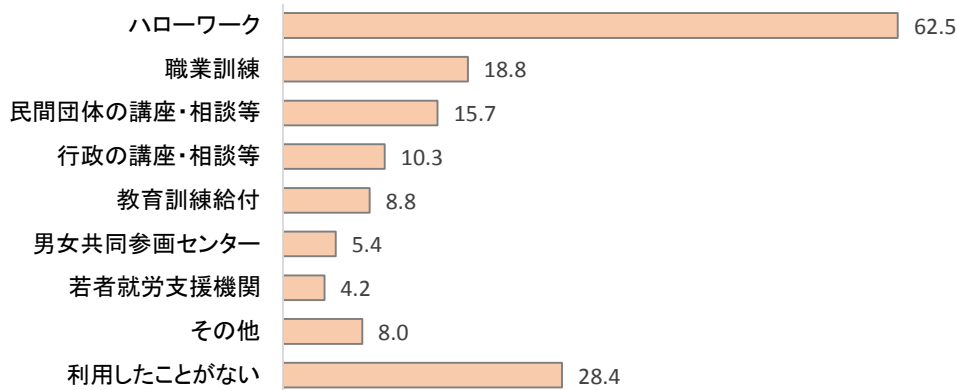
Q.26 就業に際して、これまでに利用した支援機関はなんですか。いくつでもお答えください。

就業に際してこれまでに利用した支援機関としては、62.5%が「ハローワーク」をあげ、その他「職業訓練」、民間団体や行政の講座・相談など多様にみられる（利用したことの人の平均選択数 1.87 項目）。一方で、「利用したことがない」人も 28.4%と 3 割近くみられる。

属性別にみると、学歴が高いほど、年収が高いほど、また、同居状況別には「一人暮らし」で、「利用したことがない」人の比率が高くなっている。

◆Q.26 利用した支援機関（MA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.26 就業について利用した支援機関（MA）								
			職業訓練	教育訓練 給付	行政の講座・ 相談等	民間団体の 講座・相談等	ハローワー ク	男女共同参 画センター	若者就労 支援機関	利用したこ とがない	その他
全体		261 100.0	49 18.8	23 8.8	27 10.3	41 15.7	163 62.5	14 5.4	11 4.2	74 28.4	21 8.0
年齢	35～39歳	88 100.0	17 19.3	6 6.8	7 8.0	15 17.0	50 56.8	5 5.7	7 8.0	28 31.8	6 6.8
	40～44歳	79 100.0	16 20.3	8 10.1	7 8.9	13 16.5	51 64.6	3 3.8	2 2.5	19 24.1	8 10.1
	45～54歳	94 100.0	16 17.0	9 9.6	13 13.8	13 13.8	62 66.0	6 6.4	2 2.1	27 28.7	7 7.4
	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	11 28.2	4 10.3	3 7.7	8 20.5	27 69.2	0 0.0	2 5.1	10 25.6	2 5.1
最終学歴	短大・ 専門学校卒	83 100.0	18 21.7	11 13.3	7 8.4	9 10.8	54 65.1	7 8.4	2 2.4	21 25.3	7 8.4
	大学・ 大学院卒	139 100.0	20 14.4	8 5.8	17 12.2	24 17.3	82 59.0	7 5.0	7 5.0	43 30.9	12 8.6
	同居者あり	136 100.0	22 16.2	6 4.4	17 12.5	22 16.2	91 66.9	11 8.1	7 5.1	33 24.3	15 11.0
	一人暮らし	125 100.0	27 21.6	17 13.6	10 8.0	19 15.2	72 57.6	3 2.4	4 3.2	41 32.8	6 4.8
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	17 23.0	5 6.8	9 12.2	8 10.8	49 66.2	8 10.8	6 8.1	20 27.0	9 12.2
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	20 19.2	12 11.5	12 11.5	22 21.2	71 68.3	3 2.9	4 3.8	22 21.2	7 6.7
	250万円以上	83 100.0	12 14.5	6 7.2	6 7.2	11 13.3	43 51.8	3 3.6	1 1.2	32 38.6	5 6.0
	契約・嘱託	75 100.0	15 20.0	8 10.7	6 8.0	13 17.3	49 65.3	4 5.3	2 2.7	19 25.3	11 14.7
就業 形態	派遣社員	61 100.0	9 14.8	7 11.5	7 11.5	6 9.8	38 62.3	1 1.6	1 1.6	18 29.5	1 1.6
	パート・ アルバイト	53 100.0	15 28.3	5 9.4	11 20.8	10 18.9	39 73.6	6 11.3	6 11.3	10 18.9	5 9.4
	非常勤	27 100.0	3 11.1	0 0.0	0 0.0	5 18.5	14 51.9	1 3.7	2 7.4	10 37.0	1 3.7
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	3 8.1	1 2.7	4 10.8	15 40.5	2 5.4	0 0.0	17 45.9	1 2.7

② 非正規職についている理由

Q. 27 あなたが非正規職についている理由はなんですか。あてはまるものを、いくつでもお答えください。

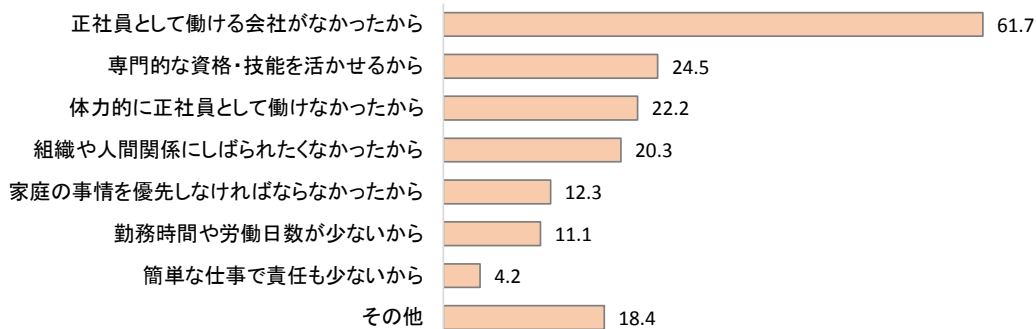
非正規職である理由としては、「正社員として働ける会社がなかったから」が 61.7%と最も多く、次いで「専門的な資格・技能を活かせるから」24.5%、「体力的に正社員として働けなかったから」22.2%、「組織や人間関係にしばられたくなかったから」20.3%などがみられる（全回答者の平均選択数 1.75 項目）。

「契約・嘱託」、「派遣社員」では7割以上が「正社員として働ける会社がなかったから」を、「業務請負等」の5割以上、「非常勤」の4割近くが「専門的な資格・技能を活かせるから」をあげた。「パート・アルバイト」および年収「150 万円未満」では、「正社員として働ける会社がなかったから」に次いで、「体力的に正社員として働けなかったから」の比率が高くなっている。

◆Q. 27 非正規職についている理由（MA）【値の高い順】

n=261

(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q. 27 非正規職についている理由（MA）							
			正社員として 働ける会社が なかったから	家庭の事情を 優先しなければ ならなかったから	体力的に正社員 として働けな かったから	組織や人間関 係にしばられ たくなかった から	専門的な資 格・技能を活 かせるから	勤務時間や労働 日数が少ない から	簡単な仕事で 責任も少ない から	その他
全体		261 100.0	161 61.7	32 12.3	58 22.2	53 20.3	64 24.5	29 11.1	11 4.2	48 18.4
年齢	35～39歳	88 100.0	53 60.2	4 4.5	22 25.0	18 20.5	16 18.2	8 9.1	6 6.8	19 21.6
	40～44歳	79 100.0	47 59.5	10 12.7	17 21.5	17 21.5	19 24.1	10 12.7	4 5.1	15 19.0
	45～54歳	94 100.0	61 64.9	18 19.1	19 20.2	18 19.1	29 30.9	11 11.7	1 1.1	14 14.9
	55～59歳	94 100.0	61 64.9	18 19.1	19 20.2	18 19.1	29 30.9	11 11.7	1 1.1	14 14.9
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	23 59.0	6 15.4	10 25.6	10 25.6	6 15.4	7 17.9	3 7.7	8 20.5
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	50 60.2	13 15.7	20 24.1	17 20.5	15 18.1	8 9.6	1 1.2	14 16.9
	大学・ 大学院卒	139 100.0	88 63.3	13 9.4	28 20.1	26 18.7	43 30.9	14 10.1	7 5.0	26 18.7
	その他	139 100.0	88 63.3	13 9.4	28 20.1	26 18.7	43 30.9	14 10.1	7 5.0	26 18.7
同居状況	同居者あり	136 100.0	85 62.5	18 13.2	36 26.5	24 17.6	27 19.9	15 11.0	4 2.9	24 17.6
	一人暮らし	125 100.0	76 60.8	14 11.2	22 17.6	29 23.2	37 29.6	14 11.2	7 5.6	24 19.2
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	41 55.4	21 28.4	29 39.2	13 17.6	12 16.2	13 17.6	2 2.7	14 18.9
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	63 60.6	8 7.7	21 20.2	22 21.2	24 23.1	9 8.7	5 4.8	22 21.2
	250万円以上	83 100.0	57 68.7	3 3.6	8 9.6	18 21.7	28 33.7	7 8.4	4 4.8	12 14.5
	その他	83 100.0	57 68.7	3 3.6	8 9.6	18 21.7	28 33.7	7 8.4	4 4.8	12 14.5
就業 形態	契約・嘱託	75 100.0	54 72.0	6 8.0	5 6.7	4 5.3	19 25.3	5 6.7	0 0.0	13 17.3
	派遣社員	61 100.0	45 73.8	5 8.2	6 9.8	17 27.9	10 16.4	5 8.2	7 11.5	8 13.1
	パート・ アルバイト	53 100.0	29 54.7	12 22.6	28 52.8	15 28.3	4 7.5	12 22.6	4 7.5	9 17.0
	非常勤	27 100.0	16 59.3	3 11.1	7 25.9	1 3.7	10 37.0	2 7.4	0 0.0	5 18.5
	業務請負等	37 100.0	11 29.7	5 13.5	8 21.6	15 40.5	20 54.1	5 13.5	0 0.0	12 32.4
	その他	37 100.0	11 29.7	5 13.5	8 21.6	15 40.5	20 54.1	5 13.5	0 0.0	12 32.4

③ 仕事に関する悩みや不安

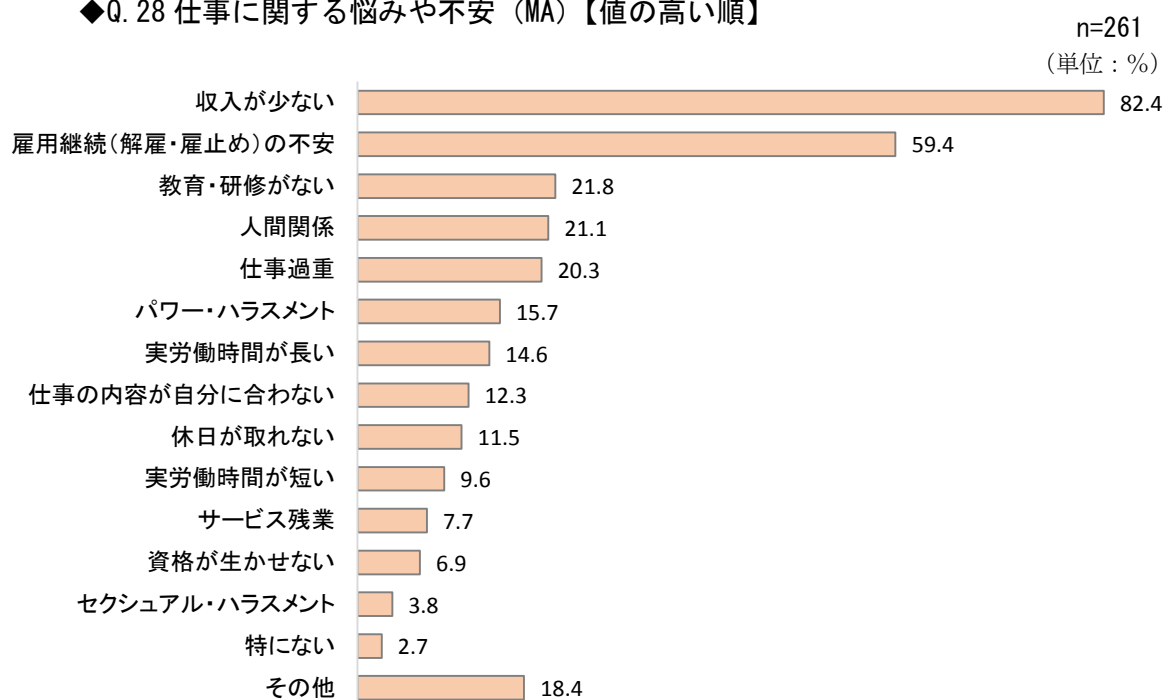
Q.28 あなたが現在感じている、仕事に関する悩みや不安はなんですか。
あてはまるものを、いくつでもお答えください。

現在の仕事に関する悩みや不安としては、「収入が少ない」を82.4%と8割以上があげ、「雇用継続（解雇・雇止め）の不安」も59.4%と約6割があげた。この他「教育・研修がない」、「人間関係」、「仕事過重」など多様な項目があげられている（全回答者の平均選択数3.08項目）。

「収入が少ない」は、「パート・アルバイト」および年収「150万円未満」でとくに高率となっている。「雇用継続の不安」は、「派遣社員」でとくに高く、「契約・嘱託」でも高くなっている。また、「パート・アルバイト」では「人間関係」、「契約・嘱託」では「仕事過重」をあげた人の比率がやや高くなっていることも注目される。

なお、「その他」の記述内容としては、「立場の割に仕事がきつい」、「ノルマがきつい」、「福利厚生がない」、「退職金がない」、「職場が遠い」など、職場の環境・待遇の面で不公平感や負担感が生じているケースが多くみられる。

◆Q.28 仕事に関する悩みや不安（MA）【値の高い順】



第2章 ウェブアンケート調査の結果

上段：人 下段：%		合計	Q.28 仕事に関する悩みや不安 (MA)														
			雇用継続 (解雇・雇 止め)の不安	収入が少 ない	人間関係	セクシュ アル・ハラ スメント	パワー・ ハラスメ ント	実労働時 間が長い	実労働時 間が短い	休日が取 れない	サービス 残業	仕事過重	教育・研 修がない	資格が生 かせない	仕事の内 容が自分 に合わない	特にない	その他
全体		261 100.0	155 59.4	215 82.4	55 21.1	10 3.8	41 15.7	38 14.6	25 9.6	30 11.5	20 7.7	53 20.3	57 21.8	18 6.9	32 12.3	7 2.7	48 18.4
年齢	35～39歳	88 100.0	54 61.4	73 83.0	22 25.0	3 3.4	7 8.0	14 15.9	10 11.4	7 8.0	9 10.2	18 20.5	20 22.7	5 5.7	13 14.8	4 4.5	10 11.4
	40～44歳	79 100.0	45 57.0	64 81.0	14 17.7	2 2.5	12 15.2	11 13.9	5 6.3	10 12.7	5 6.3	15 19.0	14 17.7	6 7.6	5 6.3	2 2.5	17 21.5
	45～54歳	94 100.0	56 59.6	78 83.0	19 20.2	5 5.3	22 23.4	13 13.8	10 10.6	13 13.8	6 6.4	20 21.3	23 24.5	7 7.4	14 14.9	1 1.1	21 22.3
最終 学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	24 61.5	31 79.5	9 23.1	1 2.6	5 12.8	4 10.3	6 15.4	3 7.7	5 12.8	6 15.4	7 17.9	6 15.4	4 10.3	2 5.1	5 12.8
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	44 53.0	66 79.5	18 21.7	5 6.0	19 22.9	15 18.1	8 9.6	13 15.7	6 7.2	15 18.1	19 22.9	5 6.0	10 12.0	5 6.0	10 12.0
	大学・ 大学院卒	139 100.0	87 62.6	118 84.9	28 20.1	4 2.9	17 12.2	19 13.7	11 7.9	14 10.1	9 6.5	32 23.0	31 22.3	7 5.0	18 12.9	0 0.0	33 23.7
	同居者あり	136 100.0	80 58.8	113 83.1	31 22.8	5 3.7	18 13.2	11 8.1	13 9.6	11 8.1	10 7.4	28 20.6	32 23.5	7 5.1	20 14.7	5 3.7	33 24.3
同居 状況	一人暮らし	125 100.0	75 60.0	102 81.6	24 19.2	5 4.0	23 18.4	27 21.6	12 9.6	19 15.2	10 8.0	25 20.0	25 20.0	11 8.8	12 9.6	2 1.6	15 12.0
	自身の 税込年 収	74 100.0	31 41.9	64 86.5	16 21.6	2 2.7	11 14.9	5 6.8	15 20.3	5 6.8	7 9.5	10 13.5	18 24.3	7 9.5	14 18.9	2 2.7	14 18.9
就業 形態	150万円未満	104 100.0	72 69.2	94 90.4	27 26.0	6 5.8	19 18.3	16 15.4	6 5.8	16 15.4	7 6.7	21 20.2	27 26.0	8 7.7	11 10.6	0 0.0	19 18.3
	150万円以上 250万円未満	83 100.0	52 62.7	57 68.7	12 14.5	2 2.4	11 13.3	17 20.5	4 4.8	9 10.8	6 7.2	22 26.5	12 14.5	3 3.6	7 8.4	5 6.0	15 18.1
	250万円以上	75 100.0	52 69.3	60 80.0	18 24.0	1 1.3	14 18.7	19 25.3	1 1.3	11 14.7	13 17.3	21 28.0	12 16.0	6 8.0	9 12.0	1 1.3	13 17.3
	契約・嘱託	61 100.0	47 77.0	44 72.1	10 16.4	4 6.6	9 14.8	7 11.5	7 11.5	3 4.9	0 0.0	12 19.7	20 32.8	2 3.3	9 14.8	1 1.6	5 8.2
	派遣社員	53 100.0	27 50.9	49 92.5	19 35.8	1 1.9	11 20.8	4 7.5	13 24.5	8 15.1	5 9.4	9 17.0	18 34.0	5 9.4	11 20.8	1 1.9	15 28.3
	パート・ アルバイト	27 100.0	16 59.3	23 85.2	1 3.7	1 3.7	1 3.7	2 7.4	1 3.7	0 0.0	0 0.0	6 22.2	3 11.1	2 7.4	0 0.0	2 7.4	3 11.1
非常勤	非常勤	37 100.0	8 21.6	33 89.2	6 16.2	1 2.7	2 5.4	6 16.2	2 5.4	7 18.9	1 2.7	5 13.5	3 8.1	2 5.4	2 5.4	2 5.4	10 27.0
	業務請負等																

④ 仕事の悩みや不安の内容

Q. 29 Q. 28 の中で、とくに悩んだり、不安に感じていることはどのようなことですか。
よろしければ具体的にお書きください。(400 字以内)

この設問に対しては、209 人（261 人中の 80.1%）が何らかの内容を記述した。アンケート回答者数は「契約・嘱託」が最多であるが、この設問への回答件数は「派遣社員」が最も多くなっていることが注目される。

ここでは、記述内容を回答者の就業形態別に整理、抜粋した。

《派遣社員》（60 件） ----- 「就業継続の不安」「孤立」「交通費なし」など

- 次を探す間は収入がなくて大変。40 代以上でも正社員として働ける機会を増やしてほしい。または派遣社員でも、安心して働き続けることができるシステムをつくってほしい。(36 歳)
- 病気になったら契約を切られ、収入がなくなってしまうのが不安。収入が少ないため、貯蓄もできない。(37 歳)
- 残業不可なため収入が少ない。かけもちでバイトしているが、マイナンバー提示でできなくなるかと不安。(37 歳)
- 部署内の歓送迎会など交流の場にこの 3 年間一度も呼ばれない。雑談がしづらく、日々の悩みを話す場がない。(39 歳)
- 研修もない、セミナーや会議にも参加できない、出張もないので外の人と接する機会がない。(40 歳)
- 派遣法改正でこの先どうなるかわからない。(41 歳)
- 今の派遣期間が終わったら次があるか不安。(42 歳)
- そのうち契約社員にと言われた会社で派遣社員をして 5 年になるが、契約社員にしてもらえない。収入は新卒の頃程度で、実家にいないとやっていけない。転職活動しても、年齢のため書類も通らない。同時に婚活もしているがうまくいかず。近い将来すら不安で、未来のことは恐ろしくて考えられない。(43 歳)
- 職場が遠いが、交通費が出ない。(44 歳)
- 20 年近くずっと派遣社員なので、派遣先の社員が受けるような研修を受ける機会がなく、自分でつくらなければならない。先の保証がなく、不安。(46 歳)
- 技術さえあればと考えて習得に努力してきたが、無駄になったようで悲観している。(47 歳)
- (2015 年秋の派遣法改正により) 専門 26 業種の派遣に 3 年の上限ができてしまった。現在の職場を 3 年後に辞めなければならず、困っている。(49 歳)
- ローンや生活費のための借金があり、毎月どう返済するかが悩み。(48 歳)
- 正規雇用ならある程度会社で負担してくれる部分があるが、非正規雇用だと交通費すら自己負担。リスクをとっているのに、給与にはリスクプレミアムがない。同一労働同一賃金では足りない。リスクに応じたプレミアムが付くべき。(48 歳)
- 体力をとんでも使うので、いずれ体力的に無理になるし、足腰を痛めたら仕事ができなくなる。資格がないので、からだを壊したら終わりなのが不安。(50 歳)

《契約・嘱託社員》(54件) -----
「正社員との格差・低収入」「収入に見合わない責任の重さ」など

- 時給が低すぎて、社食の値段が高いので毎日の利用すらできない。(35歳)
- 契約更新されるかいつも不安。退職金もなく契約を切られて放り出されると、とたんに生活できなくなる。(36歳)
- 結婚＝失業の現実。結婚したら非正規女子は辞めるのがあたりまえとされている。「子ども生むならやめないとね」と上司。(37歳)
- 労働時間が長く、自分の時間がない。年収制なので残業代がつかない。深夜や休みの日でも上司から連絡が来る。(39歳)
- 責任のあるポジションで労働時間が長く、休養がとれない。慢性的な体調不良、自律神経失調。(39歳)
- 遠距離介護のため、休みをかためて取るようにしている。自分の休息のための休みがまったくない。休みたいなあ。(42歳)
- 外資なので、日本の景気が悪くなればすぐに撤退、部署の削減をしてしまう。(42歳)
- もっと仕事を任されるポジションで働きたい。外資系に転職して年収を倍にしたい。スキルになる仕事は自分から申し出て回してもらっている。(43歳)
- 売上が少なかったからと給料が下がった。よいときには上がらず、悪いと下がる。10年働いてやっと2年前に契約社員になれたが、有給休暇、残業代、健康診断などが無い。(44歳)
- 就業場所により収入が変わるので、年数が長くても異動により収入が減ることもある。資格を取っても収入に反映されないのがつらい。(44歳)
- 行政からの委託の仕事。予算の都合で仕事の有無が決まるので年度末は生きた心地がしない。(45歳)
- 介護職なので体力がもちそうにない。50歳になったら、今より安い仕事しかないだろうな。(46歳)
- 契約だからという理由で昇級も昇格も賞与もない。正社員の半分ぐらいの給料。主たる稼ぎ手が家族にいる人をイメージして給料が決められている。この給料で自立して生活する想定がされていない。生活できるレベルの仕事につきたい。(47歳)
- 収入が増えない。生活にゆとりがない。うつになりそう。老後が不安。自殺したくなる気持ちがある。同じ仕事をしているのに社員は昇級もあり、福利厚生も充実。こんな差別は海外ではない。(47歳)
- 正規雇用と変わらず責任の重い業務を担当しているのに、低賃金で期限付き。高い社会保険料や税金を払っているのに、(子育て支援のように)何の支援も、評価もない。契約終了後にまた仕事が見つかるかわからない。どうしたらよいのか……。 (48歳)
- 給料は変わらず、仕事が増えていく。(49歳)
- NPOで働いている。事務局は自分一人で実務の山。やりがいはあるが組織全体が自転車操業で毎年、来年存続しているのかわからない。(50歳)
- できる前提で採用されるので、入職後にほとんど教育がされない。(51歳)

《パート・アルバイト》(43件)-----
「時給が安すぎ、生活できず」「通院費出せず」「くたくた」など

- 月に22日出勤しても手取り10万程度。時給がとにかく低すぎる。(35歳)
- 人手不足で負担が増えている。(37歳)
- もっと働きたいのに、会社からは、人件費節約のために労働時間を短くすると言われる。(38歳)
- 飲食関係。閉店作業が時間内に終わらず、早く帰れと言われるが食中毒や異物混入などあったらと怖く、サービス残業というより自主的に残って働くかたちでつらい。(39歳)
- 更新して雇用継続が最長5年。業務内容は正規職と同じかそれ以上を求められる。休みが取れない。研修の受講も認められず、福利厚生も不十分。(41歳)
- 立ち仕事なので疲れる。(41歳)
- 通院費用を捻出できず、家族の支援を受けている。(42歳)
- 持病があり働けるのは週4日。それも休みがちで収入が低い。(47歳)
- 苦手な部署に異動に。薬を服用して続けているが、ストレスによる過食がとまらない。(47歳)
- できるだけ自炊を心がけ、ストレスをためないように、健康に気をつけているが、肉体労働でもあり、身体をこわせば働けなくなり収入はなくなる。なにかあっても病院には行けないだろう。(47歳)
- 障害者枠で就労。収入面で転職も考えているが、健康に不安があり、踏み出せない。(47歳)
- 介護職で時給850円では安い。上からの複数の指示の矛盾やパワハラ的な言葉。衛生面の不安もある。(48歳)
- 私は障害者。失業すると次の仕事を探すのが大変。(48歳)
- 企業の社員食堂でパート。無資格だと研修できる制度がない。夫の収入があるならいいが、親を亡くし、結婚もしていない私は、会社への不満と今後の生活への不安を持って生きている。(48歳)
- 介護が始まり、“後から介護生活に入ってくる人たち”へ何かを残しておきたいと思うようになった。そういうことを相談できる仲間がほしい。(50歳)
- アンケートは言葉が難しいが、調べる気力がない。別のパートを増やすか仕事を変えなくてはと思うが、くたくたで、休日は眠ってしまい、探す気力が出ない。あと3年ぐらいは生きられるか。(50歳)
- 今は母の年金と合わせて生活できているが、年金が途絶えたり、仕事がなくなったときのための蓄えはできていない。(51歳)
- 親の自宅介護のために選んだ個人商店(の職場)で、休みをとるのに気をつかう。仕事量が日によって時期によって違うため収入が不安定。他のバイトとかけもちでなんとかやっている。(53歳)

《業務請負等》（44 件） ----- 「かけもち」「持ち出し多い」「弱い立場」など

【非常勤講師】

- ケアの必要な身内がいる。自分の専門分野の公募はたまにしかない。運に任せるしかない。
(37 歳)
- 契約期間 5 年で雇止めの私立大学。2 年後には仕事を失う。(40 歳)
- 来年度仕事があるかどうか。(42 歳)
- 授業の時間単価は 3000 円弱だが、準備や片付け、テスト作成などは無給のため平均時給 800 円ぐらい。税金、社会保険、家賃、光熱費を払うとほとんど残らない。貯金を切り崩している。(42 歳)
- 勉強や研修のための費用がすべて自分持ちで出費がかさむ。(45 歳)
- 専門知識を活かせる仕事は少なく、複数をかけもちして生活している。(46 歳)
- 10 数年前と比べて給料は変わらず、書類仕事や仕事の管理化が進み、窮屈。10 コマはもたないと生活できないといわれるが、からだへの負担を考えて 5 コマしかもっていない。それでも研究との両立は難しく、研究面での支援もない。(47 歳)

【在宅ワーカー・フリーランス等】

- 注文を受けてから食品を加工する仕事。自分のペースでできるのはよいが利益が薄く、生産量に限りあるため、このまま続けていいのか不安。(35 歳)
- 完全出来高制。単価は円でなく銭の世界。収入増をめざすと時間過多になり、無理をしても時給制にはかなわない。(37 歳)
- 10 年以上も報酬は同じ。物価も、自分の技術力も上がっているのに値上げしてほしいと言えない。(39 歳)
- 出版業界。仕事が減り、単価が落ちて、30 年近く原稿料据え置き媒体もある。(41 歳)
- フリーランスは下請けなので足元を見られる。タイトすぎる案件でも断りにくい。物品費扱いのため、安い賃金から消費税も取られる。(43 歳)
- 介護中で、納期の責任ある仕事はこなせる状況になく、介護のすきまや夜間などにできる範囲で受注している。(49 歳)

《現在無職》（8 件） ----- 「雇止め」「パワハラ」「研修なし」など

- 秘書を長くしているが雇止めを受けて心が辛い。自活しなければならず、経済的に不安。
(40 歳)
- ひどいパワハラを受け、改善するどころか悪化するような状況に追い込まれた。その最中に契約更新があったが、(今回を最後に) 次回の更新はないという内容を含む書類で更新させられた。(40 歳)
- 行政の就労支援事業では職業（職種）についての概念が古く、偏りがあり、実際の市場の動向に疎すぎる。(44 歳)
- 正職員に応募して二度採用されたが、二度ともろくに研修をしてもらえず、試用期間中の退職となった。(49 歳)

4 今後に向けて

(1) 今後の希望

① 今後の希望

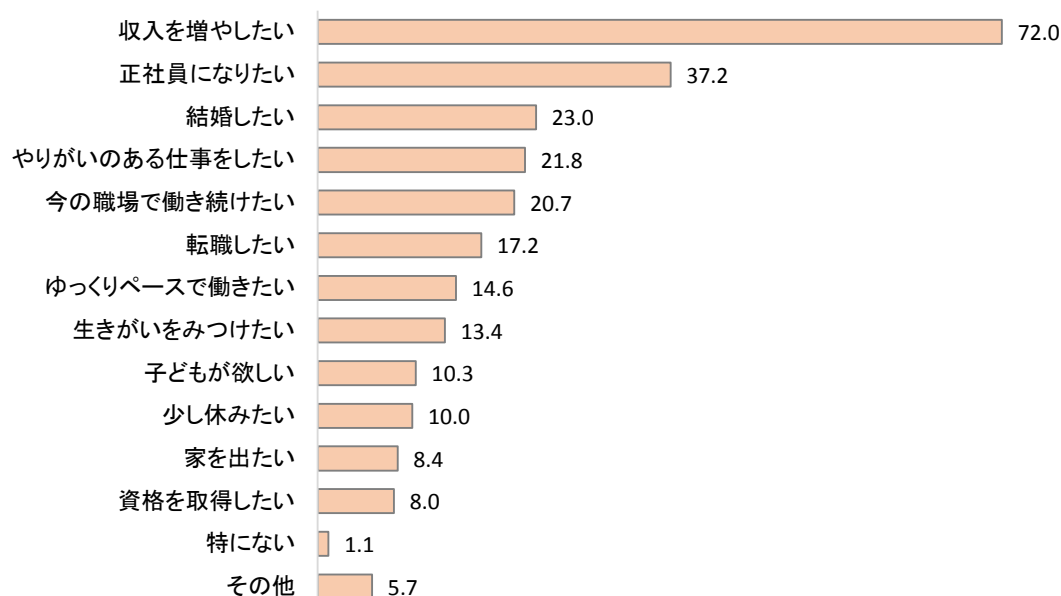
Q.30 あなたが今、望んでいることや、めざしたいことはなんですか。
あてはまるものを、3つまでお答えください。

今後の希望としては、「収入を増やしたい」が 72.0%で、どの就業形態、年代、年収区分においても最多となっている。「正社員になりたい」が 37.2%でこれに次ぎ、とくに「非常勤」で 55.6%、「契約・嘱託」で 49.3%と高率である。逆に「パート・アルバイト」では 22.6%と低率であることが目立つ。他にも「やりがいのある仕事をしたい」、「今の職場で働きたい」、「転職したい」など、仕事に関する項目が上位を占めるが、「パート・アルバイト」および年収「150万円未満」では、「ゆっくりペースで働きたい」との回答も2割強から3割みられる。自身や家族の健康課題、介護等フルタイム勤務が難しい事情が背景にあると考えられる。「結婚したい」は 23.0%、「生きがいをみつけない」は 13.4%、「子どもが欲しい」は 10.3%となっている（全回答者の平均選択数 2.64 項目）。

なお、「その他」の記述内容としては、「健康になりたい」、「人脈を広げたい」、「生活保護から抜けたい」、「自立したい」など、能動的な志向性が多く示されているとともに、「3年切りを撤廃してほしい」、「まともな待遇を得たい」、「退職金、住居手当がほしい」など、社会や企業の側の改善を求める声も多数みられた。

◆Q.30 今後の希望（MA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.30 今後の希望 (MA)													
			今の職場 で働き続 けたい	転職した い	正社員に なりたい	収入を増 やしたい	やりがい のある仕 事をした い	ゆつくり ペースで 働きたい	少し休み たい	生きがい をみつけ たい	結婚した い	子どもが 欲しい	家を出た い	資格を取 得したい	特にな い	その他
全体		261 100.0	54 20.7	45 17.2	97 37.2	188 72.0	57 21.8	38 14.6	26 10.0	35 13.4	60 23.0	27 10.3	22 8.4	21 8.0	3 1.1	15 5.7
年 齢	35～39歳	88 100.0	19 21.6	12 13.6	35 39.8	60 68.2	18 20.5	13 14.8	4 4.5	13 14.8	27 30.7	18 20.5	9 10.2	7 8.0	1 1.1	4 4.5
	40～44歳	79 100.0	14 17.7	16 20.3	29 36.7	58 73.4	15 19.0	12 15.2	5 6.3	10 12.7	17 21.5	8 10.1	6 7.6	7 8.9	0 0.0	6 7.6
	45～54歳	94 100.0	21 22.3	17 18.1	33 35.1	70 74.5	24 25.5	13 13.8	17 18.1	12 12.8	16 17.0	1 1.1	7 7.4	7 7.4	2 2.1	5 5.3
	最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当 短大・ 専門学校卒 大学・ 大学院卒	39 100.0 83 100.0 139 100.0	6 15.4 21 25.3 27 19.4	11 28.2 14 16.9 20 14.4	16 41.0 29 34.9 52 37.4	28 71.8 60 72.3 100 71.9	12 30.8 14 16.9 17 12.2	7 17.9 10 12.0 14 10.1	2 5.1 10 12.0 19 13.7	6 15.4 18 21.7 19 13.7	4 10.3 18 21.7 38 27.3	2 5.1 6 7.2 19 13.7	2 5.1 8 9.6 12 8.6	4 10.3 5 6.0 12 8.6	0 0.0 1.2 1.4
同 居 状 況	同居者あり	136 100.0	26 19.1	25 18.4	46 33.8	95 69.9	29 21.3	21 15.4	13 9.6	19 14.0	31 22.8	16 11.8	22 16.2	10 7.4	1 0.7	9 6.6
	一人暮らし	125 100.0	28 22.4	20 16.0	51 40.8	93 74.4	28 22.4	17 13.6	13 10.4	16 12.8	29 23.2	11 8.8	0 0.0	11 8.8	2 1.6	6 4.8
自 身 の 税 込 年 収	150万円未満	74 100.0	14 18.9	13 17.6	19 25.7	51 68.9	17 23.0	19 25.7	4 5.4	11 14.9	16 21.6	6 8.1	10 13.5	9 12.2	1 1.4	5 6.8
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	25 24.0	14 13.5	41 39.4	75 72.1	25 24.0	16 15.4	14 13.5	12 11.5	28 26.9	14 13.5	9 8.7	8 7.7	1 1.0	5 4.8
	250万円以上	83 100.0	15 18.1	18 21.7	37 44.6	62 74.7	15 18.1	3 3.6	8 9.6	12 14.5	16 19.3	7 8.4	3 3.6	4 4.8	1 1.2	5 6.0
	就業形態	契約・嘱託	75 100.0	21 28.0	20 26.7	37 49.3	55 73.3	11 14.7	4 5.3	6 8.0	6 8.0	23 30.7	8 10.7	6 8.0	4 5.3	0 0.0
就 業 形 態	派遣社員	61 100.0	13 21.3	10 16.4	24 39.3	42 68.9	15 24.6	10 16.4	6 9.8	10 16.4	16 26.2	5 8.2	1 1.6	4 6.6	0 0.0	5 8.2
	パート・ アルバイト	53 100.0	9 17.0	10 18.9	12 22.6	39 73.6	15 28.3	16 30.2	5 9.4	13 24.5	11 20.8	4 7.5	8 15.1	4 7.5	0 0.0	5 9.4
	非常勤	27 100.0	6 22.2	1 3.7	15 55.6	20 74.1	5 18.5	4 14.8	2 7.4	2 3.7	3 7.4	3 11.1	2 7.4	4 14.8	2 7.4	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	5 13.5	4 10.8	4 10.8	28 75.7	10 27.0	2 5.4	7 18.9	2 5.4	6 16.2	6 16.2	5 13.5	2 5.4	1 2.7	1 2.7

② 取得したい資格

【Q.30で「資格を取得したい」を選んだ場合】どんな資格を取得したいですか。

幼稚園教諭免許第1種、保育士、社会福祉士といった教育・福祉職、行政書士、社会保険労務士、通訳案内士といった士業、アロマセラピスト、校正技能検定上級といった専門職などが、具体的にあげられている。

(2) サポートの利用意向

① 利用したいサポート

Q.31 今後利用してみたいサポートや参加してみたい場は、ありますか。いくつでもお答えください。

今後利用してみたいサポートや参加してみたい場についてたずねたところ、「仕事に必要なスキルアップの場」39.1%、「職業訓練・資格取得支援」38.3%、「心身がリフレッシュできる場」36.0%が上位にあげられた。「企業や仕事とのマッチングの場」29.5%、「同じ立場の人たちとの交流の場」28.4%、「住まいの支援」27.6%、「話を聞いてもらえる場」27.2%、「非正規職シングル女性の交流サイト」25.7%などがこれに続き、サポートニーズが多岐にわたっていることがわかる（全回答者の平均選択数 3.34 項目）。

「仕事に必要なスキルアップの場」は、属性の別なく高い。

「職業訓練・資格取得支援」へのニーズは、「中卒・高卒・高卒相当」で 64.1%と、とくに高く、就業形態別には「パート・アルバイト」で 50.9%、「派遣社員」で 50.8%、また、年収「150 万円未満」で 45.9%と高い。研修機会が少なく、経験年数を重ねてもスキルが積み上げられない状況がうかがわれる。

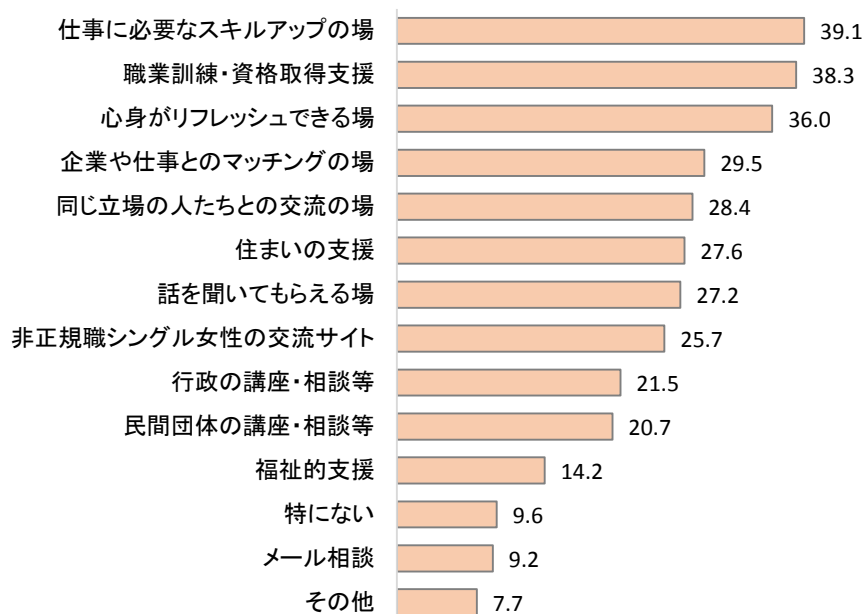
「心身がリフレッシュできる場」は、「パート・アルバイト」で 54.7%、年収「150 万円未満」で 43.2%と高くなっており、いずれも「福祉的支援」を約 3 割があげている。

「企業や仕事とのマッチングの場」へのニーズは、「契約・嘱託」で 40.0%、年収「250 万円以上」で 36.1%となっており、年収上位層で高い。

なお、「その他」の記述内容には、相談や交流の場に対するニーズが多くあげられた。

◆Q.31 利用したいサポート（MA）【値の高い順】

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q.31 利用したいサポート (MA)													
			職業訓練・資格取得支援	行政の講座・相談等	民間団体の講座・相談等	福祉的支援	同じ立場の人たちとの交流の場	企業や仕事とのマッチングの場	仕事に必要なスキルアップの場	心身がリフレッシュできる場	話を聞いてもらえる場	非正規職・シングル女性の交流サイト	メール相談	住まいの支援	特になし	その他
全体		261 100.0	100 38.3	56 21.5	54 20.7	37 14.2	74 28.4	77 29.5	102 39.1	94 36.0	71 27.2	67 25.7	24 9.2	72 27.6	25 9.6	20 7.7
年齢	35～39歳	88 100.0	39 44.3	20 22.7	21 23.9	12 13.6	22 25.0	28 31.8	37 42.0	33 37.5	23 26.1	22 25.0	7 8.0	21 23.9	10 11.4	4 4.5
	40～44歳	79 100.0	30 38.0	14 17.7	14 17.7	7 8.9	22 27.8	21 26.6	32 40.5	28 35.4	19 24.1	20 25.3	7 8.9	21 26.6	7 8.9	12 15.2
	45～54歳	94 100.0	31 33.0	22 23.4	19 20.2	18 19.1	30 31.9	28 29.8	33 35.1	33 35.1	29 30.9	25 26.6	10 10.6	30 31.9	8 8.5	4 4.3
最終学歴	中卒・高卒・高卒相当	39 100.0	25 64.1	9 23.1	11 28.2	11 28.2	11 28.2	10 25.6	15 38.5	10 25.6	11 28.2	9 23.1	6 15.4	12 30.8	5 12.8	1 2.6
	短大・専門学校卒	83 100.0	33 39.8	18 21.7	19 22.9	8 9.6	18 21.7	23 27.7	32 38.6	32 38.6	25 30.1	24 28.9	4 4.8	22 26.5	5 6.0	4 4.8
	大学・大学院卒	139 100.0	42 30.2	29 20.9	24 17.3	18 12.9	45 32.4	44 31.7	55 39.6	52 37.4	35 25.2	34 24.5	14 10.1	38 27.3	15 10.8	15 10.8
同居状況	同居者あり	136 100.0	54 39.7	28 20.6	25 18.4	19 14.0	40 29.4	37 27.2	47 34.6	48 35.3	39 28.7	39 28.7	14 10.3	33 24.3	12 8.8	12 8.8
	一人暮らし	125 100.0	46 36.8	28 22.4	29 23.2	18 14.4	34 27.2	40 32.0	55 44.0	46 36.8	32 25.6	28 22.4	10 8.0	39 31.2	13 10.4	8 6.4
自身の税込年収	150万円未満	74 100.0	34 45.9	20 27.0	24 32.4	22 29.7	31 41.9	17 23.0	30 40.5	32 43.2	31 41.9	28 37.8	9 12.2	22 29.7	10 13.5	1 1.4
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	44 42.3	22 21.2	21 20.2	13 12.5	28 26.9	30 28.8	40 38.5	39 37.5	31 29.8	26 25.0	13 12.5	30 28.8	7 6.7	11 10.6
	250万円以上	83 100.0	22 26.5	14 16.9	9 10.8	2 2.4	15 18.1	30 36.1	32 38.6	23 27.7	9 10.8	13 15.7	2 2.4	20 24.1	8 9.6	8 9.6
就業形態	契約・嘱託	75 100.0	22 29.3	16 21.3	9 12.0	3 4.0	20 26.7	30 40.0	29 38.7	27 36.0	13 17.3	14 18.7	4 5.3	14 18.7	5 6.7	5 6.7
	派遣社員	61 100.0	31 50.8	12 19.7	14 23.0	8 13.1	14 23.0	19 31.1	29 47.5	19 31.1	18 29.5	14 23.0	6 9.8	18 29.5	4 6.6	4 6.6
	パート・アルバイト	53 100.0	27 50.9	19 35.8	18 34.0	16 30.2	24 45.3	10 18.9	24 45.3	29 54.7	24 45.3	23 43.4	11 20.8	18 34.0	4 7.5	3 5.7
	非常勤	27 100.0	6 22.2	3 11.1	2 7.4	3 11.1	4 14.8	6 22.2	6 22.2	6 22.2	6 22.2	4 14.8	1 3.7	6 22.2	6 22.2	0 0.0
	業務請負等	37 100.0	8 21.6	4 10.8	6 16.2	4 10.8	8 21.6	8 21.6	10 27.0	10 27.0	5 13.5	8 21.6	2 5.4	14 37.8	6 16.2	8 21.6

② 福祉的支援の希望

【Q.31で「福祉的支援」を選んだ場合】どのような福祉的支援を利用してみたいですか。
さしつかえなければお書きください。

経済的な支援に関する記述が最も多く、次いで、親の介護に関わる支援があげられている。
メンタルケアなど、自身のケアに関わる事項もみられる。

③ 参加できる曜日・時間帯

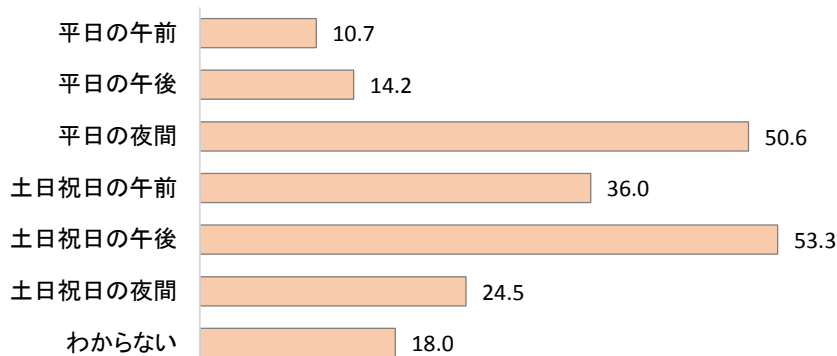
Q. 32 利用したいサポートや交流の場などがあつたとして、あなたが参加できそうな曜日や時間帯は、いつですか。あてはまるものを、いくつでもお答えください。

サポートや交流について参加できる日時については、「土日祝日の午後」と「平日の夜間」が多く、「土日祝日の午前」がこれに次いでいる。

「土日祝日の午後」の希望は「派遣社員」や「契約・嘱託」でとくに高く、「パート・アルバイト」および年収「150万円未満」では「平日の夜間」が第1位となっている。

◆Q. 32 参加できる曜日・時間帯 (MA)

n=261
(単位：%)



上段：人 下段：%		合計	Q. 32 参加できる曜日・時間帯 (MA)						
			平日の 午前	平日の 午後	平日の 夜間	土日祝日の 午前	土日祝日の 午後	土日祝日の 夜間	わから ない
全体		261 100.0	28 10.7	37 14.2	132 50.6	94 36.0	139 53.3	64 24.5	47 18.0
年齢	35～39歳	88 100.0	10 11.4	12 13.6	47 53.4	38 43.2	49 55.7	25 28.4	12 13.6
	40～44歳	79 100.0	9 11.4	12 15.2	39 49.4	30 38.0	38 48.1	18 22.8	17 21.5
	45～54歳	94 100.0	9 9.6	13 13.8	46 48.9	26 27.7	52 55.3	21 22.3	18 19.1
最終学歴	中卒・高卒・ 高卒相当	39 100.0	7 17.9	8 20.5	13 33.3	9 23.1	17 43.6	7 17.9	9 23.1
	短大・ 専門学校卒	83 100.0	8 9.6	10 12.0	51 61.4	35 42.2	44 53.0	20 24.1	11 13.3
	大学・ 大学院卒	139 100.0	13 9.4	19 13.7	68 48.9	50 36.0	78 56.1	37 26.6	27 19.4
同居状況	同居者あり	136 100.0	16 11.8	23 16.9	58 42.6	52 38.2	80 58.8	28 20.6	26 19.1
	一人暮らし	125 100.0	12 9.6	14 11.2	74 59.2	42 33.6	59 47.2	36 28.8	21 16.8
自身の 税込年 収	150万円未満	74 100.0	14 18.9	22 29.7	30 40.5	19 25.7	25 33.8	11 14.9	15 20.3
	150万円以上 250万円未満	104 100.0	8 7.7	9 8.7	57 54.8	39 37.5	62 59.6	30 28.8	21 20.2
	250万円以上	83 100.0	6 7.2	6 7.2	45 54.2	36 43.4	52 62.7	23 27.7	11 13.3
就業 形態	契約・嘱託	75 100.0	2 2.7	4 5.3	40 53.3	32 42.7	45 60.0	23 30.7	11 14.7
	派遣社員	61 100.0	1 1.6	1 1.6	37 60.7	28 45.9	43 70.5	17 27.9	7 11.5
	パート・ アルバイト	53 100.0	10 18.9	13 24.5	24 45.3	18 34.0	20 37.7	9 17.0	12 22.6
	非常勤	27 100.0	1 3.7	1 3.7	11 40.7	5 18.5	12 44.4	5 18.5	6 22.2
	業務請負等	37 100.0	14 37.8	15 40.5	16 43.2	10 27.0	12 32.4	8 21.6	11 29.7

④ ほしいサポート

Q.33 社会の中でこんなサポートがあったらうれしい、というようなご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。(600字以内)

この設問に対しては、131人(261人中の50.2%)が何らかの内容を記述した。

その内容は、相談・情報・場等の具体的なサポートについて以前に、税制や社会保障制度、社会のしくみについての意見が多くなっており、抜本的な問題解決が望まれている。

ここでは、記述された意見を「A 社会のしくみについての意見」、「B 具体的なサポートについての意見・希望」、「C 本アンケート調査や問題の立て方についての意見」に3区分した。その上で、AとBはテーマごとに要約し、類似の意見はまとめた。

《A 社会のしくみについての意見》-----

【仕事・雇用・賃金等】

- アルバイトの最低賃金を上げてほしい。
- 経験と実績に見合った給料・条件を。
- たとえ派遣でも安心して働き続けられるしくみがほしい。
- 派遣会社に派遣社員の交通費を支給させる施策を。
- 給料安くてもせめて福利厚生、休暇、賞与等で正社員に近づきたい。
- 同一労働・同一賃金を促進してほしい。給与の差は働く時間による差などであってほしい。
- 年齢による求人差別を厳しくして。正社員が増える仕組みを。
- 40代以上の女性でも正社員の機会を。年齢がいくと主婦のパート職しかない。シングルであることは想定されていない。
- 国家試験に合格しても非正規職、かつ責任の重い仕事。正規職との格差がありすぎる。女一人でも生きていくためには非正規職ほど時給を上げて。
- 正規職との不公正な条件格差に対して実態調査をし、是正勧告してくれる機関がほしい。
- ミスマッチ防止のため、面接後に一定期間実際に働いてもらい、働きぶりを見て互いに確認して本採用するしくみを。
- 管理職への希望をもつ非正規職のスタッフにチャンスを。
- 家族の事情や体調不安があってもそれを考慮した働き方ができるよう、事業主に理解促進を。
- 不調で休職した人も再出発しやすい、年齢制限のない教育訓練等のしくみを。
- フルタイムで働く人と時短で働く人が職場で補い合えるしくみ。ワークシェアリングを。
- 仕事以外なにもできないような長時間労働の解消を。

【生活・生き方等】

- 子どもの保育園から大学までの無償化あるいは低価格化。図書館やスポーツセンターのようなイメージで。
- 病気になったとき、独りではできないことに遭遇したときに「ちょっと手を貸してくれる」サービスがほしい。
- 財産や人脈がなくても老後孤独を感じずに過ごし、安らかに永眠できる場所がほしい。
- 性別年齢にかかわらず気の合う人たちと家族になれるシステム。
- 同性婚等の(認知がなされた)制度がほしい。

第2章 ウェブアンケート調査の結果

【社会保障・税制等】

- 社会保険料・税金の免除や減額の範囲を広げてほしい。税金等で主婦パートとの差がありすぎる。
- 配偶者控除や第三号被保険者制度をなくし、シングル単位の税制に。女性が貧困であり続けるのはカップル優遇の各種制度のため。
- パートの扶養控除の年収制限をなくし、時給や勤務日数が抑制されないようにしてほしい。
- 収入によりレンタカー割引や公共交通料金割引や公共料金割引などを。
- 病気などで休職中の場合の補償を法的に義務づけ。
- 非正規労働者共済年金制度や退職金制度。
- 保証人制度を公的なものにすること。
- 非正規労働者の産休・育休取得の義務づけ。
- 不妊治療（公的助成）の年齢制限は悲しい。
- 親の施設入所にかかる費用は収入から控除に。
- ベーシックインカム⁸があれば。

【社会のあり方】

- 新聞やテレビなどメディアでももっと現状把握して取り上げてほしい。女性といえば子どもを生んで、仕事もして、社会も支援しているというきれいごとばかりでなく。
- 既婚者や子育て世帯にはいろいろな支援や控除があるが、独身者にはなく、厳しい。結婚や子どもの有無は個人の自由であり、そのことで生きづらくなるのはおかしい。生涯独身の人もこれから増えるのでは。社会や政治にそうした視点を。
- シングルの人にもっとやさしい社会であってほしい。
- 発達障害に対して会社の理解が進むよう啓発を。
- トランスジェンダーの女性。前職で性暴力に遭う。公的な相談機関での理解促進を。
- 正社員にしないため、3年や5年で非正規職を切る職場がほとんど。この実態とそこで働く人の声をもっと知られてほしい。経営側の意見が強すぎる。
- 派遣で不当な差別を受けたときに訴えられる、調査権限も持つ独立した機関がほしい。
- 非正規職の人を正規職として雇用した際の企業への補助金や雇用促進を行う機関が必要。
- 非正規職の実態を調査し、社会や行政に働きかける統一的な組織が必要。

《B 具体的なサポートについての意見・希望》-----

【仕事・就活等】

- 生涯働けるスキル習得の支援と充実。支援基金。語学やパソコンなどの研修、海外研修。夜間の講座。無料か受講費補助のあるかたちで。
- 面接突破のため、面接時の服装や履歴書写真のアドバイスを。
- 適性やこれまでの経験を見て相談を受け、仕事を紹介してくれるしくみ。転職サイトでは仕事が見つからなくなってきた。契約が切れるのが怖い。

⁸ 就労や資産の有無にかかわらず、すべての人に対して生活に最低限必要な所得を無条件に給付するという社会政策。

- シングル女性に特化したハローワークを。
- 偏見なく正規雇用してくれる企業とのマッチングや交流機会。30代では正社員に応募さえできない。
- 資格を取っても経験がないと採用されないので実務を経験する場。
- メンタルトレーニング。
- 低料金で、土日や夜間に開いている就職・生活等の相談窓口。行政の無料の就職相談は現場を知らない相談員で役に立たないことも多かった。
- 自営や小さな個人事業主のための相談。
- 税金・健康・キャリアアップの相談窓口や講座が夜間や早朝、土日に開いていること。不安な気持ちを話せる、困ったときの総合的窓口。

【住まい・介護・健康・食事・結婚・終活など】

- 低家賃の住まいの優先的な提供。公営住宅の単身者、友人同士への開放、家賃補助(10件以上のコメントあり)。
- 低収入の女性でも安心して住めるアパートなどの支援。ひきこもりや障害のある人に宿泊や住居支援があるように。
- 初期費用や保証人の要らない低家賃の空き家活用やルームシェア、住まい・住人マッチングの支援。
- (同居か否かを問わず)親の介助・介護のための相談や情報提供。介護が必要になったら仕事を減らすか、やめざるをえない。親が亡くなっても仕事復帰できる望みもないため。
- 無料で(曜日や頻度など)利用しやすい健康相談・健康診断・健康関連情報の充実。
- ネット予約できる家事援助窓口。
- 非正規職の人向けの低価格婚活サービス。
- 生むこと(で貧困になるリスク)をためらわずにすむ社会環境の整備。子どもと過ごせる時間が持てる時給の設定や食事補助など。妊娠したら失業するのでは子育てできない。
- 元気なうちにお願いできる終活の支援。親の家や多少の遺産の相続や寄付先などの情報も。
- 住まいや仕事がなくなったときの避難場所を作してほしい。
- 食事の提供が格安で受けられる場所。

【交流や相談の場】

- 同じ立場の女性が交流できる場。コミュニティ創設へのサポート。
- いろいろな年代や仕事の人と出会える場所。知識やモノがシェアできる場。
- 結婚してもしなくても安心して生きていけるシングル女子のライフモデルを考えるワークショップや交流会。仕事・生活・介護などの情報や思いをわかちあいたい。
- 40代~50代の女性が利用しやすいコミュニティセンターがあれば。区役所は遠い。
- 同世代で話せる場。
- ただ話を聴いてくれる窓口がほしい。宗教ではなく。
- 友人の相談を受けられる、無料か格安の雨風をしのげる場所。
- ネット上の交流の場。
- サポートメニューに簡単にアクセスできるポータルサイト。

第2章 ウェブアンケート調査の結果

- 精神疾患を持っていても働ける、結婚できるというような、当事者主体の交流の場。
- 単身独身女性をテーマとした冊子や書籍等の刊行や、講演会、シンポジウムなど。それにより、社会の関心が集まるとよい。
- 事情があり、フルタイムで働けない人もいる。土日は仕事があったり、シフト制のため毎週決まった曜日に休めない人も多い。個々の事情に合ったきめ細かいサポートが受けられるとよい。
- 非正規労働者の権利主張や地位向上を目的に活動できる場所がほしい。

《C 本アンケート調査や 問題の立て方についての意見》-----

- このアンケートに答えていて、私は今まで「しないといけないこと」、「すべきこと」に追われて「したいこと」について考えることがなかったことに気づいた。改めて「受けたいサポート」や「したいこと」を考えてみるのができた。(42歳、パート・アルバイト)
- ジェンダーの問題はとかく可視化しにくく、個人の選択の問題とされがち。労働問題として扱うからには、労働における排除の構図やシステム、対応策などを可視化し、企業や施策の担い手に迫ることが必要。このアンケートも集計・分析にとどまらず、施策にまで踏み込んでほしい。(48歳、業務請負等)
- 中年以上の非正規職独身女性に壁となっているのは「金と時間と自由がある」、「自ら選んでいる」、「親が裕福」などの世間の偏見と企業の体質。見ぬふりをしてきた国と行政。このアンケートが実施されて、メディアを使い、拡散してもらうだけでも第一歩。(42歳、業務請負等)
- サポートではなく、既得権益を持つ人々の特権をなくし、是正していく方向を望む。弱者をサポートするという視点が見えるこの設問は、独身女性をバカにしているのではないか。(37歳、業務請負等)
- 性産業で働く女性も含まれることを想定した非正規職労働者の支援や相談態勢というのは、あまり考えられていない。非正規職といえば派遣労働者やパートアルバイトが一般的。このアンケートでもたとえば就業形態などセックスワーカーは答えにくい。セックスワーカーも含む非正規労働者のサポート態勢にどのように参考になるのかと思う。(39歳、業務請負等)
- 今現在困難な立場にある人々に対する行政による「サポート」はあるべきだし、歓迎する。しかし一方で、一時的・部分的なサポートでは困難な状況を生み出す現状を変えることはできない。非正規雇用の問題は男女を問わず政治的に解決されるべき構造の問題なので、行政には「サポート」の現場で明らかになった問題を広く知らしめることで、問題の根源的な解決につなげる政治への橋渡し役をも期待したい。(40歳、派遣社員)

第3章 グループインタビューの結果

第1節 グループインタビューの実施概要

1 目的

調査者がウェブアンケート調査の回答者に直接出会い、現在の仕事や暮らしに関する悩みや不安、望むサポートなどに関する生の声を聴くことで、現状と希望をより具体的に把握することを目的に実施した。個別インタビューではなく、グループインタビューというかたちで行うことで、インタビューされる対象者同士が会えることも意図した。

2 実施概要

(1) 参加者決定のプロセス

以下の手順で横浜、大阪、福岡3カ所でのインタビュー参加者を決定した。

- ① ウェブアンケート調査の最後に「グループインタビューへの協力意向」をたずね、メールアドレスの記載を依頼。
- ② メールアドレスを記載した86人(アンケート回答者の3人に1人)を居住地ごとに3エリア(首都圏、近畿圏、九州圏)に分け、それぞれのエリアの回答者に対して、調査主体である3者より、グループインタビューの日程、会場等についてメールを送付。
- ③ 各エリアで参加希望の返信があった者の中から、抽選で参加者を決定。

なお、居住地の記載がなかった回答者、3エリアに当てはまらない回答者に対しては、横浜協会より連絡した。

◆エリア別の実施体制

エリア	連絡者・グループインタビュー実施者
首都圏	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会
近畿圏	一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会
九州圏	公立大学法人 福岡女子大学 教授 野依智子

第3章 グループインタビューの結果

(2) 実施方法

参加者・調査者が同じテーブルにつき、ウェブアンケート調査の結果（概要）を共有しながら、リラックスした雰囲気の中で座談を行った。安全・安心な場をつくることに最も留意し、はじめに「同意書」を呈示して、インタビューの目的と結果の使い方、発言のルールを確認した。進め方は各回共通とし、①現在の仕事や生活の状況、②悩みや不安、③望むサポートの3点について聴きとった。

※同意書は資料編参照

◆配布物と進め方

配布物	・調査についての同意書／参加者プロフィール一覧／集計結果グラフ抜粋
進め方	・調査員より「同意書」を呈示。インタビューの目的、結果のまとめ方と公開方法、聞く内容、場のルール等について説明。質問を受けた。 ・参加者による自己紹介（20分程度） ・集計結果抜粋について説明 ・インタビュー（90分程度） ・最後に、サインした「同意書」を受け取り、プロフィール一覧を回収

(3) 実施状況

3会場で計5回のグループインタビューを実施し、全体で22人の参加を得た。

◆実施日時・人数・会場

	エリア	実施日時	実施人数		実施会場
			参加者	調査者	
第1回	首都圏	2015年11月29日(日) 10:00-12:00	6人	3人	男女共同参画センター横浜南
第2回	首都圏	2015年12月5日(土) 13:00-15:00	6人	3人	
第3回	近畿圏	2015年12月13日(日) 13:00-15:00	4人	2人	クレオ大阪中央
第4回	九州圏	2015年12月26日(土) 13:00-15:00	2人	2人	福岡市男女共同参画推進センター・アミカス
第5回	九州圏	2016年1月9日(土) 13:00-15:00	4人	2人	
計5回			22人		

(4) ウェブアンケート調査を知った情報経路

グループインタビュー参加者に、本ウェブアンケート調査を知った情報経路についてたずねたところ、以下のとおりであった。

◆参加者がアンケートを知った情報経路

区分	人数	内訳	
電子媒体	15人	・フェイスブック（8人） ・ツイッター（3人） ・ネット上のニュース（2人）	・調査実施団体のメールマガジン（1人） ・民間団体のメール配信（1人）
紙媒体	4人	・新聞（3人）	・チラシ（1人）
その他	3人	・知人から（2人）	・不明（1人）
計	22人		

第2節 グループインタビューの結果

1 横浜（首都圏）

参加者 12 人のインタビュー結果は、次のとおりである。

（1）プロフィール

30 代後半 派遣社員	契約社員だったが、仕事を干され、雇止めにあった。希望の業界があり、経験がなかったので派遣で入った。3 年たったので正社員の打診をしたら「今のまま続けて」と言われた。
30 代後半 派遣社員	2002 年の就活のころ不景気で、100 社近く面接を受けたが内定をもらえず、派遣社員になる。途中で正社員も経験。派遣会社はこれまで 3 社で働いた。
30 代後半 派遣社員	学生時代からやりたい仕事があり、働きながら専門学校に通った。内定ももらったが通学のために派遣の働き方を選んだ。今も派遣で働きながら週末に別の仕事。正社員だと兼業できない。
40 代前半 契約社員	初職は正社員だったが、異動、部署の統廃合などでリストラにあい、派遣やアルバイトで働かざるを得なくなった。
40 代前半 アルバイト	正社員だったが残業代は出ず、あまりにも長時間労働だった。やりたいことをする時間を確保しようと転職し、アルバイトに。
40 代前半 時給の契約社員	正社員だったが、業績悪化で退社。その後の留学経験が買われ、派遣会社で外資系に派遣される。名前は契約社員だが時給で、1～2 ヶ月の契約を繰り返している。
40 代前半 嘱託職員	正社員で証券会社に入ったが、退職して留学。留学前はお金を貯めながらいろんな業界を見てみたいと思い非正規職で働いたが、その後正社員をめざした時には仕事がなかった。
40 代後半 契約社員	ベンチャー企業の正社員だったが、会社がつぶれ、困って契約職員に。5 年で雇止めにあった後、社労士を取得。それを活かして正社員になるも、事業主側に立つ社風と合わずに退職。現在は契約社員。
40 代後半 フリーランス	初職は広告代理店の正社員。仲間と会社を設立したが、バブル後に倒産し、その後は経験を活かしてフリーで働いた。5 年前に夫と死別。学校に通い、ライターとして働いている。
40 代後半 個人事業主	医療系の元公務員。現在はその道の国家試験対策講師。場所を選ばなければ 65 歳超えても食べていけると思い、非正規職を選択。時給は高めだが、契約は半年ごとの更新。
50 代前半 時給の契約社員	派遣スタッフのお世話係を、自分も派遣社員として行っていた。社員への登用制度を使いたかったが、途中で制度がなくなった。その後取った資格を活かして転職したら、行政の下請け業務で時給の契約社員に。賞与なし。
50 代前半 契約社員	元プログラマー。泊まりもあり不規則で、いつ休めるかわからなかった。子ども時代の性被害の影響か、人と接しない仕事を求めてきた。過食・拒食からの糖尿病をかかえて 1 日 6 時間働く。

※なお、12 人中 3 人がキャリアコンサルタント、社会保険労務士、看護師の資格を活かして働いていた。また、5 人が一人暮らしであった。

(2) インタビュー参加の動機

- これまでの経験から語りたいことがたくさんあり、自由記述も長めに書いたが、実際に話したかった。
- 同じような立場の人と会って、自分を見つめ直したいと思った。
- 「大学時代に遊んでいたから正社員につけなかった」、「好きでそういう働き方を選んだんじゃないか」などと言われ、つらかった。それはまったく無知、勘違いであることをこの調査を通じて社会にわかってほしいと思った。
- なかなか正社員にはなれない状況がある。今の職場でも正社員は育児休業も保障されているが、自分の立場では想像もできない。現状をわかってもらっていないので、直接声を届けたいと思った。
- さまざまな理由で非正規職になるのは誰にでも起こりうることだ。もっとこの問題に陽が当たってほしいと思っている。

(3) 現在感じている悩みや不安

【「負のスパイラル」について】

- 40代女性の仕事は家計補助とされているのか、まずフルタイムの募集が少ない。国の支援も子育てや介護ばかり。職場でも正社員の好待遇に対して休暇等をカバーする「独り者」の負担が増す。年齢的に成果だけは期待されるためプレッシャーも重い。高い保険料が引かれているが、自分が体調を崩しても休みも取れず、病院にも行かれず、退職した。
- 健康、仕事、住まいの心配はつながっている。自分の老後も親の老後も不安。お金があれば減らせる心配もあると感じる。派遣社員では交際・趣味にかけられるお金がなくて、はけ口がないのはきつい。「調整弁」にされていると思うと転職したいが、年齢を考え迷う。正社員と非正規職との「差」にもっと注目してほしい。
- 非正規職で長く働いていると、経験値が積み上がらず、求人への応募もできない。精神的に不調になった場合も休める期間が短い。また3年契約で、雇用を切られてしまう不安から体調が悪くても休みづらい。
- 健康、住まい、親との関係。国民健康保険は入っているが、民間の保険には入れないので、重い病になったら治療費が支払えない。住まいは、家賃が値上げされたら払えないし、転居するにも親が高齢で保証人になれるのか心配。雇用状況から言っても、次の仕事があるのか不安。友人の祝い事に、祝い金も出せないし、正社員の友人に祝い金が必要か？と考える自分が情けなく、学生時代の友人といい関係が築けなくなりつつある。今後親の介護が始まったら自分が戻って介護すべきなのか悩む。介護しながら収入を得られるのか？実家に帰って、結婚した方がいいと言われたこともあるが、地元にとりあえず仕事があるのか。

【「低収入」について】

- 自立できる収入がほしいが、生涯賃金はとても低い。自分があと20年働きたいと思っても「若年層のキャリア形成のため」と求人に年齢制限があり、年齢が上がると応募できず、正社員になりにくくなる。
- アルバイトの今は自分の時間もあり、職場の雰囲気はいいが、給料が安い。

- 老後のための貯金はできず、趣味や交際費も削るしかない。
- 年金をもらえないと思うので貯金したいが、生活していくだけでやっとな。実家からも出たいが一人暮らしでは貯金ができず、老後が心配。

【雇用不安について】

- 昔は年功序列で退職金もあり、老後の不安は少なかったのでは。世代によってここまで状況が違うのは不公平だ。今の職場は来月末で終了。年末年始をどうしようか。この業界に、自分程度の能力でできる仕事はなくなってきており、あるのは短期間の「つなぎ」仕事だけ。外資系の契約期間は通常1ヵ月で、「今度は長期で」と言われたら2ヵ月だった。
- (派遣で働く)現在の職場は契約書も交わさない3ヵ月更新で、2015年秋の更新は派遣法成立を待って、10月1日までされなかった。
- 派遣法改正の内容が心配。自分の希望する内容で現在は働けているが、それが切られてしまうのかどうか。派遣元の社員になると、どんな派遣先でも行けと言われれば拒否できなくなってしまう。それは望んでいない。

【親の介護・病気について】

- 両親二人とも病気で、親と同居する兄がほぼ不在のため、私が毎晩仕事帰りに食事づくりに行っている。「私の人生は介護で終わる」と思った。独身で末っ子だと介護を担わされる。
- 以前母の通院で急きょ仕事を休んだら、それで契約期間が短くなったことがある。介護はともにお金がかかり、睡眠も削られる。
- 母は障害を持ち、父は介助が必要になった。現在はボケ防止のため、あえてあまり手を出していないが、今後必要になってくる。
- 将来、病気の父の世話をするのは、同居している自分。母の介護のときも姉は正規職で介護休暇があったが、姉の出産と重なったので自分が担った。自分は身分保障もないのに介護休暇をとったが、姉には事情を理解してもらえない。
- 親の介護では、男兄弟が2人いるが仕事をしているので、自分が仕事をやめて介護をすることになるのでは、と思う。結婚していて夫の収入があって保証されていれば、それもありだが、自分はそうではない。自由がない。

【自分の医療費・病気について】

- 正社員だと健康診断は無料だが、自分は費用を比較して受ける範囲を(限定的に)選ばざるを得ない。健康面や老後の不安は、若いときは感じなかったが、今ひしひしと感じている。
- 糖尿病治療のためインシュリンを打っている。低血糖で倒れても一人暮らしだと見つけてもらえないのでは、という不安があるので、隣人には伝えてある。透析を始めるようになると、普通の仕事にはつけない。
- 国民健康保険なので、風邪ひとつで3千円ぐらいとんでいく。今後身体の不具合が増えたら、より病院へのハードルが高くなりそう。すごい金額が保険料として取られているが、風邪程度なら市販薬で、と考えてしまう。正社員は調子が悪い時でも、ちゃんとケアしてもらえる制度が整っているし、健康管理がしやすいと思う。

【住まいについて】

- 住まいに関して、今は父と住んでいるが独立したい。URの賃貸住宅を探しても家族向けは多いが、シングル向けにはない。

【結婚・子どもについて】

- 結婚は考えたい。それ以上に、結婚しなくてもシングルマザーになってでも子どもがほしいが、金銭的に余裕がなければ難しいし、シングルマザーで実家住まいだと、生計が一緒という理由で支援が受けられない。しかし、独立すれば家賃もかかり、カツカツした生活になって、子どもに平均的な人生を歩ませられないだろうと思う。

(4) 望むサポート

【社会の風潮や制度について】

- 私たちが（正社員の仕事を肩代わりしたりして）会社の仕事をまわしているということを、マスコミにももっと知ってもらいたい。子育てと両立する女性ばかりでなく、陰でずっと地道に努力を続けてきた人も評価してほしい。
- 雇用形態の違いでなく、仕事の成果で給料をもらいたい。
- （雇用差別などがあつたときに）意見を吸い上げて実行に移してもらえる相談場所。
- 企業をはじめとした就職の場に対して「雇用差別はだめ」などペナルティーをつけてほしい。
- 個人事業主にも失業保険のようなものがあるといいが。
- 住まいのサポートがほしい。家賃が高いので。
- 住まいのサポート。空家や団地などを安く提供してくれないだろうか。住まいがないのは切実。高齢者の多い団地なら、自分（たちの世代として）もできることはやろうと思うが。

【具体的なサポートプログラムについて】

- 交流サイトがあるとよい。
- 同じ立場の人との交流。
- 自由に来ておしゃべりできる「集まり」がほしい。お金がないので無料か安い値段で。仕事場でないところで、人のおしゃべりがしたい。
- 公共施設の人気の講座はすぐいっぱいになるし、平日昼の開催が多いので、仕事帰りにできるものがほしい。21時まで仕事をしている人もいるので、深夜12時くらいまで、講座があってもよいのでは。担当する職員を置くのが難しければ、夜間～深夜の講座専用のスタッフを雇えば、新たな雇用にもつながる可能性がある。
- 仕事のマッチングや異業種交流会など。キラキラやギラギラのものではなく、内容がもう少しやわらかいもの。
- 実際に仕事につながるもの。
- 他人から見て「その人の光るもの」を見つけて、本人が自信を持てるようなもの。
- そのままでもいい、と自信をつけてくれるようなカウンセリングがあつたらよい。
- 企業とのマッチングも必要。求人を見ているだけでは、ハードルが高すぎて応募する前からおじけづいてしまう。求人企業のニーズと、その人の売りを見てマッチングしてくれるキャ

リアコンサルタントのサービスなど。自分のキャリアに自信がない人はどうやってアピールしたらよいかわからないので。

- 若い時にあったらと思うのは、性被害にあったときに話し合えるような場。
- 就業形態関係なしに、スキルアップできる機会があればうれしい。
- 勉強後に交流会の場があったらよい。別々に開催して、あらためて集まって交流、とすると参加のハードルが高くなる。
- 業界で求められていることなどの業界事情を教えてもらえるといい。そのあと個別相談があるなどもよい。
- マッチングと定着支援。
- 資格取得支援では、英語とパソコンスキル。働きながらスキルアップできる機会を、安く提供してほしい。
- 職探しのときにネガティブなことを言われ続けると、就活にも影響が出るので、カウンセリングがあったらいい。
- サービスを受ける日時としては、不規則就労の人は平日昼間がいいだろうし、平日夜のほうがよい人もいる。2タイプに分けてはどうか。

【その他 参加した感想など】

- 面接でひどいことを言われても誰にも言えずつらかったが、今回(グループインタビューに)参加してはじめて話せたことがあった。
- このような場でいろいろ話すことで、今後どのようなサポートが必要かを考えたい。今日も他の人の話を聞いてうなずくことが多かった。また、今回は知人から情報を得たが、そのような情報自体どこからとればよいのかを知りたい。



2 大阪（近畿圏）

参加者4人のインタビュー結果は、次のとおりである。

（1）プロフィール

40代前半 業務委託	編集者の仕事をしなくて、ずっと派遣。正社員登用を匂わせられて行った派遣先で雇止めに。食べていくのがつらくても、派遣という働き方にはもう戻らないと決め、現在はフリーランスに。
40代前半 アルバイト	大学卒業後、就職。ずっと営業職で頑張ってきたが、離職。前は声をあげたりしていたが、あげても仕方ないのかなという感じが強くあり、今はちょっと疲れてしまっている。
40代前半 常勤嘱託職員	ヘルパー2級・看護助手の時に労災認定されず退職勧奨。苦労して働きながら国家資格を取得。ソーシャルワーカーとして働くが、行政は非正規化が進み、正規職には年齢制限があって応募できない。
50代前半 パート	母の介護をするためにいろいろと準備をしていた時に、勤怠が悪いといって契約を切られた。ユニオンに駆け込んで先方と交渉。今はそのユニオンで会計事務をしている。

（2）インタビュー参加の動機

- 非正規職シングル女性の困難な状況は（ユニオンでの）仕事柄たくさん見ている。自分自身の将来とも重なり、切実、深刻と以前から感じ、活動もしてきた。社会的にとりあげられていないと感じていたので、今回応募した。
- 私（非正規職、シングル、女性）が書いてもいいアンケートがあるんだなと思ったところから応募した。
- 若い世代に対して私自身の実情を、反面教師ではないが見せたい。ワークシェアをするとか、働き方を変えなければと思う。役に立てればと思い、参加した。

（3）現在感じている悩みや不安

【“非正規職”で働くことについて】

- 自分で選んでフリーランスという立場になったが、それは社会保険を手放したということ。自由度は増したが、アンバランス。
- 現在42歳。ロストジェネレーションのど真ん中。有名企業にいても会社がつぶれることもあり、正社員が安泰というイメージが自分にはない。
- 初心者OKで講習するという仕事が派遣にあったので、そこでパソコン等の基本をきっちり教えてもらえた。これまでの仕事（父の事務所）の給与が安く、世間一般の賃金がなんぼかを知らなかったの、不満もなかった。経験を積み、いろいろと任されるようになってからは賃金交渉もできた。派遣であることには、それほど不満はなかった。

- 派遣という働き方は、以前は価格交渉が当たり前だった。今は、雇止めもあるので、みんな黙ってしまう。
- 常勤嘱託職員という立場。関係機関への指示やコーディネートなどかなりの力量を要する。が、役職も何もなく、人の3倍働いて、他の非正規職の人たちと同じ給料。給料交渉の余地もなく、1年契約で、来年の契約はどうかかわからない。

【スキル・経験等について】

- 大学卒業後、祖母の介護の問題もあり、父が開業していた事務所の手伝いをしていた。その後、就職活動をするなかで、父の事務所にいたことは職歴にならないと片っぱしから言われた。

【シングル女性のイメージ、結婚・出産について】

- 不安定ながらも方向性が固まってきて、いざ、結婚・出産ということを考えた時に「高齢出産」という壁が。育児の前に、介護もやってきそう。
- 学生時代から結婚する気がなかったが、そのことを話しても本気にされなかった。子どものころから、主婦になるということを考えたことがない。営業職で働いていた時、先輩男性の妻が専業主婦で、自分と同世代の女性にそういう生き方（専業主婦）があると知り、愕然とした。
- （政府は）子ども2人生んでほしいと言っているわりに、働いてほしいと言う。生み時は20代だと思うが、20代に仕事をしないとその後働きにくい。

【年齢差別について】

- 40代になって、なんでこんなに生きにくいのかと漠然と思う。社会の目も、仕事の目も年齢差別を感じる。
- 正規職の採用も年齢制限で受けられない。
- お金を貯めてから大学に行ったため、卒業時に年をとって正社員になれなかった。正規雇用の年齢差別の根拠が知りたい。性差別が法的に禁止されていくなか、なぜ学歴差別、年齢差別がまだあるのか不思議。
- 派遣には35歳限界説がある。年齢制限と闘うのから逃げたくて、フリーになったともいえる。年齢の高い人に一から教えることの大変さはあるが、それは教え方の問題でもある。「20代が素直」という人には「それは、君の理想の女やろ」と言いたい。「女性」市場としても、「人材」市場としても年齢差別をかけられていると感じる。

【闘ってきた経験について】

- 雇止めにあった時、周囲からもう少し闘えばいいと言われたが、蓄えもなく、弁護士費用もない。昼間に裁判所に行ったら働けない。闘える人は、まだ余裕のある人だと言えると思う。
- 前は声をあげたりしていたが、疲れてしまった。声をあげても仕方がないという感じが強くある。上から変えてもらう方法はないのかなと思う。昔は、私なりに弱い力でがんばったが、結局、何も変わらない。「自分でなんとかせな」と思うが、うまくいかない。
- 理不尽なことがあった時に一人でも声をあげられる人はいいが、みんなと足並みをそろえたという人も多い。私自身、雇止めにあった時にユニオンに入ったが、同僚からは「私たちも辞めさせられるかも」と責められ、「違うよ」というところから説明した。

第3章 グループインタビューの結果

- 派遣会社と闘ったことで見えてきたこともある。直面しないとそのまま知らなかった。（踏んばることができる年齢で、会社と対する経験をしたことは）もしかしたらラッキーだったのかも。先に闘い方を知ることができたから。正社員は（契約更新などで）闘わなくてもいいというところがうらやましくもある。

（4）望むサポート

【社会の風潮や制度について】

- 求人の年齢差別を撤廃してほしい。
- 非正規職ほど不安定なのだから、待遇をよくしてほしい。
- 生活保護に対するスティグマをなくしたい。
- 生活保護の資力調査の見直しなど、使い勝手のよいしくみに変更して。
- 公営住宅に非正規職シングルの優先枠を設けてほしい。
- 病院、高齢者施設に入る際の保証人制度をつくってほしい。
- 非正規職をめぐる状況は問題として認識されていても、「結婚したら問題解決する」ということで見過ごされてきたところがある。結婚を前提とした制度になっていることがおかしい。

【具体的なサポートプログラムについて】

- 非正規職の人が正規職に転身するための支援。採用試験やエントリーシート、適性検査対策等で、実際に合格に達することができるような支援を無料でしてほしい。
- オンライン形式等、働きながら受けられる研修の仕組みを整えてほしい。
- 運転免許の費用を援助してほしい（ハローワークでの求人は多くが、高卒資格と運転免許必須）。
- 情報提供について。正社員なら必要な情報を会社が収集してくれるが、非正規職では情報と知識は自分で収集する必要がある。生きるすべ、知恵をつける必要がある。
- ジョブマッチング。短時間で働きたい人も多い一方で、人が足りないという声もたくさん聞く。そのバランスをとったマッチングを行政に行ってほしい。

【「つながる」必要について】

- 同じ経験をしている非正規職シングル女性の組織化。男女共同参画センターが組織化の役割を担ってほしい。
- 声をあげられない人もいるけど、まず声をあげないと、いないことにされている。
- 声をあげるために、仲間と出会うしくみと、客観的に自分を見る機会が必要。自分が置かれている状況を客観的に眺める機会さえないのが現状。この実情がおかしいということにも気づいていない。これが普通と思っている人も多いが、「普通ではない」とまず気づかないといけない。
- 非正規職シングル女性の貧困を解消するためのソーシャルアクションがしたい。

3 福岡（九州圏）

参加者6人のインタビュー結果は、次のとおりである。

（1）プロフィール

30代後半 パート	大卒後から非正規職。もともとからだが弱く、20代前半から精神的に不調。フルタイムだと自律神経不調、頭痛などで1ヵ月続かない。最近、パートで保険に加入。親の援助もいつまで受けられるか。
40代前半 嘱託職員	大卒後、バブル崩壊直後の超氷河期で、正規職にはつかなかった。コールセンターなどで働き、1年契約の3年任期や5年任期の仕事をしている。
40代後半 嘱託社員	社長秘書をしていたが、パワハラで精神的に不調となり辞職。残業代不払いで訴え。正社員にならないとあせり、さらに不調に。40歳過ぎて、正社員希望は捨て、また働きだした。
40代後半 契約社員	高卒後、大学進学を断念し、大学校を出て保育士となるも、3年で辞職。その後図書館で働きながら通信教育で大卒と司書資格を取得。正規の司書にはなれず嘱託・契約職でつなぎ20年、将来への展望が全く持てない。
50代前半 パート	父親が倒れ、介護のため仕事を辞めた。両親が不仲で、母親が父親の面倒をみなかった。現在、父親は入院。一人では生活できない母親と二人暮らし。1日5時間のパート。
50代前半 契約社員	大卒後、正社員で働いたが膨大な業務にからだを壊し、辞職した。その後、派遣などを経て、社会福祉関係の契約社員となったが、いつ契約を切られるか不安。結婚して子がいて当然と暗黙の差別がある。同居の親との衝突も。

（2）インタビュー参加の経路

6人のうち、福岡市内在住は3人、近隣市内在住が2人、他県からが1人であった。また、1人は、アンケート期間終了後にフェイスブック上で横浜事務局と連絡をとった者であった。

（3）現在感じている悩みや不安

【非正規職で働く者の不利・不安について】

- 契約社員なので打ち切られるのが不安。
- 働く日数を増やしても収入の安定にはつながらない。
- もう一つ仕事を増やすか、仕事を変えるか。現在、午後働いているので、午前の仕事を探すことになる。
- 「女性活用」といっても既婚者のこと。私たちを活用してほしい。
- キャリアアップできるステージが用意されていない。
- 5年勤続すると専門員の資格が取れるが、雇用契約が続くかどうかわからない。
- 非正規職で転々としているからマネジメントの経験がない。昇任しようにもできないことに気づいた。雇止め後、仕事をどう続けられるか。
- 休日のローテーションなど、子持ち女性が優遇されている。シングルにしわ寄せがくる。
- 職場の改善を何回か提案したところ、事務的な仕事から現場に回されたのが不満。
- ハローワークの窓口には、体調のことなど相談しにくい。
- ハローワークに行っても、心身の不調で働けないということを理解してもらえない。

第3章 グループインタビューの結果

【暮らしの不安や葛藤について】

- 親と同居してやっとの生活。賃貸なので親が死んだらホームレスと思っている。住居が心配。また不調になったら働けなくなる。
- 年金もあてにできない。妹夫婦には迷惑はかけられない。
- 健康面で、フルタイムで働けない。今は親から援助してもらっているが、いつまで続くかわからない。
- 実家にいるので親との衝突がある。親が亡くなったあと、今の実家を自分一人で保てるか不安。
- 実家にいると体調が悪化。親との葛藤がある。
- 経済的に厳しい。
- カツカツで一人暮らしをしている。貧乏を気づかれぬように。でもあまり削りすぎると病院に行くことになり、出費となるから、そうならない程度に。
- 老後のことは全然考えられない。1年先がどうなるかわからないから。
- あと3年とか5年とか、最期の時が見えればと思う。死んだほうがいいと思うときがある。明るく話しているけど、けっこう深刻。

【社会の中で】

- シングルなので、年齢的にも結婚して子どもがいて当然という暗黙の差別がある。
- マザーズ・ハローワークは行きづらい。
- 非正規職シングルにスポットが当たっていない。どうアクションすればいいのか。

（4）望むサポート

【働く上で】

- とりあえず時給を上げてほしい。そうしないと何も始まらない。
- 仕事のマッチング機関があれば。
- 労働者を大事にする企業の可視化を望む。

【暮らしについて】

- 月収20万円（程度は保障されること）。
- 家賃が高い。非正規職シングル女性を対象にした家賃補助がほしい。正社員にはあるのに、生活が苦しい非正規職にないのは逆。
- 公団・公営住宅に非正規職割引があれば。

【社会的対応、悩みの共有について】

- 女性活躍と言っているが、中高年の非正規職シングルの活躍も政策にあげてほしい。
- 悩みを共有できる場がほしい。
- 行政のサポートや、社会資源の情報がほしい。

（5）その他

- 資格を取って、海外で働きたい。
- 年金の7～8万円で暮らせる国に行きたい。

コラム ■声なき声を拾っていくこと

横浜のグループインタビューでは週に30時間以上働く派遣社員や契約社員が参加者に多く、パート・アルバイトの人が少なかった。また、回答者に一定の割合でみられた、体調がすぐれず、休み休み働いている女性たちからは直接声を聴くことができなかったのではないかな。

そう考え、横浜協会では3度目のグループインタビューとして平日夜間等の実施を計画し、パート・アルバイトの対象者に連絡をとった。しかし、メール返信があったのはたった一人で、実現しなかった。本人の了解を得て、返信の内容を紹介したい。

●グループインタビューに参加できなかった人から届いた声

「他の方からお返事がこなかったということ、残念でした。私はわかるような気がします。非正規でさらにパートの私は、日程が合わない時に、そのことを伝え、自分から意見を述べるエネルギーが少なかったり、自分の都合を伝えるのは申し訳ないと思ってしまうからです。私は常に自己責任論にとらわれています。でも、ご担当者がお返事は遅くなってもよいので、とそれを察してくださったことで、私は希望を持つことができました。

実は今、仕事のストレスから持病を再発し、休職しています。今お腹が痛いのですが、医者に行くか迷っています。お金がかかるからです。寝込んだり、治療機関に通ったり、資格の勉強をしています。私には今、努力に努力を重ねて生きてきて、なぜ自分は貧困に陥っているのか、無力感があります。古いネズミの出る自宅に暮らしていますが、ある福祉の方に相談したところ、自宅売却をしないことを強く叱責されました。私にとってはかけがえのない家です。妹が若くして亡くなった時に植えた桜の木があります。咲いたことはなく、いつか咲けばと待ち続けています。長く調律もできず音の狂ったピアノを弾くことが、わずかな慰めですが、アパートに移れば弾けなくなります。近所の方との長いつながりもあります。

今休職していることもあり、諸事情からも、自分を責めています。けれどどこかで、社会にこういう問題を訴え、理解してほしいと願っています。こうしたアンケートなどの活動に、希望を感じ、社会から見捨てられていないかもしれないと感ずることができました。どうかよろしくお願いいたします。」

実際に会って聴くことができない、こうした女性たちの声を拾っていく手立てはどこにあるのだろうか。それを考えていかななくてはならない。

第4章 調査結果の考察

第1節 ウェブアンケート調査結果の考察の視点

「非正規職シングル女性」といっても働き方や暮らし方は一人ひとり異なり、典型的なパターンがあるわけではない。その実像をとらえ、必要な社会的支援や事業を検討するためには、多角的な視点からの考察が必要である。

そこで、以下の4つに着目し、それぞれの視点からウェブアンケート調査結果の考察を行う。

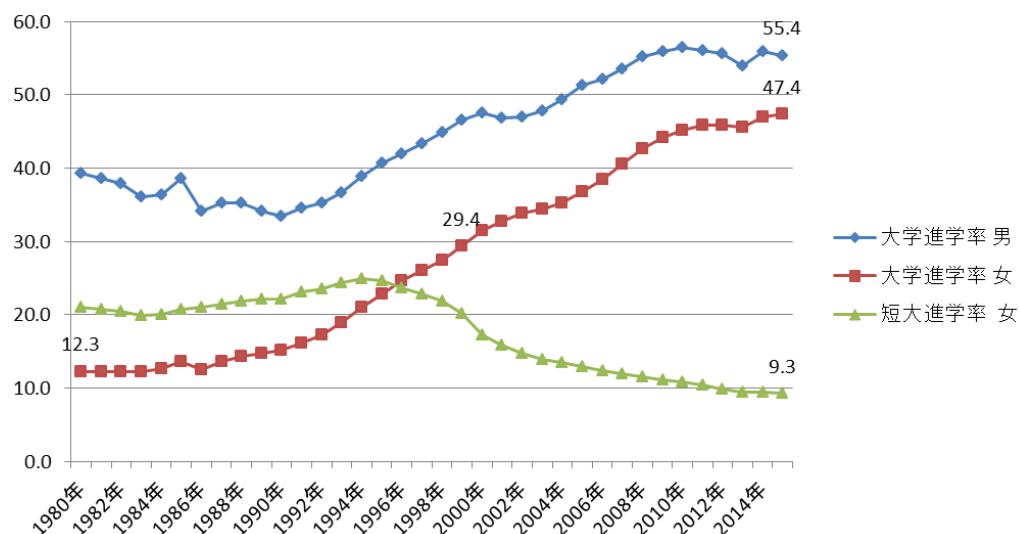
- 1 世代
- 2 就業形態（働き方）
- 3 暮らし方・生き方
- 4 所得

なお、これらの視点から考察する前に、本調査回答者が高学歴であったという特徴について述べたい。

本調査は、35～54歳の女性が対象であるが、回答者のうち「大学・大学院卒」は53.3%（大学中退を含めると54.0%）と半数を超え、学歴が高い傾向にあった。「大学・大学院卒」の割合を世代別にみると、「35～39歳」が59.1%と最も高いが、「45～54歳」でも47.9%と約半数である。

回答者のうち最も年齢の低い35歳（1980年生まれ）の人たちでは、高校卒業時（1999年）の女子の大学進学率は29.4%と3割弱にすぎない。また、回答者のうち最も年齢の高い54歳（1961年生まれ）の人の、高校卒業時（1980年）の女子の大学進学率は12.3%で、1割強程度である。これらと比べてみても、本調査の回答者は、高学歴層の割合が非常に高いといえる。

◆男女別 進学率の推移



出所：文部科学省「学校基本調査」

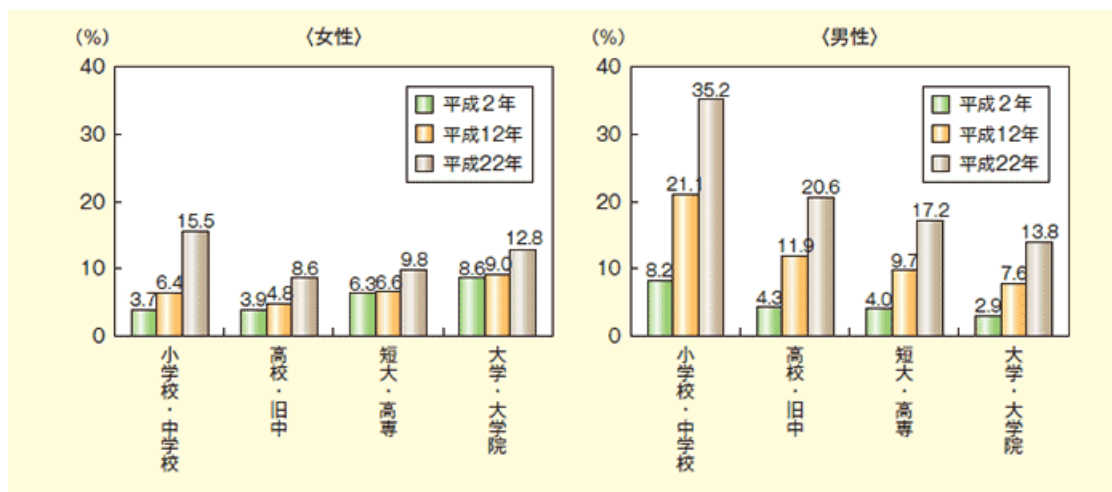
注：過年度高卒者等を含む。

このように回答者が高学歴に偏った理由としては、二つのことが考えられる。

一つ目は、本調査の回答者は、このような調査があるという情報にアクセスできる層であったということである。調査に限らず、さまざまな社会資源にアクセスすることができる人たちは、情報をキャッチすることに習熟している。「集計結果の見方」(P. 12)に記載したように、本調査は、予め対象者を層別に抽出して回答を集める調査とは異なり、告知によって調査を知った人に自主的な回答を期待するものであった。したがって、回答者はインターネット利用者や告知媒体のアプローチが及ぶ人に限られていた。このような理由から、学歴の高い回答者が多かったのではないかと考えられる。

もう一つの理由としては、本調査がシングル女性を対象としていたためではないかと推測される。下図に示すように、日本社会では、男性は高学歴であるほど未婚率が低く、女性は高学歴であるほど未婚率が高い⁹。本調査においても、回答者の婚姻歴をみると、婚姻歴「あり」が「中卒・高卒・高卒相当」で 25.6%、「短大・専門学校卒」で 24.1%、「大学・大学院卒」が 10.1%で、学歴が高くなるほど婚姻歴「あり」の割合も低くなっていた。大卒以上の学歴をもった女性たちは未婚率が高く、本調査は対象者を子のいないシングル女性に限定したがゆえに、高学歴の女性の割合が高まったのではないかと推測する。

◆教育別生涯未婚率



出所：内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書 平成25年度』第1-特-20図

⁹ 内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成25年度」。なお、平成22年（2010年）より、その傾向は薄れており、「小学校・中学校卒」の女性の生涯未婚率が上昇している。

第2節 着目した4つの視点

1 世代への着目

まず、世代に着目する。本調査では、35～44歳の非正規職シングル女性がさらに年齢を重ねたときの課題を想定するため、調査の対象年齢を前年度のヒアリング調査時より10歳引き上げ、35～54歳を対象とした。本調査の回答者は、「35～39歳」が33.7%、「40～44歳」が30.3%、「45～54歳」が36.0%とほぼ3分の1ずつであった。

それぞれを世代と捉えて、世代別に見えてくる特徴をまとめると、以下のとおりである。

●35～39歳（1976年～1980年生まれ）

- ・学歴は大卒以上が61.4%。他の世代と比べて、10ポイント以上高い。
- ・初職が非正規職だった者が7割で、他の世代との格差が大きい。
- ・主な家計収入として「家族の勤労収入」をあげた者が34.1%おり、他の世代よりも高い。親がまだ勤労世代であることが推測される。
- ・非正規職についている理由として「体力的に正社員として働けなかった」が25.0%で、他の世代よりも若干高い。
- ・悩みや不安については、「独身であること」が61.4%と他の世代より10ポイント以上高い。

●40～44歳（1971年～1975年生まれ）

- ・学歴は大卒以上が46.8%。他の世代より低い結果となった。また、高卒が16.5%と、他の世代の2倍以上。
- ・初職が正規雇用だった者は57.0%だった。
- ・経済的なゆとりについては、「まったくゆとりがない」が最多（43.0%）で、他の世代よりも10ポイント以上高い。

※上記以外は、「35～39歳」とほぼ同様な傾向がみられる。

●45～54歳（1961年～1970年生まれ）

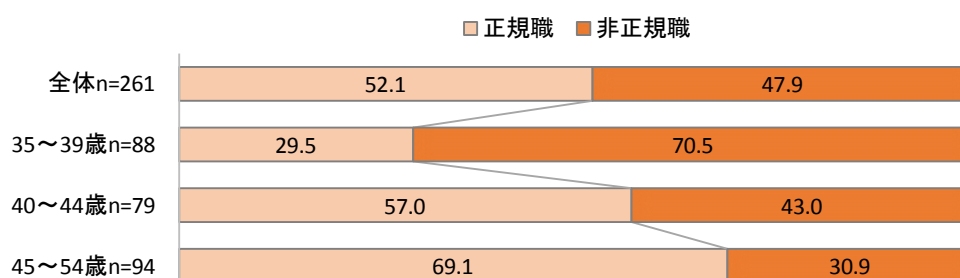
- ・学歴は大卒以上が50.0%と高い。大学院修了が11.7%と1割を超えている。
- ・初職は、7割が「正社員・正規職員」だった。
- ・婚姻経験「あり」が21.3%で、「35～39歳」の2倍だった。
- ・「介助・介護しなければならない人」がいる人は18.1%で、他の世代の2倍以上。
- ・年収は「150万円未満」が34.0%にのぼり、他の世代に比べて10ポイント高い。
- ・仕事のかけもちについて「している」が39.4%と、他の世代より10ポイント以上高い。
- ・週当たりの労働時間は「40時間以上」が41.5%と最も多く、他の世代より高い。
- ・時間的ゆとりについては、「まったくゆとりがない」、「あまりゆとりがない」が54.2%と、他の世代より高い。
- ・悩みや不安については「家族の世話・介護」が54.3%と「35～39歳」に比べて10ポイント近く高い。

以上から、次のことがいえる。

●年代が下がるほど、初職の非正規職割合が上がる・・・・・・・・・・・・・・・・

初職が非正規職であった者の割合は、年代が下がるほど高い。1990年代初めのバブル崩壊とそれに続く就職氷河期の影響が大きいと思われる。「35～39歳」の初職の就業形態は「パート・アルバイト」が30.7%で最も多く、「正社員・正規職員」の29.5%を上回っている。また、「45～54歳」で初職が非正規職の場合は、就業形態は「契約・嘱託」か「パート・アルバイト」に二分化されているのに対して、「35～39歳」では「パート・アルバイト」のほかに、「契約・嘱託」、「派遣社員」、「非常勤」がそれぞれ約1割ずつと、上の世代と比べて、初職の就業形態が多様化していることも特徴である。企業の中には非正規職への教育・訓練が行われない場合もあり、初職から非正規職の割合が高い「35歳～39歳」では、教育・訓練を受ける機会が少なかったことが推測される。

◆年齢別にみた「初職の就業形態」



※非正規職は、項目を統合している。

●「35～39歳」では、正社員は体力的な負担が大きいととらえている・・・・・・・・

どの世代においても「非正規職についている理由 (Q. 27)」は、「正社員として働ける会社があったから」が約6割で第1位であったが、第2位以下が世代で異なっている。「35～39歳」の理由の第2位は「体力的に正社員として働けなかったから」(25.0%)であるのに対して、「40～44歳」と「45～54歳」では「専門的な資格・技能を活かせるから」(それぞれ24.1%、30.9%)が第2位であった。

一般的に、体力についての問題は、加齢にしたがって生じると思われるが、年代が下がるにつれ「体力的に正社員として働けなかった」と回答した者の割合が高くなっているのである。これは、若い世代の体力が低下しているのではなく、それだけ正社員の働き方が過酷になっているといえるのではないか。若い世代にとって正社員で働くことは、長時間労働や過剰なコミットメントを求められ、体力的な負担が大きいととらえられているとも考えられる。

●年代が上がるほど、労働時間は増加、年収は低下、介護負担は増化、時間的ゆとりがない

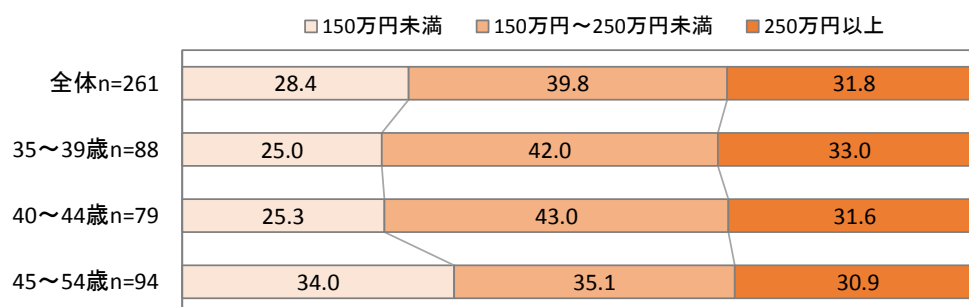
年代が上がるほど、年収が下がる傾向がみられる。年収「150万円未満」の者は「35～39歳」、「40～44歳」では25%前後と4人に1人であるのに対し、「45～54歳」では「150万円未満」が34.0%と3人に1人となる。一方、週当たりの労働時間をみると、「45～54歳」では「40時間以上」が41.5%と最多で、「30～40時間未満」が最多である「35～39歳」、「40～44歳」よりも長時間働いている。さらに、仕事のかけもちをしている者が「45～54歳」では39.4%にのぼり、「35～39歳」23.9%、「40～44歳」27.8%より10ポイント以上高い。

また、世代が上がるほど、「介助・介護をしなければならない人(要援護者)がいる」者が増える。要援護者がある者は「35～39歳」6.8%、「40～44歳」7.6%であるのに対して、「45～54歳」

第4章 調査結果の考察

歳」では18.1%にのぼり、親などの介護が始まっていることが推測される。そのためか、時間的ゆとりについて「まったくゆとりがない」、「あまりゆとりがない」が54.2%と他の世代より高い。「不安や悩み」についても「家族の世話・介護」が54.3%と他の世代より高くなっている。

◆世代別にみた「自分の税込年収」の分布

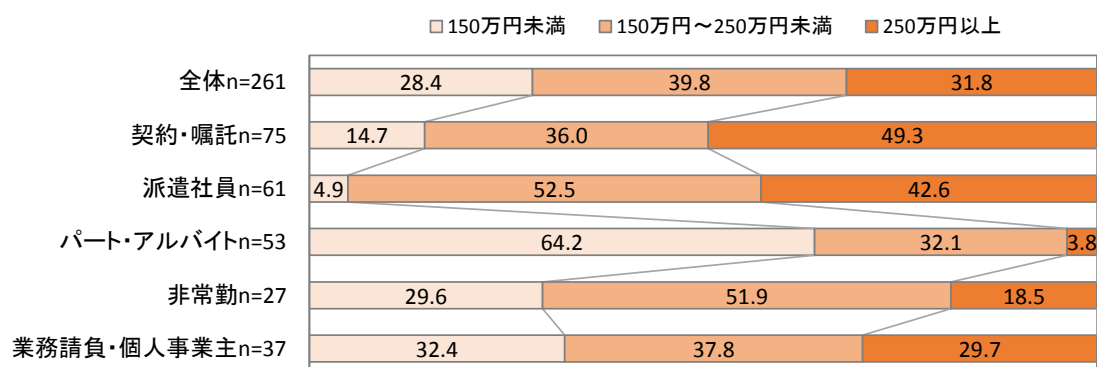


2 就業形態（働き方）への着目

全体の52.1%が初職は正規雇用であったが、その後非正規職としてさまざまな就業形態に移って働いている（P. 45）。グループインタビューでは、転職するほど派遣・アルバイト・時給制契約社員・請負など雇用が不安定で収入は低くなる、など条件が下がる傾向がみてとれた。

回答者の現在の就業形態でみると、それぞれの特徴は以下のとおりである。ここでは、特徴が顕著な就業形態から述べている。

◆現在の就業形態別にみた「自分の税込年収」の分布



●パート・アルバイト ～3人に2人が年収150万円未満の低収入・・・・・・・・・・

- ・回答者53人中の64.2%が年収「150万円未満」であり、他の就業形態に比べて低収入の者の割合がとくに高い。
- ・職種では「接客・販売」が30.2%と第1位。
- ・住居費負担では「家族が全額負担の持ち家」に住む人が41.5%と第1位。家計収入では「自分の勤労収入」と「家族の年金」の両方をあげた人が多く、家族への依存度が高いとみられる。

- ・家族と同居している割合が他の就業形態より10ポイント以上高く、そのことが「親・家族との関係」についての悩みに関連していると思われ、2人に1人は「親・家族との関係」に悩んでいる。
- ・3人に1人が仕事のかけもちを「している」。
- ・週あたり労働時間では4人に1人が「20～30時間未満」と比較的短い（第1位は「30～40時間未満」で30.2%）。「もっと働きたいのに人件費節約のため短くされている」という記述もあった。
- ・4人に1人が「ローン・負債」に悩んでいる。
- ・3人に1人が初職から「パート・アルバイト」であった。
- ・4人に3人が「健康」問題に悩んでいる。非正規職についている理由は、「正社員として働ける会社がなかったから」が54.7%で第1位ではあるが、第2位の「体力的に正社員として働けなかったから」が52.8%と大差ない。
- ・「正社員になりたい」望みは（他の就業形態では「収入増」に次いで第2位であるのに対し）第5位と低く、「結婚したい」と大差がない。第2位は「ゆっくりペースで働きたい」であった。
- ・利用したいサポートは「心身がリフレッシュできる場」が54.7%で第1位なのが特徴的。第2位は「職業訓練・資格取得支援」（50.9%）で、仕事に関する悩みで「教育・研修がない」（34.0%）が、派遣社員と同程度高かったことと一致する。
- ・自由記述には「通院費用が出せない」、「疲れはてて気力が出ない」などが散見された。

●派遣社員 ～悩みは「雇用継続の不安」・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・回答者61人中の77.0%が「首都圏」に集中。
- ・職種では「事務職」が68.9%で第1位。
- ・週あたり労働時間では「30～40時間未満」が45.9%、「40時間以上」が47.5%。
- ・収入は「200～250万円未満」が39.3%で、「250～300万円未満」が19.7%。
- ・「悩みや不安」では「仕事」の回答が第1位（他の就業形態ではほぼ「老後の生活」が1位）。61人中60人が「仕事の悩み」についての自由記述を記入。
- ・仕事の悩みは「雇用継続の不安」が77.0%で第1位。「収入が少ない」より高いのが特徴。
- ・雇用契約期間は「1～3ヵ月未満」が24.6%。「3～6ヵ月未満」の37.7%と合わせると契約期間が6ヵ月未満の者が6割を超え、他の就業形態より短い。「相談相手がいない」が37.7%と高く、孤立していることがうかがわれる。
- ・利用したいサポートでは約半数が「職業訓練・資格取得支援」（50.8%）、「仕事に必要なスキルアップの場」（47.5%）と答えた。仕事に関する悩みで「教育・研修がない」（32.8%）、自由記述で「研修機会がない」悩みが少なくなかったことと一致する。
- ・自由記述にはほかに「交通費が出ない」悩み、2015年の「派遣法改正で上限3年しか同じ職場にいられない」不安がそれぞれ何件か記されていた。前者の悩みには、そのために職場から離れたところに住めない、比較的家賃の高い地域に住むことになる負担もあげられた。

第4章 調査結果の考察

●契約・嘱託 ～6割弱が“時間的なゆとりがない”・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・回答者数では「契約・嘱託」が75人の最多であった。
- ・職種では「事務職」が58.7%で第1位。
- ・週あたり労働時間では「40時間以上」が56%と過半数。
- ・収入は「200～250万円未満」が25.3%で、次に「250～300万円未満」と「300～350万円未満」がいずれも17.3%であり、非正規職の中では比較的高い方に分布。
- ・“時間的なゆとりがない”と答えた人が58.6%にのぼり、他の就業形態の者に比して高い。
- ・「正社員と同等の働きをしながら給料は半分」、「賞与も昇給もない」、「残業代が出ない」、「仕事の責任が重い」という自由記述が多い。
- ・利用したいサポートでは4割が「企業や仕事とのマッチングの場」(40.0%)、「仕事に必要なスキルアップの場」(38.7%)と答えた。
- ・自由記述やグループインタビューでは「時給」についての言及が多々みられ、契約社員といえどもさまざまな条件が混在していることがわかった。

●非常勤 ～仕事のかけもちをしている人が6割・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・回答者27人の学歴は、大学院修了の人が4割を超える。
- ・職種では「教育職」が48.1%で第1位。
- ・仕事のかけもちを「している」人が59.3%で過半数に上る。
- ・週あたり労働時間では「30～40時間未満」が48.1%と最多。
- ・収入は「200～250万円未満」が33.3%、次いで「100～150万円未満」、「150～200万円未満」がいずれも18.5%で、比較的下方に分布している。

●業務請負等 ～専門・技術職が6割・・・・・・・・・・・・・・・・

- ・回答者37人の職種では「専門・技術職」が59.5%で第1位。
- ・就業に際し「利用した支援機関はない」が45.9%で第1位。
- ・非正規職についている理由は「専門的な資格・技能を活かせるから」が54.1%で第1位。
「組織や人間関係にしばられたくなかったから」も40.5%で第2位である。
- ・利用したいサポートで「住まいの支援」をあげた人が37.8%で第1位。

3 暮らし方・生き方への着目

●住まいについて・・・・・・・・・・・・・・・・

年収「150万円未満」では、6割(60.8%)で家族等同居者が住居費を全額負担しており、ほかの年収区分より住居費を全く負担していない比率が25～40ポイント高い。就業形態別では「パート・アルバイト」で、「持ち家(家族が全額負担)」に住む人が41.5%と最多。これらの層では、住まいにおける家族への依存度が高い。自由記述からみえる住まいへの不安を以下にあげる。

- URの賃貸住宅に住んでいて環境も気に入っているが、団地の統廃合で住めなくなることが不安。(38歳)
- UR賃貸住宅で独身者が借りられる物件が少なく、差別を感じる。(42歳)
- 安アパートなので隣近所に筒抜け。引っ越すにも賃貸だと保証人や収入審査が厳しい。(43歳)

●同居の状況や家族の世話・介護について・・・・・・・・・・・・・・・・

「一人暮らし」は47.9%。同居者としては「母」が40.2%、「父」は28.0%で、同居している人の中では母との同居が最も多い。

要援護者がいる人は全体の1割みられる(11.1%)。属性別では「45～54歳」で18.1%、年収「150万円未満」で16.2%と、要援護者のいる者の比率が高い。「一人暮らし」で要援護者がいる者の比率は9.6%と、「同居者がいる」の12.5%と大きな差はない。

実に2人に1人が現在の悩みや不安として「家族の介護・世話」をあげている。養育する子のないシングルの娘は、親の介護を担うのが当然とされやすく、そのために職を失ったとの声や、将来的に発生するであろう親の介護による離職と生活困難を不安視する切実な声が多い。派遣社員や契約社員、パートなどで働きながら、税金や保険料も納めて、社会に貢献しているにもかかわらず、介護休暇など正社員なら享受できる権利をもたないか、不安定雇用ゆえに制度があっても利用しづらい状況がみてとれた。以下は、家族の世話や介護についての自由記述である。

- 親が離婚している。からだが弱くて一人暮らしの母の将来的な介護が不安。(40歳)
- 母の介護のとき、正社員で介護休暇のある姉の出産と重なり、介護休暇もない自分が介護を担った。その大変さを姉には理解してもらえない。(42歳)
- 両親サポートのため東京を離れることになり、派遣を離職。交通費(不支給)のため、地方からの通勤は無理。自分も婦人科手術のため、しばらく働けず。現在無収入で親の年金と貯金で生活。きょうだいも親戚づきあいもなく、両親が亡くなったら不安のみ。(43歳)
- 現在両親の介護中で、私自身もがんサバイバー。負債やローン等に困窮し、両親の年金、きょうだいの援助で生活している。両親亡きあとは即貧困になる。(49歳)
- 母が認知症初期で、他県で一人暮らし。昔の確執もあるので、しかるべき時には施設に入ってもらいたい。(50歳)

●経済的なゆとり感と生活満足度の低さ・・・・・・・・・・・・・・・・

「国民生活に関する世論調査」(2015年)では、30～49歳の女性で“時間的なゆとりがない”と回答した者は約5割と、本調査の非正規職シングル女性の平均と同程度であった。しかし同調査では、同世代の女性(30～49歳)の約7割が「所得・収入」に対して“満足”と回答したのに比し、本調査では経済的な“ゆとりがない”と回答した者の割合は8割にのぼった。生活満足度においても、同調査の同世代女性の約7割が“満足”と回答しているのに比べ、本調査対象者では“満足”は約25%と著しく低く、“不満”が約7割にのぼる。これらの結果は、同性間にも大きな格差がある状況を物語っているといえよう。

- 派遣を転々としたり、スポットでイベントの仕事をしたり、借金をしながら食いつないで生きている。学歴がないのでまっとうな仕事につけず、派遣先で正社員より働いても給料は安い。そして増えゆく借金。もうどうしたらいいかわからない。(39歳)
- 外資系金融機関で、契約社員と派遣社員を行ったり来たりして働く。今や雇用契約は2ヵ月以上なら長期。給料は一般事務職よりよいが、度々の失業で貯金はできない。(42歳)
- 大学・大学院で貸与されていた奨学金の返済のほか、健康保険や年金、家賃、各種保険、光熱費と食費に収入の大半が使われてしまい、老後のための貯蓄は難しい。親が病気時には親の世話などでますます生活が苦しくなる。このままだと老後は生活保護。(46歳)

●健康課題を抱えながら働く状況・・・・・・・・・・・・・・・・

悩みや不安については、「仕事」、「老後の生活」を8割以上が、「健康」を約6割があげている。「健康」をあげた層を属性別にみると、年収「150万円未満」、「パート・アルバイト」が7割前後と高く、健康課題が示唆される。自由記述からの健康不安を以下に抽出する。

- 摂食障害をかかえながら働いており、いつまでもつのか考えるときがある。(35歳)
- 健康を害したが、難病指定もなく、自費なので厳しい。(49歳)
- 健康に不安があるため、仕事を失う→仕事につけない→両親の介護がのしかかってくる→老後の生活不安、という負のスパイラルに陥るのではないかと悩んでいる。(47歳)
- 家族と自分の健康が一番気がかり。家族、自分のどちらが倒れても今の生活が成り立たなくなる。非正規職のため、病気になっても休職することができず不安。(50歳)

●老後の生活について・・・・・・・・・・・・・・・・

本調査の回答者の3割は、年収「150万円未満」で、家族の勤労収入や年金収入を家計収入に繰り入れて暮らしている。自身の雇用の不安定さに加え、将来的に両親等、家族を失うことによる家計の減収や蓄えのなさから、老後への不安感是非常に高い。悩みや不安についての設問では、8割以上が「老後の生活」をあげている。以下は、自由記述からの抽出である。

- 退職金もボーナスもない。将来生きていくのであれば生活保護しかないと思う。安楽死施設を開設してほしい。(35歳)
- パート職で体調を崩し、週2、3日しか働けない。生活は困窮。資格取得をめざして勉強中だが、一人で老後まで生活をしていけるのか。(44歳)
- 老後、年金だけでは施設に入ることも不可能。自分は孤独死するだろう。(44歳)
- 親の死後孤独になること。公務員だった母の年金収入が途絶えることによる生活の不安。(51歳)

●「独身」で「子を持たないこと」について・・・・・・・・

「35～39歳」では、悩みや不安に「独身であること」と回答した者が6割あった。自由記述からも、女性でシングル、かつ子どもがいないことで、社会から心理的な圧迫を受け、生きづらさを感じているとの声が数多くあがった。“女性の活躍推進”という政策の下、子を生み、働いて管理職になるような女性モデルが脚光を浴びている。非正規職でシングルで働き続けている女性たちの存在はみえづらく、低所得であっても利用できる控除制度や住まいなどへの支援策はない。また、シングルで非正規職として働いていることに対して「努力が足りない」、「自己責任」などと言われ、傷つきの体験をもつ状況も浮かびあがった。

- 既婚者や子育て世帯にはいろいろな支援や控除があるが、独身者にはなく、厳しい。結婚や子どもの有無は個人の自由であり、そのことで生きづらくなるのはおかしい。生涯独身の人もこれから増えるのでは。社会や政治にそうした視点を。(35歳)
- シングルの人にもっとやさしい社会であってほしい。(36歳)
- 独身、子なしだと非国民と思われる。国も生まないのが問題だという。(37歳)
- 体調不良で救急搬送された際、付き添いがないことを理由に受け入れを断る病院が多かった。独身女性は病院にもいやがられる。お金で解決できないのはつらい。(42歳)
- 中年以上の非正規職独身女性に壁となっているのは「金と時間と自由がある」、「自ら選んでいる」、「親が裕福」などの世間の偏見と企業の体質。見ぬふりをしてきた国と行政。このアンケートが実施されて、メディアを使い、拡散してもらうだけでも第一歩。(42歳)
- 多様な働き方を認める社会をめざすなら、家族単位ではなく一個人としてシングル女性にも社会での居場所を認めてほしい。メディアでももっと現状を把握して、女性といえども子どもを生み、仕事もして社会も支援しているといったきれいごとばかりを報道しないでほしい。(44歳)

4 所得への着目

●7割は週30時間以上働くも、年収250万円未満が7割・・・・・・・・・・・・・・・・

本人の勤労収入は「150万円未満」が28.4%、「150万円以上250万円未満」が39.9%、「250万円以上」が31.8%で、年収250万円未満が7割に上った(68.2%)。一方で、労働時間数は、週30時間以上働く者が7割強、「40時間以上」働く者も4割弱と、フルタイム勤務者は少ない。年収は、学歴が高いほど高い傾向がみられ、年代が上がるほど低い。「中卒・高卒・高卒相当」で「250万円以上」は2割(20.5%)だが、「大卒・大学院卒」では3割を超える(35.3%)。また、全体では年収「150万円未満」は3割弱であるが、「35～39歳」では4人に1人(25%)、「45～54歳」では3人に1人(34%)の割合で、「150万円未満」であった。

「国民生活基礎調査」(2013年)では、2012年の相対的貧困率の貧困線を122万円としている。本調査の回答者のうち、自身の税込年収100万円未満は15.3%、「150万円未満」は28.4%と、非正規職シングル女性の困窮状態が浮き彫りになった。

●就業形態と職種により、所得差がある・・・・・・・・・・・・・・・・

就業形態別では、「契約・嘱託」で「250万円以上」が半数(49.3%)と最も多いが、「派遣社員」、「非常勤」では「150万円以上250万円未満」がそれぞれ5割を超えて最多である(順に、52.5%、51.9%)。「業務請負・個人事業主」では「150万円以上250万円未満」が37.8%と最も多く、「パート・アルバイト」では「150万円未満」が6割以上(64.2%)を占める。

職種は「事務職」が最多で、全体の4割以上(44.4%)を占め、次いで「専門・技術職」(24.1%)が多い。この二つの職種で年収「250万円以上」の約9割(86.7%)を占める。就業形態との関係では、「事務職」は「派遣社員」(68.9%)、「契約・嘱託」(58.7%)に多く、「専門・技術職」は「業務請負・個人事業主」(59.5%)に多い。

●「同居者あり」は「一人暮らし」より年収が少ない・・・・・・・・・・・・・・・・

回答者の半数の47.9%が「一人暮らし」。「一人暮らし」の比率は、自身の税込年収が高いほど、また、年代が上がるほど高い。最終学歴別には「短大・専門学校卒」で「一人暮らし」が5割を超えるが(55.4%)、「大学・大学院卒」では、43.2%と他の世代より低く、学歴との相関関係はみられなかった。「一人暮らし」の2割は年収「150万円未満」で、「家族の勤労収入」や「家族の年金」、失業保険や生活保護など、「その他」収入を家計収入として暮らしている。

就業形態別には「派遣社員」で「一人暮らし」の比率が54.1%と最も高く、「パート・アルバイト」で35.8%と最も低かった。

「同居者あり」では、家族が住居費を全額負担している比率が63.2%と高いが、「一人暮らし」では、84.8%が住居費を全額自己負担している。

●仕事のかけもち「している」は、3割・・・・・・・・・・・・・・・・

仕事のかけもちを「している」のは、全体の3割に上り(30.7%)、とくに「非常勤」で仕事のかけもちをしている比率が6割(59.3%)と高い。

属性別では、年代が上がるほど、年収が高いほど、また同居状況別には「一人暮らし」で、かけもちをしている割合が高くなる。

●年代が上がるほど労働時間数は多く、年収は少ない・・・・・・・・・・・・・・・・

7割が年収250万円未満であるにもかかわらず、「週30時間以上」働く人は7割を超えている(73.2%)。最多は、週当たりの労働時間数「40時間以上」で、全体の約4割を占める(37.5%)。

年代が上がるほど労働時間数が多く、「45～54歳」では4割強が「40時間以上」働いている。また年収が多いほど、「40時間以上」働く人の割合は高くなり、「250万円以上」では6割(63.9%)が「40時間以上」働く。しかし、「45～54歳」は、他の世代よりも労働時間が長いにもかかわらず、年収は少なくなり、年収「150万円未満」の割合が10ポイント以上高い。

●「パート・アルバイト」の家計は、家族頼み・・・・・・・・・・・・・・・・

「パート・アルバイト」の5割近く(45.3%)は週の労働時間数が30時間未満で、短時間働く人の割合が他の就業形態より15～40ポイント高い。また、「家族の年金」や「家族の勤労収入」を家計収入としている割合がどの就業形態よりも高く、8割近い(77.3%)。「パート・アルバイト」は、失業保険、障害年金、生活保護、傷病手当等の「その他」収入を家計収入にしている割合も他の就業形態に比べ若干高く、1割(9.4%)に上る。住まいについては、「パート・アルバイト」の5割強は(「持ち家(家族が全額負担)」(41.5%)、「賃貸(家族が全額負担)」11.3%)、住居費を負担しておらず、他の就業形態と比べて、住居費を家族に頼っている割合が高い。

これらのことから、年収「150万円未満」や「パート・アルバイト」層では、親など同居者が高齢化して亡くなった場合、住居費等の支払い不能による住まいの喪失や生活困窮に陥る可能性が示唆される。



第3節 グループインタビュー結果の考察

1 “グループ”の効果とフェミニスト・アクション・リサーチ

「言わな、はじまらへん!」というキーワードが大阪の調査者から、本調査の横浜報告会(2016年2月)で、報告された。その意味は「非正規職で働くシングルの女性は社会にいないことにされている。そのなかで自分の状況を客観視し、しんどいこともネタにして、まわりに伝えていく。まずは声をあげられる人があげていくことで、変わっていく」ということだった。

グループインタビューへの参加動機として、このことは各地で共通して語られていた。

「現状をわかってもらっていないので、直接声を届けたいと思った」、「もっとこの問題に陽があたってほしい」、「いろいろ話すことで、今後どのようなサポートが必要かを考えたい。今日も他の人の話を聞いてうなずくことが多かった」(横浜)

「ワークシェアをすとか、働き方を変えなければと思う。役に立てればと参加した」、「社会的にとりあげられていないと感じていたので参加した」(大阪)

「非正規職シングルにスポットが当たっていない。どうアクションすればいいのか」、「“女性活躍”というなら、私たちの活躍も政策にあげてほしい」(福岡)

等々。

「フェミニスト・アクション・リサーチ」という調査手法がある。これは、女性が自らの意思で調査に参加し、女性にとって重要な問題にかかわる制度・システムや人々の意識等を変革していくことを目的とした調査法とされ、その過程で一人ひとりがエンパワメントされていくものである¹⁰。今回、グループインタビューを終えて、「この調査があること自体に勇気づけられた」という声を何人からも聴いた。さらに「このような場でいろいろ話すことで、今後どのようなサポートが必要かを考えたい」と、同じ立場の人たちの中でわき出てくるかのように、多様な声を聴き取ることができた。これらは、“グループ”という場をセッティングしたことによる効果であると同時に、フェミニスト・アクション・リサーチの効果であると考えられた。

2 からみあう課題と、性別役割分業による弊害

調査者は、グループインタビューに参加した女性たちから、当事者一人ひとりのライフヒストリーの一部やリアルな悩みを聴き取った。さらに、社会的支援に向けた考えやサポートへのアイデアをつぶさに聴くことができた。

その中でもとくに、ウェブアンケートではなく、対面で生の声を聴けたからこそわかったことは、主に以下の点であった。いずれも数値化されづらい事象であり、からみあう生活課題・社会課題等である。

¹⁰ 1990年代、ドメスティック・バイオレンスの問題が社会化されていくときに被害女性へのインタビューが継続的に行われた。このほか、近年では東日本大震災で被災した女性たちが写真を撮ってグループで語り合う「フォトボイス」という活動が行われている。

●性別役割分業により女性のみにかかる負担・・・・・・・・・・・・・・・・

～「独身で末っ子（娘）だと介護を担わされる」

「男兄弟が2人いるが仕事をしているので、自分（娘）が仕事を辞めて親の介護をすることになるだろう」

●女性と年齢差別・・・・・・・・・・・・・・・・

～「40代女性の仕事は家計補助とされているのか、まずフルタイムの募集が少ない」

「年齢的にも結婚して子どもがいて当然という暗黙の差別がある。マザーズ・ハローワークは行きづらい」

●負のスパイラル・・・・・・・・・・・・・・・・

～「健康、仕事、住まいの心配はつながっている。自分の老後も親の老後も不安」

「経験値が積み上がらず、求人への応募もできない。精神的に不調になっても休める期間が短い。また3年契約で、雇用を切られてしまう不安から体調が悪くても休みづらい」

「民間の保険に入れないので、重病になったら治療費が支払えない。住まいは、家賃が値上げされたら払えない。転居するにも親が高齢で保証人になれるのか？ 次の仕事があるのか？ 今後親の介護が始まったら自分が戻って介護すべきなのか？ 介護しながら収入を得られるのか？ 実家に帰って、結婚した方がいいと言われたが、地元には仕事があるのか？」

これらからわかったのは、性別役割分業によって女性であるがゆえの差別を受けている状況である。さらに、生活課題や社会課題がからみあってより重層化し、負担を余儀なくされていることも明らかになった。

3 課題解決のために「つながる」「声をあげる」必要

このような困難な状況にありながらも、解決のためには「つながる」、「声をあげる」必要があることが、とくに大阪のグループインタビューでは強く語られた。

「同じ経験をしている非正規職シングル女性の組織化に男女共同参画センターが役割を担ってほしい」

「声をあげるために、仲間と出会うしくみと、客観的に自分を見つめる機会が必要。この実情が普通ではない、とまず気づかないといけない」

「非正規職シングル女性の貧困を解消するためのソーシャルアクションがしたい」

等々の声は、示唆的であった。

コラム ■あらゆる手立てを考え、取り組んでいきたい

「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査 大阪報告会」を受けて

一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会

2016年2月27日、クレオ大阪中央で行われた報告会では、植野ルナ(横浜市男女共同参画推進協会)、邊見倫子(大阪市男女共同参画のまち創生協会)それぞれから、調査の趣旨やグループインタビュー結果等について報告した。その後、ゲストの栗田隆子さん(働く女性の全国センター代表)に「『フリーター女子』そして『シングル非正規女性』～近い過去から考える～」と題してお話しいただいた。

その後、「非正規で働くシングル女性支援プログラム」について考える」と題したディスカッションでは、

- ①今回、「シングル女性」に着目したことについて、
- ②働き方、働くということについて、
- ③支援に向けて何ができるか、という3点について話し合った。

③について植野からは「対象を明確に打ち出して調査すること自体が当事者のエンパワメントになる」ということ、邊見からは「集まる場をつくること、そして集めた声を発信していく」こと、栗田さんからは「連携をするということは、一人が何もかもするわけではない。世の中に声を発信するとはどういうことか。新聞の取材の受け方、テレビへの出方など、“声をあげる講座”といった授業も欲しい」という話も飛び出し、ディスカッションは終了した。

終了後のアンケートには、「自身が働く地域でもこの調査を実施したい」、「地方の声もとってほしい」といった声があがるなど、調査の拡がりに対する期待が寄せられた。また、「市議会議員等を招へいし、セッションを開催してほしい」という意見など、社会的な働きかけの手法についての意見もあった。

講演の中で栗田さんから、「支援とは、孤立している人に『あなただけではない』とわかってもらう“あらゆる手立て”ではないか」という発言があった。今回の調査報告会をきっかけに、皆の知恵を集めて、“あらゆる手立て”を考え、取り組んでいきたい。

.....

※横浜報告会(2016年2月6日、男女共同参画センター横浜で開催)については以下に報告を掲載。

<http://www.women.city.yokohama.jp/about/blog/3981.php>

第4節 調査結果考察のまとめ

ウェブアンケート、グループインタビューの結果から、主に次のことが明らかになった。

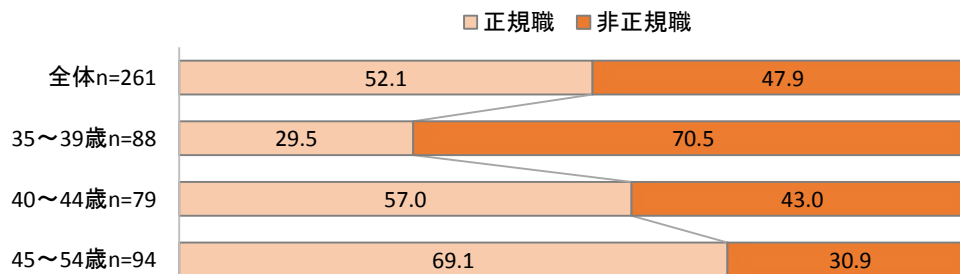
（１）６割が“不本意非正規”

非正規職についている理由は「正社員として働ける会社がなかったから」が61.7%で、「労働力調査（詳細集計）」（2014年）における女性の“不本意非正規”（13.6%）の5倍近い。同調査は単数回答、本調査は複数回答と単純比較はできないものの、女性の非正規労働者は、積極的に非正規労働を選択しているという他調査にみられる解釈とは相反する結果となった。“不本意非正規”が6割と高いのは、本調査が調査対象者をシングル女性に限定したためと考えられる。また、実数でみると、男性の“不本意非正規”が160万人であるのに対し、女性の“不本意非正規”は171万人にものぼる。つまり、不本意非正規労働者の半数以上は女性だということがわかる。非正規労働者の7割が女性という現状からすれば、この数字は当然のことといえる。しかし、男性を上回る数の女性の非正規労働者が“不本意非正規”である事実は知られていない。

（２）「35～39歳」の7割が“初職から非正規”

「35～39歳」では初職から非正規職が70.5%と高く、「45～54歳」の30.9%と割合が逆転し、世代間格差が顕著であった。

◆世代別にみた「初職の就業形態」



※非正規職は、項目を統合している。

（３）３割が年収「150万円未満」で、年代が上がるほど年収は低下

7割が年収250万円未満であった。そのうち、7割強は週30時間以上働いていた。

また、全体の3割（28.3%）が年収「150万円未満」であるが、年代が上がるほど年収は下がり、「35～39歳」では4人に1人（25%）が、「45～54歳」では、3人に1人（34%）が「150万円未満」であった。

（４）二大困難は“低収入”と“雇用継続”

仕事に対する悩みや不安で最も多かったのは「収入が少ない」82.4%、二番目は「雇用継続（解雇・雇止め）の不安」59.4%であった。週当たりの労働時間は30時間以上が7割を超え、「40時間以上」も4割弱あった。「フルタイムで働き、責任や業務負担が大きくても、給料は正社員

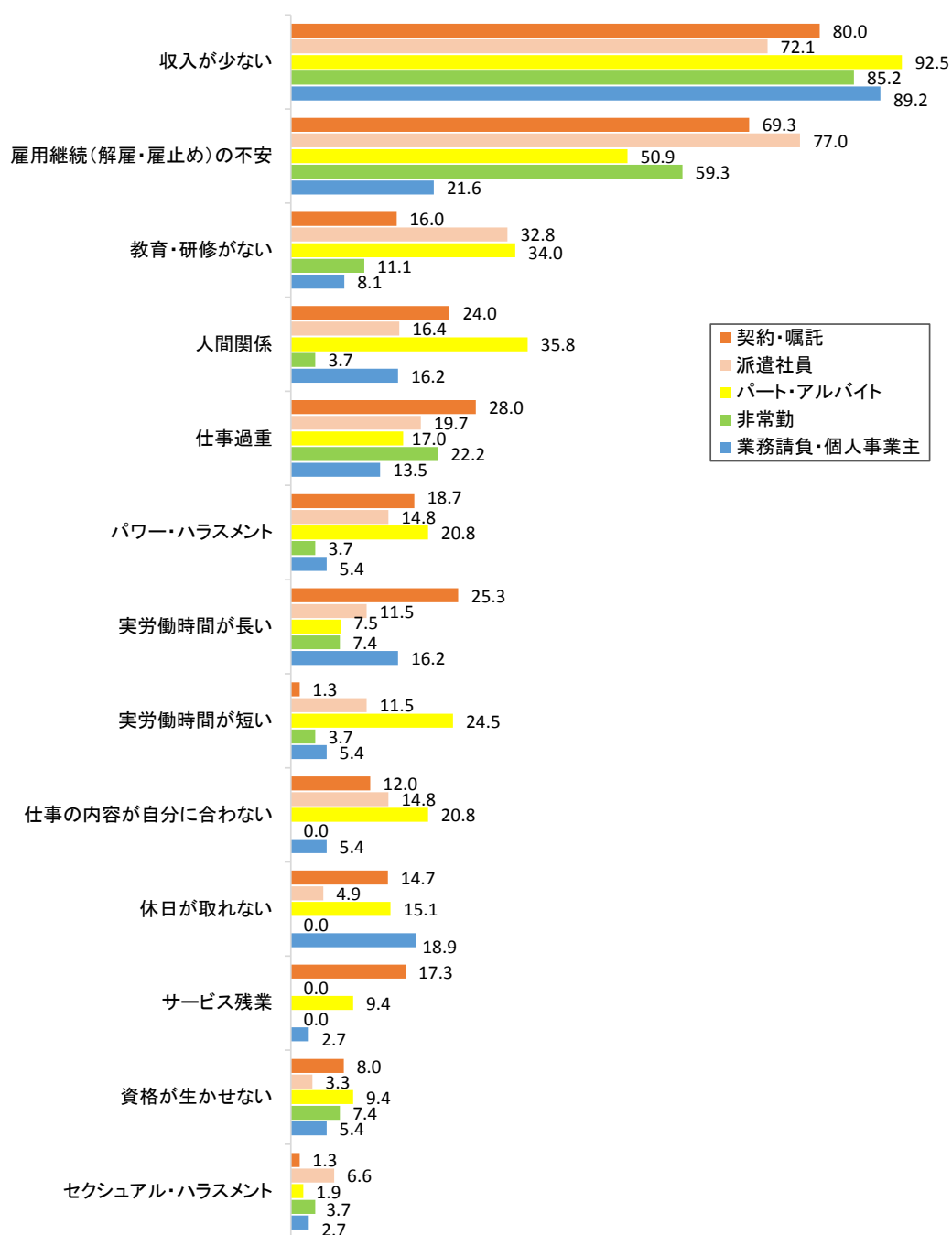
の半分以上」、「昇給も賞与も退職金もなく、貯金ができない」などの記述が多かった。将来の生計の見通しの暗さから、「死んだほうがいい」といった記述も複数あった。

医療にかかる時間と費用は、社会保険料を払っていてもねん出しづらく、仕事を休むと収入が減り雇用継続できない可能性が高まるため、いっそう医療にかかりづらいとの声が聞かれた。

また、仕事への不安や悩みでは、「教育・研修がない」との回答が全体で2割あり、中でも「派遣社員」、「パート・アルバイト」で3割を超える。収入アップや雇用継続のために資格取得を検討するも、職場外での費用と時間のねん出の難しさ、職業訓練制度等のハードルの高さを訴える声が複数あった。

◆仕事に関する悩みや不安【就業形態別】(MA) ※ただし「その他」「特になし」を除く

n=261
(単位: %)



（５）“非正規職” シングル女性がかかえる困難の多様さ

“低収入”と“雇用継続”の二大困難は、全体の中での共通事項であるものの、本調査では、同じ“非正規職”シングル女性の中でも、世代や就業形態、収入によってかかえている困難はさまざまであり、悩みや不安も違うことが明らかになった。

世代への着目では、若い世代ほど、初職から非正規職についている割合が高いこと、また、年代が上がるにつれ、年収が下がる傾向にあることの2点が、大きな特徴である。

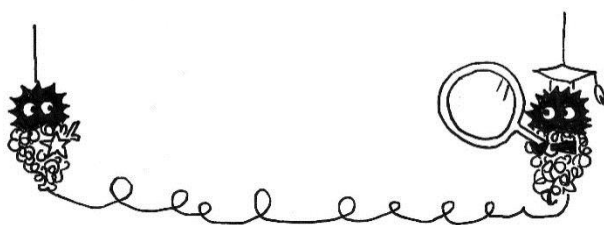
就業形態への着目では、低収入の「アルバイト・パート」、雇用契約期間の短さゆえに、雇用継続への不安感と孤立化が際立つ「派遣社員」、正社員並みの仕事量や責任に見合わない給与の「契約・嘱託」、仕事のかけもち率の高い「非常勤」、業務により休日がとりにくく、労働時間が比較的長い「業務請負・個人事業主」の状況がうかがい知れた。

このように“非正規職”シングル女性の状況は千差万別であり、サポートニーズも多岐にわたっている。

（６）ジェンダー規範とケア役割

アンケートの自由記述やグループインタビューなどからは、経済的な困難だけでなく、女性でシングルであることによって目に見えない心理的な圧迫を受けている人が少なくないことがわかった。「結婚して子どもがいて当然」、「自己責任、努力が足りなかったのでは」と言われ、精神的に傷ついた経験が語られた。

また、要援護者がいる割合は1割と高くないが、娘として、また養育する子のいない“シングル女性”として、きょうだいや親自身から介護役割を期待されている。自由記述からは、介護のために職を失いがちな状況もみられた。



第5章 課題解決に向けて

第1節 検討委員等による提言

1 「男性稼ぎ主」モデル崩壊後の、新たな女性の問題

公立大学法人福岡女子大学教授 野依智子

近年、女性の非正規問題は新たな局面を迎えている。初職が正規雇用であった女性は1997年に68.3%であったが、2002年には56.0%、2007年には45.3%と、最終学歴を終えた後、正規雇用につく割合が確実に低下している(国立女性教育会館『男女共同参画統計データブック2012』より。以下データはすべて同書による)。およそ6割近い女性が卒業後、非正規職もしくは無業となることを示している。

そもそも女性の非正規雇用率は高く、2002年には非正規雇用率が52.9%と5割を上回った。女性の非正規雇用が増加し始めるのは1980年代に入ってからであり、その多くは主婦のパート労働であった。つまり、夫の収入が家計を支えるという「男性稼ぎ主」モデルが実質として成立していた当時においては、妻の労働力は家計補助的労働として活用されたのである。すなわち、企業の賃金体系において、男性の賃金が家族を養うための「家族賃金」として成り立っていたという背景があった。

しかし、2003年の派遣労働法「改正」によって製造業における派遣労働が解禁されたことにより、男性の非正規雇用が増加する。1997年の男性の非正規雇用率は11.1%であったのが、2002年には16.3%、2007年には19.9%とおおよそ2割が非正規雇用となる。さらに2008年のリーマン・ショックによる「派遣切り」では、30代・40代の男性派遣社員が可視化され、男性の非正規問題が社会問題となった。

こうした男性の非正規雇用の増加によって、これまでの「男性稼ぎ主」をモデルとした「家族賃金」は成り立たなくなっている。これが、男女ともに未婚率が上昇している要因のひとつになっているのではないだろうか。ちなみに、1980年の35歳から39歳までの女性の未婚率は5.5%であったのが2010年には23.1%になっている。同年齢層における男性の未婚率も、1980年では8.5%であったのが2010年には35.6%になっている。つまり、男性の賃金が家族を養えるだけの賃金として見込まれなくなったことにより、結婚できない男性・女性が増加したといえよう。

このように「男性稼ぎ主」モデルが崩壊したにもかかわらず、女性の労働力は家計補助的労働という賃金体系とそれを強化する性別役割分業の規範が残っている。そのため、女性の雇用は既婚・未婚を問わず非正規雇用となっているのである。これは明らかに「男性稼ぎ主」モデルに包摂された従来の女性の非正規雇用つまり主婦のパート労働とは違う、新たな女性の非正規雇用であり、解決しなければならない問題となっているといえよう。

今回の「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」の結果は、そのことを如実に物語っているといえる。

2 非正規職シングル女性をめぐる、3つの不公平と3つの提言

一般社団法人インクルージョンネットかながわ代表理事・臨床心理士 鈴木晶子

今回調査の対象となった35歳から54歳までの非正規職シングル女性とは、社会的にはどんな存在といえるだろうか。まず、この世代の女性が従来期待されてきた役割は子育てである。政策的にみると、こうした女性たち向けに「子育て支援」が不十分ながら制度になってきた（もちろん、子育て支援は母親たる女性のみならず、父親たる男性のためでもあり、何より子どもたちの健やかな成長のためである）。

さらに、女性のキャリアという観点でみれば、社会的に成功したキャリア女性が脚光を浴び、企業における女性役員や管理職の比率をあげる政策などが提案されている。しかし、非正規職の女性たちは、こうしたキャリアアップの可能性が極めて低く、仕事の面でも政策として注目されてきていなかったといえるだろう。

一方で、社会問題として注目をあびてきたかという点、そうではない。2000年代以降、ひきこもり、ニートなどは社会的課題として認識され、極めて限定的ながらも対策がなされてきた。また、2008年年末の「年越し派遣村」以降、派遣社員など非正規雇用の問題も社会問題化していたが、その中で女性がどれだけ注目されたかといえば、十分ではなかったのではないかな。

つまり、非正規職シングル女性の問題は、従来からあった女性の社会問題の中でも、若者問題や非正規雇用のような新しい問題の中でも、十分対象となってこなかったのではないかな。しかし、彼女たちが日々粛々と働き、納税し、社会保険料を納め、社会を静かに支えてきた存在であることを見落としてはならない。

●3つの社会的な不公平・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

そこで、本調査の対象層を考えてみると、その社会的貢献に対して社会的に次の3つの不公平がクロスした位置にあるのがわかる。

- ① **働く上での待遇上の不公平**・・・正規職と非正規職の待遇格差
- ② **年代による社会保障の不公平**・・・現役世代向けの社会保障の脆弱さ
- ③ **立場による社会保障の不公平**・・・専業主婦の税制優遇・第三号被保険者問題（保険料を支払わずに済む）など、制度自体が専業主婦を前提に構築されていること

●3つの提言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

そこで、不公平を是正していくために、3つの提言をしたい。

- ① **正規職・非正規職の待遇格差の是正**・・・具体的には最低賃金の引き上げや、（適切な意味での）同一価値労働・同一賃金の実現など
- ② **所得・資産に応じた公平な税制・社会保障の実現**・・・配偶者特別控除や第3号被保険者問題など、立場別の徴税・保険料納付に関する不公平の撤廃、現役世代向けの所得に応じた住宅施策やその他現金・現物給付など、社会保障の世代間格差の是正
- ③ **誰もが持てる力を生かして働ける働き方の実現**・・・能力が特別高くなくとも、あるいは病気や障害、介護等制約があっても働ける体制

人手不足といわれる現在でも、複雑化・高度化した社会の中で厳選採用の企業姿勢は変わらない。それも、ますます求められる能力は高くなりつつある。が、そもそも人には個人差があり、社会はそれほど突出した能力を持つ人ばかりで構成されているわけではない。それぞれの働き方を保障する新たな体制を築いていかなければ、早晚社会全体が行き詰まってしまうだろう。不公平を是正していく取り組みが、今、必要とされている。

3 安心で安全な場づくり、そして社会通念の変革を！

キャリア・カウンセラー 錦戸かおり

「就職活動をしなくてはいけないことはわかっているのです。でも求人をつらつら眺めているだけで、その先にどうしても進めないのです。」

これは非正規職で働いているクライアントから、とても多く耳にする言葉です。何度も何度も面接に行っては落とされ、それでも自分を奮い立たせてまた履歴書を作り、やっとのことで面接にたどり着く。そして言われる…。「何でこんなに転職しちやったのかな」

「何で正社員にならなかったの？ もっと頑張れたんじゃないの？」、「なんで結婚しないの？」
一つ一つの言葉が、釘のように心に突き刺さります。就職活動をしなくてはいけないのがわかっていても、どんどん自信をなくし、からだは鉛のように重くなっていきます。せっかく内定が出ても「こんな私に内定を出したのだから、ブラック企業かもしれない…」と不安になります。

●問題の背景～「社会通念」と「時代背景」・・・・・・・・・・・・・・・・

彼女たちは頑張らなかつたから、非正規職でいるわけではありません。私が知っている限り、みんなとても努力家で、勉強熱心です。では何が背景にあるのでしょうか？

理由は2つあると思います。

まずひとつは、社会通念です。「女性はいつか結婚する」、「結婚すれば夫が食べさせてくれる」。このような社会通念が女性の年収を引き下げ、正社員になる機会を低減させました。

もうひとつは、時代背景です。30代の女性については、調査結果にもあるように初職から非正規の割合がとて高いのが特徴です。その背景には就職氷河期や超就職氷河期がありますが、それは男性も同じです。ただ男性に比べて女性は、前述の社会通念のせいで不利だったことは否めません。

また、40代後半～50代前半の女性については、時代背景として派遣が花盛りだったということがあります。その時代の派遣は、個人と企業がお互いのニーズによって「時間」と「スキル」と「働く場」を提供しあうとてもウィンウィンなシステムで、正社員を辞めて派遣スタッフになる人も多い時代でした。しかしバブルが崩壊し、いつか正社員にと思っていたうちに、非正規職のまま仕事をせざるを得なくなった人も多くいます。

派遣で働く人の不満の多くは、彼女たちが正社員と「近い立ち位置」で、「近い仕事」をしていることから生まれていると思います。給与の面でも、教育の面でもどうしても正社員と比較できてしまう場面が多いのです。2000年代、リストラが進む中で正社員が退職する際に、その業務の

第5章 課題解決に向けて

引継ぎを派遣社員が行うことが多かったことが背景にあります。正社員の中で一人だけ派遣社員として働く人も多く、彼女たちからの相談内容には「社員と一緒に昼を食べても、うわべだけの話になってしまってつらい」といったことが多く語られます。相談相手もなく、孤立化が進んでいます。

●安心で安全な場を。そして社会通念の変革を！・・・・・・・・・・・・・・・・

社会通念や時代背景から、努力をしても安心して働ける職場を得られない人が増え、自信をなくし、どんどん萎縮していく社会がとても心配です。彼女たちが安心して暮らせるように、少なくとも就職活動が恐怖の場なくなるために、できることから始めたいものです。

自信を失っている彼女たちが萎縮しないですむ場所が必要です。自由な発言ができ、結論を求められない場所。同じ立場だからこそ、ちょっと泣き言を言っても許され、気持ちがわかってもらえる、そんな場所が彼女たちの「もう少しやってみよう！」という気持ちを育ててくれるでしょう。

少しエネルギーがある人は、自分でそのような場をつくれるかもしれません。大いに期待しています。でも、今はそのエネルギーがない人のために、私たち支援者が、そのような場を提供していきたいと思います。

また、社会通念ももっと速いスピードで変えていかなければいけません。頭では理解できている人はとても多いと思いますが、残念なことに実際の面接では冒頭のような発言が男女関係なく、まだまだ多く出現しています。

私は女性のキャリア・カウンセリングを25年間行ってきましたが、そんななかで漠然と感じていたことを、この調査は可視化してくれました。なかなか主張する場がなかった彼女たちに、心の叫びを届ける場ができたことはとても意味があることだと思います。せつかく届けてもらった叫びを生かしていかなければいけません。粛々と進みたいと思います。

第2節 検討結果のまとめ

1 当事者が望む3つのこと

本調査の結果から、根本的に制度の改革が不可欠であり、その上で現在はまだない、一人ひとりの多様なニーズと生活時間、体調によりそう、きめ細かなサポートが求められていることがわかった。そしてそれらのサービスは当事者の力を活かすかたちでつくることが望まれていた。当事者の望むことは、大きく分けて次の3点であった。

① 社会の風潮や制度の改革

「一時的・部分的なサポートでは困難な状況を生み出す現状を変えることはできない。行政には構造の問題を広く知らしめることで、根源的な解決につなげる政治への橋渡し役を期待したい」という回答に象徴されるように、「サポートプログラム」以前にまず、障壁となっている「社会の風潮や制度の改革」を推進してほしいという声が顕著であった。

（例）・最低賃金を上げる、求人の年齢差別をなくす、非正規職の待遇改善、主婦との税金・社会保険料の格差をなくす、生活保護等福祉サービス利用への偏見をなくす、結婚や出産を体験しない女性への偏見をなくす、女性への家事・介護負担の偏りをなくす

② 具体的なサポートプログラム

今後の希望では、7割が「収入を増やしたい」をあげた。そのための具体的なサポートとして、スキルアップの場や職業訓練・資格取得支援が望まれている。そのほかにも、交流の場、相談まで、多岐にわたるニーズがあがった。それらは年齢層・年収・就業形態等の属性により異なっていた。相談は縦割りではなく総合的な窓口であること、すべてのプログラムは休日や夜間などにも利用できること、低料金であることが望まれている。さらに「上から目線や、現実を知らない相談員でなく」という声も複数あった。

（例）・活動：職業訓練・資格取得、スキルアップ、企業とのマッチングの場、心身がリフレッシュできる場

- ・住まい：低家賃の住まい・家賃補助、公営住宅の優先入居、ルームシェアや住人マッチング
- ・相談：不安な気持ちをただ聴いてくれるサービス、非正規職・シングル・女性のためのキャリア・カウンセリング、シングル女性に特化したハローワーク、税金・健康・キャリアアップ等の総合相談窓口、親の介護と仕事の相談、健康相談・健康診断、個人事業主のための相談

③ 同じ立場の人のつながり

つながりをつくるための場づくりへのニーズは高く、受け身ではなく主体的に場をつくっていきたいという声も少なくなかった。集まりに参加する時間的ゆとりがないことから、「ネット上の交流」、「交流・サポート情報サイト」へのニーズも高かった。

（例）・同じ経験をしている仲間と出会い、わかちあうしくみ、おしゃべり会、交流サイト、現状が「ふつう」ではないと気づく機会、ネットワークづくり、それらを自分たちが主役となっていくこと

2 社会的支援の土台は社会構造の把握と提言・発信

本調査では「非正規職・シングル・女性」というこれまで可視化されなかった対象層に光をあてることで、社会構造全体のゆがみがより顕著に見えてきた。激変した社会の中で、就職氷河期以降、とくに若い世代の直面する不安定な仕事と暮らしの困難が見えてきた。親や夫に扶養されるのではなく、働いて納税し、自らの暮らしを支える一人の自立した労働者として、労働への正当な対価を求める女性たちの姿が浮き彫りになった。

日本で非正規労働問題が議論の遡上にのぼってこなかったのは、その多くがいわゆる主婦パートで、夫に扶養される既婚女性だったからといえる。2004年に製造業における派遣労働が解禁されたことで、女性のみならず男性の非正規雇用が増加し、2007年には男性労働者の約2割が非正規雇用となった。2008年の「派遣切り」問題では、男性の非正規雇用化が社会問題となった。もはや夫の収入が家計を支え、妻の労働力が家計補助として活用される「男性稼ぎ主」モデルは、成り立たない。にもかかわらず、女性の労働は家計補助的労働という賃金体系とそれを強化する性別役割分業の規範が、女性を非正規職のまま“活用”し続ける現状につながっているのではないか。

したがって、非正規職シングル女性の社会的支援を考えるならば、まずは社会構造の把握と改革が必要である。旧来の日本の社会構造を変えずに、何らかの支援プログラムを実施しただけでは、根本的な課題解決にはつながらない。当事者の切迫する現実を踏まえ、改革に向けた提言や発信を行っていかねばならない。これは、非正規職シングル女性だけを支援すべきということではない。正社員になっても過労でからだをこわすような、男性にとっても命を削るような働き方を改める“働き方改革”の必要性は、社会全体の中でも高まっている。

本調査の後、わたしたちがめざす方向性については、検討委員の鈴木晶子さんの提言を引用して、締めくくりたい。

「非正規職シングル女性をめぐる、3つの不公平がある。①働く上での待遇上の不公平、②世代による社会保障の不公平、③主たる生計者である夫がいるかどうかによる社会保障の不公平。これらを是正するために、3つの提言をしたい。①正規職・非正規職の待遇格差の是正、②所得・資産に応じた公平な税制・社会保障、③障がいや介護等制約があっても、能力が特別高くなくても、だれもが持てる力を活かして働ける働き方の実現、である」

こうした提言と発信をしていくと同時に、非正規職シングル女性の声と力を活かして、役に立つ具体的なサポートの場やプログラムを、つくっていくべきであろう。男女共同参画センターがさまざまな社会資源とつながり、サポートの場やプログラムをつくっていくことは、当事者の社会的孤立や貧困を防ぐのみならず、地域の新たなセーフティーネットとなり得るだろう。

おわりに

最後に、調査に回答してくれた女性たちに敬意を表し、心より御礼申し上げたい。一人ひとり、困難な状況のなかをサバイバルし、その現実について、長い調査票に克明に記入してくださった。グループインタビューにも参加いただいた。調査の集計と分析をする上で、当事者のあふれる想いをどう受けとめ、可視化していったらいいのか、調査者としても検討を重ねてきた。

インタビュー参加者から後日届いたメールには、次のように書かれていた（本人の了解を得て掲載）。

「新聞の小さな記事から、グループインタビューに参加し、同じような悩みを持っている仲間に出会えました。お互いの経験談に共感し合えたことが、私に行動するきっかけを与えてくれました。“同じように肩身の狭い思いをしている人同士、気軽に参加できる交流会や掲示板など作れたらいいね”、“バンバン取材協力して、問題を広めようね”と言っています。今後、対策や支援事業などを検討するときにはぜひ協力したいです。

まじめに働いて資格や職務経歴もある方たちがたくさんいます。“非正規職シングル女子”が社会から孤立している現状を少しでも良くしたい」

みなさんの参加を得て、かつ研究者や支援者、メディア、シンクタンク、それぞれの現場の方たちとチームを組んで本報告書を編めたことに感謝する。

まさにこれから、地域のセーフティーネットをともに編んでいきたい。



資料編

1 調査の検討・告知の経過

(1) 検討会の開催

回	開催日	検討内容
第1回	2015年7月24日(金)	支援の方向性、対象層、ウェブアンケートについて
第2回	2015年9月11日(金)	ウェブアンケート調査の項目、告知について
第3回	2015年11月20日(金)	調査分析結果について
第4回	2016年1月8日(金)	調査報告書、報告会について

(2) 告知活動

●ワークショップ・プレスリリースなど

2015年 8月20日	NWEC（国立女性教育会館）「男女共同参画推進フォーラム」にて、 ワークショップ「非正規で働く 35 歳以上のシングル女性の現状と支援のあり方を考える」出展（参加者約 30 名）
9月29日	ウェブアンケート調査の告知（プレスリリース）
10月4日	フェイスブック&ツイッター「非正規職シングル女子しごとと暮らしの研究」開設
10月14日	横浜 関内にて、NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ共催 政策デザイン勉強会「非正規職シングル女性の悩みと社会的支援を考える」を開催 （参加者約 20 名）
2016年 1月27日	中間報告リリース（ウェブサイト上に掲載）
2月 6日	横浜 調査報告会実施：男女共同参画センター横浜（参加者約 60 名）
2月27日	大阪 調査報告会実施：クレオ大阪中央（参加者約 40 名）
3月	調査報告書【概要版】発行（印刷配布およびウェブサイト上に掲載） 調査報告書 発行（ウェブサイト上に掲載）

●メディアにおける調査告知

掲載日	媒体名	記事タイトル
2015年 10月20日	毎日新聞（神奈川版）	非正規・未婚女性 支援ニーズ探る WEB アンケ実施中 横浜市男女共同参画推進協会／神奈川
10月24日	東京新聞	非正規シングル 女性の悩みは 孤立・貧困防止に支援を
10月28日	【ウェブ】 HUFFPOST Japan （ハフィントン・ポスト日本版 ～社会）	谷間の世代の暮らしと仕事の実情とリスクとは？ 「非正規職シングル女性（35-54 歳）の社会的支援に向けた ニーズ調査」実施中（執筆：鈴木晶子委員）
10月29日	【ウェブ】 cyzo woman （サイゾーウーマン）	注目されてこなかった世代に光を 非正規職アラフォー独身女性の不安とは？ 調査から見える厳しい生活の実情（執筆：鈴木晶子委員）
10月30日	朝日新聞 （全国版）	非正規女性の実態はウェブ調査中 きょうまで

●メディアにおける調査結果報道

掲載・放映日	媒体名	記事タイトル
12月 3日	【ウェブ】Wotopi （ウートピ）	非正規シングル女性への調査担当者インタビュー（前編） 非正規雇用の独身女性は「半数が貧困状態」 行政が見落とす、支援すべき存在
12月 4日	【ウェブ】Wotopi （ウートピ）	非正規シングル女性への調査担当者インタビュー（後編） 非正規雇用の独身女性「親が死んだら暮らしていけない」 調査で判明した彼女たちの不安
2月18日	NHK「あさイチ」	【どうなの？ヤナギー】非正規で働くシングル女性
2月24日	朝日新聞（東京）	非正規・独身女性 将来に不安 切実 35～54 歳調査 年収 250 万円未満が 7 割
2月24日	朝日新聞（大阪）	非正規・独身 女性の困窮 子いない 35～54 歳 孤立感
2月25日	朝日新聞（大阪）	非正規・独身女性 支援のカギは 悩み共有の場ほしい/雇い止め恐れ、意見言えず 「制約あっても働ける人 採用を」 不用意な言葉 傷つけている（錦戸かおりさんインタビュー）
2月26日	【ウェブ】 日経ウーマン オンライン	増える「非正規シングル女性」、 約 7 割が年収 250 万円未満
2月28日	神奈川新聞	非正規職シングル女性調査 社会構造に根強い問題
3月14日	大阪日日新聞	「総活躍」に物申す 声なき多数者 抱える不安 政府対話集会
3月16日	社会新報	非正規シングル女性の社会的支援へ 仕事や孤独、住まいへの不安の声
3月18日	朝日新聞（大阪）	（この人に聞きたい 雇用とくらし：6） 植野ルナさん 非正規・独身女性の支援は？
3月29日	読売新聞	WOMEN&WORK 厳しい「非正規・未婚」 低収入で不安定な暮らし

2 ウェブアンケート調査票

非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査

現在、働く女性のうち非正規雇用者の割合は6割に上り、なかでも、非正規職で働く35歳以上のシングル女性が増加しています。年齢的に正規雇用への登用もされづらく、生活の不安や親の介護、自身の病気・体力の低下などの課題に直面される声も聞こえてくるようになりました。

そこで、このたび非正規職シングル女性のしごとや暮らしの状況、困難や希望などを明らかにし、社会的支援を考えるため、アンケート調査を行います。

【対象者】

35歳～54歳(2015年10月3日現在)の非正規職シングル女性で、横浜市・大阪市・福岡市と、その周辺に住む方。婚姻歴は不問です。

※非正規職とはアルバイト、パート、派遣社員、契約社員等の方。個人事業主や業務請負など、雇用契約ではない方も含めます。現在失業中の方でも、直近1年間で、非正規で半年以上働いている方は含めます。

※シングルマザーについては各種調査データがすでに存在するため、今回は含めません。

【調査結果の報告】

- ・2016年1月に結果概要版をウェブ上で公開し、同年3月末には報告書を発行します。
- ・報告書の記載については、自由記述等により個人が特定されることはありません。

なお、調査目的や趣旨についての詳細は[こちら](#)をごらんください。(リンク先省略)

※チェック数の指定がない場合の選択数は1つ

(1) あなた自身について

Q.1 あなたの年齢をお答えください。

歳

Q.2 あなたの居住地をお答えください。

横浜市／大阪市／福岡市／その他(都道府県・市町村名)

Q.3 あなたの最終学歴をお答えください。

中学卒業／高校卒業／高校中退／専門学校卒業／専門学校中退／短大卒業／短大中退／大学卒業／大学中退／大学院修了／大学院中退

Q.4 あなたは、これまでに結婚(事実婚を含む)をしたことがありますか。

ある／ない

Q.5 15歳(中学卒業)時点で、同居していた方はどなたですか。あてはまる人をすべてお答えください。

父／母／祖父／祖母／兄弟姉妹／友人／いなかった(一人暮らし)／その他

(2) 現在の暮らしについて

Q. 6 あなたの住居費は以下のうち、どれですか。

持ち家（自分が全額負担）／持ち家（自分が一部負担）／持ち家（家族が全額負担）／
賃貸住宅（自分が全額負担）／賃貸住宅（自分が一部負担）／賃貸住宅（家族が全額負担）／その他

Q. 7 現在、あなたが同居している方はどなたですか。あてはまる人をすべてお答えください。

父／母／祖父／祖母／兄弟姉妹／兄弟姉妹の子ども(甥姪)／友人／いない(一人暮らし)／その他

Q. 8 現在、あなたが介助・介護しなければならない人はいますか。

いる／いない ※「いる」場合→それはどなたですか。(例：祖母、姉の子ども)

Q. 9 あなたの年収(税込)は、おおよそどれくらいですか。仕事から得られる収入のみでお答えください。

50 万円未満／50～100 万円未満／100～150 万円未満／150～200 万円未満／200～250 万円未満／
250～300 万円未満／300～350 万円未満／350 万円以上

Q. 10 あなたの世帯の主な家計収入は何ですか。主なものを3つまでお答えください。

自分の勤労収入／勤労収入以外の収入(株・貯金等)／家族の勤労収入／家族の年金／その他

Q. 11 あなたは日ごろ、どのような手段で情報を知ったり、集めたりしていますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

インターネット／テレビ／ラジオ／新聞／その他

※「インターネット」と回答した場合→インターネットでどのように情報を知ったり、集めたりしていますか。
あてはまるものをいくつでもお答えください。

情報を検索する／関心のあるサイトを直接見る／facebook をする／twitter をする／
ニュースサイト(アプリ)を見る／動画サイトを見る／その他

Q. 12 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。

満足している／まあ満足している／やや不満だ／不満だ／どちらともいえない

Q. 13 あなたは現在、経済的にゆとりがありますか。

ゆとりがある／ある程度ゆとりがある／あまりゆとりがない／ほとんどゆとりがない／どちらともいえない

Q. 14 あなたは、日ごろの生活の中で、休んだり、好きなことをしたりする時間のゆとりがありますか。それとも、仕事や家事、学業などに精一杯で、時間のゆとりがありませんか。

ゆとりがある／ある程度ゆとりがある／あまりゆとりがない／ほとんどゆとりがない／わからない

Q. 15 日ごろの生活の中で、充実感を感じるのは、主にどのようなときですか。以下からあてはまるものを、いくつでもお答えください。

仕事にうちこんでいるとき／勉強や教養などに身を入れているとき／趣味やスポーツに熱中しているとき／
ゆったりと休養しているとき／家族団らんするとき／友人や知人と会合、雑談しているとき／
社会奉仕や社会活動をしているとき／わからない／その他

Q. 16 現在、あなたが感じている悩みや不安はどのようなことについてですか。いくつでもあげてください。

健康／住まい／仕事／独身であること／老後の生活／親・家族との関係／職場の人間関係／友人との関係／
家族の世話・介護／ローン・負債／とくにない／わからない／その他

Q. 17 Q. 16 でチェックを入れた中で、もっとも悩んだり、不安に感じていることはどのようなことですか。よろしければ具体的に書きください。(400 字以内)

Q. 18 あなたは悩みや不安があるとき、主に誰に相談していますか。3つまでお答えください。

親／兄弟・姉妹／親族／恋人／友人／職場の同僚・上司／カウンセラー／医者／民間の相談機関／
行政の相談機関／相談相手はいない／その他

(3) 仕事について

Q. 19 学校を卒業（中退）したあと、最初についた仕事の就業形態は、どれにあてはまりますか。

正社員・正規職員／契約・嘱託／派遣社員／パート・アルバイト／非常勤／自営業手伝い／業務請負／
個人事業主／その他

Q. 20 学校を卒業（中退）したあと、最初についた仕事の職種はどれにあてはまりますか。

事務職／営業職／専門・技術職／医療・福祉職／教育職／接客・販売／現業（工場、清掃、軽作業等）／
農・林・漁業に関わる職／その他

Q. 21 現在のあなたの仕事の就業形態は、以下のどれにあてはまりますか。複数の仕事をしている人は、メインの仕事についてお答えください。

契約・嘱託／派遣社員／パート・アルバイト／非常勤／自営業手伝い／業務請負／個人事業主／
その他

Q. 22 現在のあなたの仕事の、雇用契約の期間は、以下のどれにあてはまりますか。複数の仕事をしている人は、メインの仕事についてお答えください。

1日／1ヵ月未満／1～3ヵ月未満／3～6ヵ月未満／6ヵ月～1年未満／1～3年未満／3～5年未満／
その他

Q. 23 現在のあなたの仕事の職種は、以下のどれにあてはまりますか。複数の仕事をしている人は、メインの仕事についてお答えください。

事務職／営業職／専門・技術職／医療・福祉職／教育職／接客・販売／現業（工場、清掃、軽作業等）／
農・林・漁業に関わる職／その他

Q. 24 あなたは現在、複数の仕事をかけもちしていますか。

している／していない

Q. 25 あなたの1週間あたりの実労働時間は、どれくらいですか。複数の仕事をしている人は、合計した時間をお答えください。

10時間未満／10～20時間未満／20～30時間未満／30～40時間未満／40時間以上／決まっていない

Q. 26 就業に際して、これまでに利用した支援機関はなんですか。いくつでもお答えください。

職業訓練／教育訓練給付／行政の講座・相談等／民間団体の講座・相談等／ハローワーク／
男女共同参画センター／若者就労支援機関／利用したことがない／その他

Q. 27 あなたが非正規職についている理由はなんですか。あてはまるものを、いくつでもお答えください。

正社員として働ける会社がなかったから／家庭の事情を優先しなければならなかったから／
体力的に正社員として働けなかったから／組織や人間関係にしばられたくなかったから／
専門的な資格・技能を活かせるから／勤務時間や労働日数が少ないから／
簡単な仕事で責任も少ないから／その他

Q. 28 あなたが現在感じている、仕事に関する悩みや不安はなんですか。あてはまるものを、いくつでもお答えください。

雇用継続（解雇・雇止め）の不安／収入が少ない／人間関係／セクシュアル・ハラスメント／
パワー・ハラスメント／実労働時間が長い／実労働時間が短い／休日が取れない／サービス残業／仕事過重／
教育・研修がない／資格が生かせない／仕事の内容が自分に合わない／とくにない／その他

Q. 29 Q. 28 の中で、とくに悩んだり、不安に感じていることはどのようなことですか。よろしければ具体的にお書きください。（400字以内）

(4) 今後に向けて

Q. 30 あなたが今、望んでいることやめざしたいことはなんですか。あてはまるものを、3つまでお答えください。

今の職場で働き続けたい／転職したい／正社員になりたい／収入を増やしたい／
やりがいのある仕事をしたい／ゆっくりペースで働きたい／少し休みたい／生きがいをみつきたい／
結婚したい／子どもが欲しい／家を出たい／資格を取得したい／とくにない／その他

※「資格を取得したい」場合→どんな資格を取得したいですか。

Q. 31 今後、利用してみたいサポートや参加してみたい場は、ありますか。いくつでもお答えください。

職業訓練・資格取得支援／行政の講座・相談等／民間団体の講座・相談等／福祉的支援／
同じ立場の人たちとの交流の場／企業や仕事とのマッチングの場／仕事に必要なスキルアップの場／
心身がリフレッシュできる場／話を聞いてもらえる場／非正規職シングル女性の交流サイト／
メール相談／住まいの支援／とくにない／その他

※「福祉的支援」を選んだ場合→どのような福祉的支援を利用してみたいですか。

さしつかえなければお書きください。

Q. 32 利用したいサポートや交流の場などがあったとして、あなたが参加できそうな曜日や時間帯は、いつですか。
あてはまるものを、いくつでもお答えください。

平日の午前／平日の午後／平日の夜間／土日祝日の午前／土日祝日の午後／土日祝日の夜間／わからない

Q. 33 社会の中でこんなサポートがあったらうれしい、というようなご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。(600字以内)

※最後に、横浜市、大阪市、福岡市でこれから実施するグループインタビューにご協力いただける方は、メールアドレスをお書きください。11月以降にご連絡いたします。

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

3 グループインタビュー同意書

「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」 グループインタビューにあたって

調査団体：

調査年月日： 年 月 日

＜グループインタビューの目的＞

2015 年 10 月、当協会では、非正規職で働くシングル女性の抱える困難や希望を明らかにし、地域ニーズに合った社会的支援を作っていくため、WEB アンケートによる調査を実施しました。このたび、調査報告書の作成および社会的支援策の検討のため、回答者の皆様からさらに詳しいお話をお伺いしたく、グループインタビューを実施します。今後、男女共同参画センターで、非正規職シングル女性に役立つプログラム開発に役立てていきます。

＜調査結果の公開について＞

お聞きした内容については個人が特定できない形にまとめ、2016 年 3 月に作成する報告書に掲載させていただきます。

同 意 書

（調査内容とあなたの権利について）

- 1 この調査では、あなたがこれまでに経験されたことや、現在感じていること、これから希望することなどをお聞きします。
- 2 答えたくない質問には答えなくてかまいません。
- 3 話された内容は個人が特定されない形にまとめ、報告書に掲載します。話された内容については、「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」の目的以外に使われることはありません。
- 4 原稿作成時の確認のために、いったん録音しますが、報告書作成後は必ず消去・廃棄します。

○調査員 ○○○○○、△△△△△、□□□□□

●調査協力者 私は 1～4 までを調査員から確かに伝えられ、同意しました。

年 月 日

署 名：

【確 認】

今後、メディア等からの取材依頼があった際や 当協会が実施する事業について協力をお願いしたい場合に、あなたの連絡先（メールアドレス・電話番号）に、当協会から連絡を差し上げてもよろしいでしょうか？

☐ 連絡してもよい☐ 連絡しないでほしい



イラスト：ナガノ ハル

非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書

発行年月	2016年3月
執筆	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会
調査業務支援	株式会社 ティーアールアイ
発行者	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会 一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会 公立大学法人 福岡女子大学 野依智子
事務局	公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課 住所：〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町 435-1 電話：045-862-5141 E-mail：swomen@women.city.yokohama.jp http://www.women.city.yokohama.jp/ https://www.facebook.com/swomenlab (非正規職シングル女子のしごとと暮らしの研究 facebook ページ)
